

(2) 中項目2「教育内容等に関する目標」の達成状況分析

小項目の分析

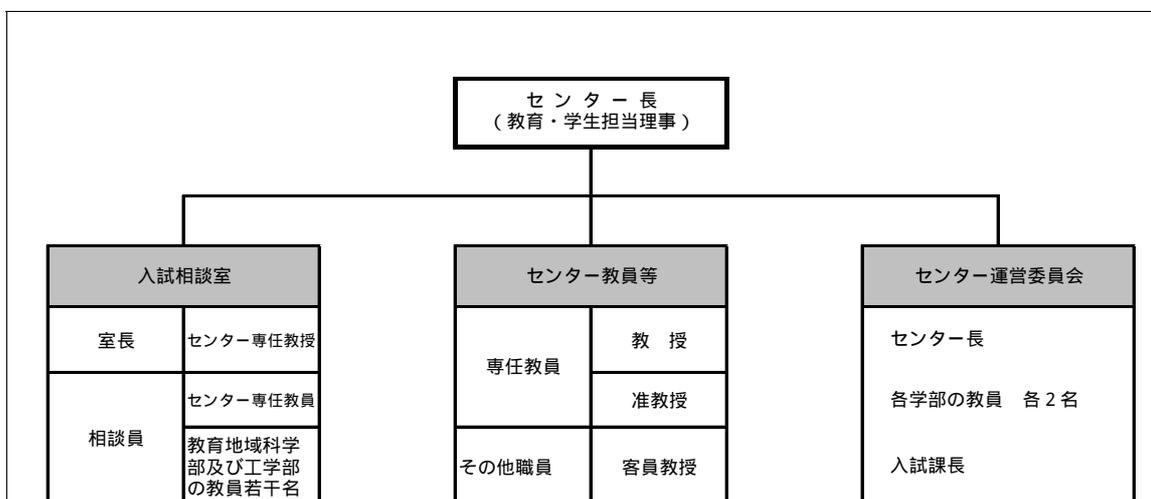
小項目1「各学部のアドミッション・ポリシーの策定を行い、その学内外への公表と周知を図り、それに相応しい学生受入れのシステムの構築を目指す」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 1-1「アドミッションセンターの整備を図り、入試方法の点検と改善を図る。」に係る状況

アドミッションセンターでは、専任教員2名に加えて平成17年度に元高校長を客員教授として採用し体制を整備した【資料1-1-1】。同センターでは入学者選抜方法研究委員会と連携し、入試方法の調査・検討、学業成績追跡調査、体験入学や入学前教育の企画・意見聴取等を行い、入試方法点検・改善に資するための基礎資料を積極的に収集した。その資料を参考にし、各学部では入試方法を適宜改善した【P90 資料1-1-2】。

資料 1-1-1 アドミッションセンター機構図



平成14年4月 アドミッションセンター設置（センター長は工学部教授の併任）

平成17年4月 客員教授1名配置

平成18年4月 センター長は理事(副学長)教育・学生担当の併任

アドミッションセンターの主な業務

入学者選抜に関する調査・研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試の形態・内容・方法などの検討</li> <li>・選抜方法と評価基準の改善</li> <li>・入学者選抜のあり方についての研究</li> <li>・入学後の学生の各種追跡調査、アンケート調査の実施と分析</li> <li>・入学者選抜に関する実践的研究</li> <li>・AO入試合格後のスクーリング、入学前教育</li> <li>・入試一般についての動向の把握、情報提供</li> </ul>
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校訪問や進学説明会等での本学のアドミッション・ポリシーの浸透</li> <li>・入試情報の提供</li> <li>・入試相談室及びオープンキャンパス時に入試相談コーナーを開設</li> </ul>
高大連携に関する研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試、教育、研究の広報を主眼とした高大連携活動</li> <li>・高等学校が主導するスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業への協力</li> </ul>

(事務局資料)

資料 1-1-2 調査検討結果のフィードバック例

平成 13 年度から県内理数科 3 校の体験入学を実施・・・学内教員のアンケート調査結果，この 3 校に限らず志願者の多い高校まで枠を拡大して実施したい。

平成 19 年度：この調査結果を踏まえて，県内 6 校（北陸，羽水，勝山，武生，敦賀，若狭）に枠を拡大して実施した。

その結果・・・平成 20 年度 A0 入試では，この体験入学に参加した生徒のうち，58 名の志願者があった。（平成 14～19 年度 A0 入試では，県内理数科からの志願者は 5 名未満であった。）

（事務局資料）

各学部ではそれぞれのアドミッション・ポリシーを策定し，それらに応じた多様な入学者選抜方法を実施している【資料 1-1-3】。特に，工学部では受験生からの期待に応え名古屋試験場を平成 18 年度に設置したことにより少子化，工学離れの中，平成 20 年度の一般選抜の志願倍率は，過去 5 年間で最高（5.5 倍）となった【P91 資料 1-1-4】。また，医学部では社会ニーズに対応して推薦入試に地域枠特別選抜を平成 19 年度から導入した【P91 資料 1-1-5】。

資料 1-1-3 各学部が実施している入学者選抜方法の種類

一般選抜	前期日程	全学部
	後期日程	
特別選抜	推薦入学	教育地域科学部 医学部
	推薦入学	教育地域科学部 医学部
	帰国子女	教育地域科学部 工学部
	中国引揚者等子女	工学部
	私費外国人留学生	教育地域科学部 工学部
A0入試	A0入試	教育地域科学部 工学部
	A0入試	工学部

【学部編入学】

編入学	学士（2年次）	医学部医学科
	3年次	医学部看護学科
	3年次（推薦）	工学部
	3年次（一般）	

（事務局資料）

資料 1-1-4 工学部前期日程名古屋試験場の状況

区分	平成 17 年度			平成 18 年度			平成 19 年度			平成 20 年度		
	募集数	志願者	倍率	募集数	志願者	倍率	募集数	志願者	倍率	募集数	志願者	倍率
工学部一般選抜(前期日程・後期日程)の志願者数の推移	430	2,107	4.9	423	2,193	5.2	423	1,970	4.7	431	2,365	5.5
前期試験場別志願者数	平成 18 年度より名古屋試験場を設置			志願者	割合	志願者	割合	志願者	割合	志願者	割合	
				福井	412	54%	377	59%	407	52%		
				名古屋	348	46%	262	41%	369	48%		
				計	760		639		776			

(事務局資料)

資料 1-1-5 医学部における「地域枠」入試の導入

## 医学部推薦に地域枠 来年度の入試要項を発表

福井大は二十日、二〇二〇年度の入学者選抜要項を発表した。医師不足に対応し医学部医学部の推薦入試に「地域枠」を新たに設ける。三学部合わせた募集定員は八百四十人で本年度と変わらない。

学部別の定員は、教育学部百五十五人、工学部百五十五人、医学部百五十五人。医学部の推薦の地域枠は、推薦定員二十人のうち五人以内を募集。都市部への医師の集中や特定診療科の医師不足に伴い、県内でも医師充足率の低下がみられるなか、地域医療に貢献する目的。

福井大は二十日、二〇二〇年度の入学者選抜要項を発表した。医師不足に対応し医学部医学部の推薦入試に「地域枠」を新たに設ける。三学部合わせた募集定員は八百四十人で本年度と変わらない。

対象は県内の高校を卒業見込み、または〇七年三月に卒業し、大学卒業後に県内で医師となる強い意思があるか、嶺南医療振興財団の実施する医学部生奨学金に応募する人。ほかの主な変更点は、工学部機械工学科のAO入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない)の定員を十七人から五人減らし、AO入試Ⅱ(センター試験を課す)に移動。材料開発工学科のAO入試の定員を五人減らし、一般選抜前期日程の定員を四十人から四十五人に増やす。物理工学科は前期日程の定員二十人を十五人に減らす。教科教育専攻はこれまでの十の専攻を八の領域に再編し、二十五人を募集する。教職大学院の定員三十人を合わせた同研究科全体の募集人員は六十七人で本年度と変わらない。

改組は、教職大学院の認可が下りる十一月に正式決定するため定員を除き現在の専攻専修での募集となる。願書受け付けは九月十日から同十三日。試験は二十九日に行われ、十月十日に合格発表する。八月五、二十六日の午後一時から、文京キャンパスで入試説明会が行われる。

正式な要項は推薦が九月下旬、一般選抜が十月月上旬に発表する。八月九日に松岡(医学部)、同日に文京(教育地域科学部、工学部)でオープンキャンパスを開く。また同大は、来年度の大学院教育学研究科(修士課程)の募集要項を発表した。来年四月スタートを目指している教職開発専攻(教職大学院)の設置に伴う教育学研究科の改組で、学校教育専攻と障害児教育専攻を一本化した学校教育専攻に十人を募集。教科教育専攻はこれまでの十の専攻を八の領域に再編し、二十五人を募集する。教職大学院の定員三十人を合わせた同研究科全体の募集人員は六十七人で本年度と変わらない。

(「平成 19 年 7 月 21 日福井新聞掲載：福井大学入試要項発表記事」より)

計画 1-2 「【学士課程】大学説明会，ホームページ等を通してアドミッション・ポリシーの浸透を図る。」に係る状況

各学部で策定したアドミッション・ポリシーを積極的に周知するため，体験入学，高校訪問，進学ガイダンス・入試相談会及び名古屋・大阪地区説明会等を定期的を実施した。さらに平成 17 年度から両キャンパスでオープンキャンパスを開始し，毎年約 1,300 名が参加している【資料 1-2-1～2】。

資料 1-2-1 大学説明会等の開催状況

オープンキャンパス（大学説明会）

年度	キャンパス（開催日）	参加人数
17	松岡キャンパス(8/2)	216
	文京キャンパス(8/4)	1,046
	計	1,262
18	松岡キャンパス(8/4)	189
	文京キャンパス(8/10)	1,202
	計	1,391
19	松岡キャンパス(8/9)	247
	文京キャンパス(8/10)	1,051
	計	1,298

体験入学（工学部）

年度	実施日	受講者数	備考
16	8/19～20	117	高志・武生・若狭高校 の理数科生徒対象
17	8/19～20	113	
18	8/21～22	110	
19	8/20～21	129	対象拡大

高校訪問

年度	派遣回数	派遣教員数
16	21	84
17	32	85
18	18	50
19	19	62

（事務局資料）

資料 1-2-2 東海地区での説明会等

受験者の多くを占める東海地区における更なる知名度の拡大を目指すため、JR東海中央線・千種駅に福井大学広告看板を設置した。また、県内私鉄の主要駅及びバス停留所付近に、入試ポスター・各種講習会の開催案内等を掲示するなど、情報発信に努めた。



大学説明会の開催



福井大学広告看板の設置

(事務局資料)

大学及びアドミッションセンターの入試ホームページに加えて、平成18年度より携帯電話総合サイトを設置し、アドミッション・ポリシーを含め入試情報の周知に努めた【資料1-2-3~4】。

資料 1-2-3 アドミッション・ポリシーなど入試情報のホームページによる公開

The screenshot shows the website interface for the University of Fukui. At the top, there is a navigation bar with links for 'English', 'Site Search', and various campus services. Below this is a main menu with categories like 'Introduction', 'Admissions', 'Education/Campus Life', and 'Research'. The main content area is titled 'Admissions Policy (for prospective students)' and is organized into sections: '1. Faculty of Education, Regional Science' and '(1) Common to Faculties'. Under '(1) Common to Faculties', there are two numbered points describing the university's commitment to education and student development. Below this is '(2) Courses', which lists 'Language Education Courses' with detailed descriptions for Japanese and English education sub-courses, including specific goals and target student profiles for each.

(本学ホームページ)

資料 1-2-4 携帯電話総合サイト「がんばれ国公立大学受験生」福井大学サイトのアクセス数

サイトへのアクセス数（平成 18 年度開設）

平成 18 年度入試			平成 19 年度入試		
	月 別	日 別		月 別	日 別
4 月	-	-	4 月	613	20
5 月	-	-	5 月	987	32
6 月	-	-	6 月	1,524	51
7 月	-	-	7 月	2,226	72
8 月	-	-	8 月	2,011	65
9 月	376	14	9 月	1,357	45
10 月	812	26	10 月	1,156	37
11 月	1,180	39	11 月	1,235	41
12 月	1,605	52	12 月	1,725	56
1 月	2,615	84	1 月	2,303	74
2 月	4,587	164	2 月	2,684	96
3 月	2,935	95	3 月	2,486	80

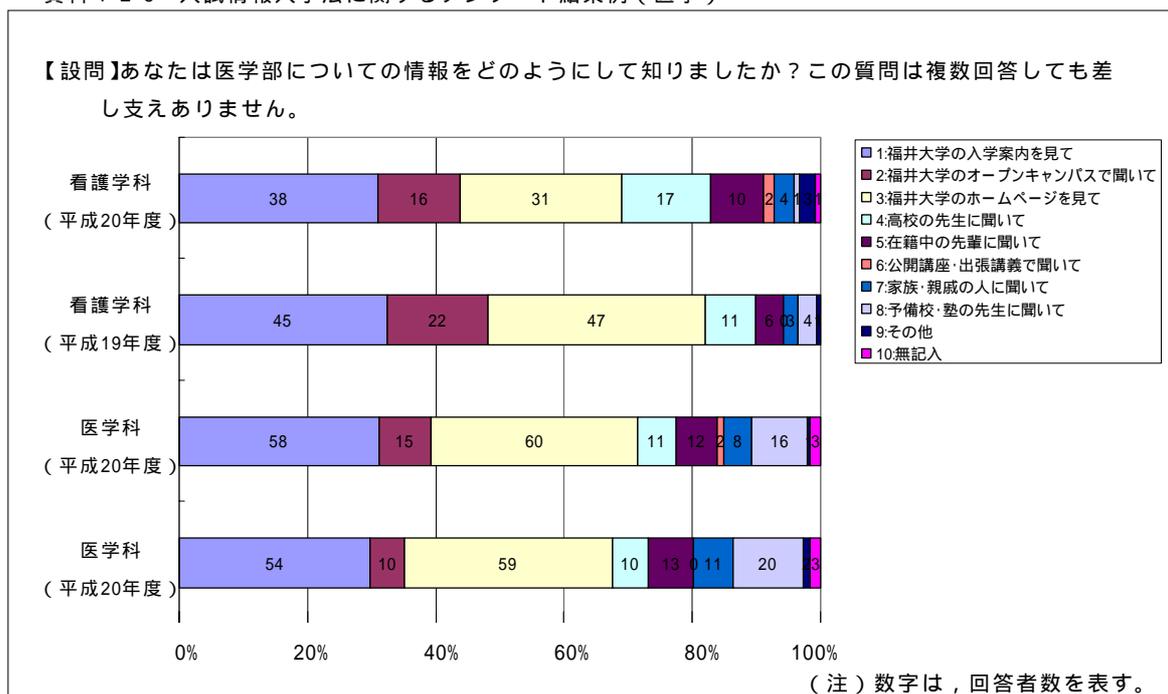
サイトへの出願期間中のアクセス数（平成 19 年 1 月 26 日～ 2 月 8 日）

1 月							2 月						
26 日	27 日	28 日	29 日	30 日	31 日	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	8 日
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
59	45	51	58	82	60	70	73	57	52	65	81	67	55

（大学情報センター）

これら取組によって、約 70%の学生が、入学案内、オープンキャンパスへの参加及びホームページ等を通し本学の情報を取得し、入学に至っている【資料 1-2-5】。

資料 1-2-5 入試情報入手法に関するアンケート結果例（医学）



（平成 19・20 年度 医学部入学生対象アンケートより）

計画 1-3 「【学士課程】入学生の受験時から卒業後までの一連の調査を行い，入学者選抜方法等の改善に資する。」に係る状況

アドミッションセンター，入学者選抜方法研究委員会及び入試委員会では，受験時から卒業後までの一連の学業成績の追跡調査や入学者の意識調査，入試方法・結果の相関解析を行い，学部別，学年別，選抜方法別にデータを蓄積・分析した【資料 1-3-1】。その結果は資料（AOセンター年報，入学者選抜方法検討委員会報告）として公表され，各学部ではその結果を参考とし入学者選抜方法等を適宜改善した【P96 資料 1-3-2～3】。

資料 1-3-1 学業成績の追跡調査例

平成 19 年 8 月 1 日

工学部（平成 15, 16, 17 年度入学生）の学業成績の追跡調査 報告書

アドミッションセンター

平成 15～17 年度入学生の学業成績の追跡調査結果を以下に示す。

対象： 2 年生（平成 17 年度入学）の 1 年次の成績  
 3 年生（平成 16 年度入学）の 2 年次までの成績  
 4 年生（平成 15 年度入学）の 3 年次までの成績

詳細： 前期日程入試入学生の学業成績を基準

- ... 前期日程入試入学生の学業成績と有意な差がない場合
- ... 前期日程入試入学生の学業成績よりやや有意な場合
- × ... 前期日程入試入学生の学業成績よりやや低下している場合

学科

		AO入試	前期日程	後期日程
平成 15 年度入試	共通教育科目	-	-	-
	専門基礎科目	×	-	-
	専門科目	-	-	-
平成 16 年度入試	共通教育科目	-	-	-
	専門基礎科目	-	-	-
	専門科目	-	-	-
平成 17 年度入試	共通教育科目	-	-	-
	専門基礎科目	-	-	-
	専門科目	-	-	-

学科

		AO入試	前期日程	後期日程
平成 15 年度入試	共通教育科目	-	-	-
	専門基礎科目	-	-	-
	専門科目	-	-	-
平成 16 年度入試	共通教育科目	-	-	-
	専門基礎科目	×	-	-
	専門科目	-	-	-
平成 17 年度入試	共通教育科目	-	-	×
	専門基礎科目	×	-	-
	専門科目	-	-	-

（学業成績の追跡調査報告書）

資料 1-3-2 入学者選抜方法の改善状況

	教育地域科学部	医学部	工学部
平成 16 年度 (平成 17 年度入試)			募集人員の変更
平成 17 年度 (平成 18 年度入試)	選抜方法及び募集人員の変更	医学科学士編入試験の書類選考による第 1 段階選抜を廃止	募集人員の変更 前期日程において名古屋試験場を設定(志願者 760 名中 348 名(46%)が名古屋試験場を希望)
平成 18 年度 (平成 19 年度入試)	選抜方法及び募集人員等の変更あり		募集人員の変更
平成 19 年度 (平成 20 年度入試)	平成 20 年度に地域文化課程と地域社会課程を地域科学課程に改組するが、入学選抜は「組織改組前の課程・コース」の入学選抜として実施、募集人員は変更なし		募集人員の変更

(事務局資料)

資料 1-3-3 入学者選抜方法改善の具体例(教育地域科学部・教育学研究科)

平成 18 年度 学部入試の変更点

(1) 選抜方法及び募集人員

課 程	コース・サブコース	変更前募集人員等 (17年度入試)		変更後募集人員等 (18年度入試)	
		前期	後期	前期	後期
学校教育課程	理数教育コース	前期	10人	前期	14人
		後期	6人	後期	廃止
		推薦	4人	推薦	6人
	美術教育サブコース	前期	2人	前期	3人
		後期	1人	後期	廃止
	保健体育サブコース	前期	2人	前期	3人
		後期	1人	後期	廃止
	生活科学教育コース	前期	5人	前期	4人
A O		3人	A O	4人	
地域社会課程	行政社会コース	前期	10人	前期	11人
		後期	6人	後期	4人
		推薦	4人	推薦	5人

平成 19 年度 学部入試の変更点

(1) 選抜方法及び募集人員

課 程	コース・サブコース	変更前募集人員等 (17年度入試)		変更後募集人員等 (18年度入試)	
		後期	推薦	後期	推薦
地域文化課程	生涯学習コース	後期	2人	後期	3人
		推薦	3人	推薦	2人

(2) 実施科目

個別学力検査(前期日程)の「外国語(英語)」からリスニングテストを廃止。

(事務局資料)

計画 1-4 「【学士課程】受験者への広報及び入試情報の適切な開示に努める。」に係る状況

受験生への広報及び入試情報の適切な開示のため、大学説明会の開催など様々な取組を実施した。その結果、入試関連情報の請求数が概ね増加しており【資料 1-4-1】、入試情報を受験生に広く広報することができた。これらの取組みにより、少子化による総進学者数が減少する中、法人化前とほぼ同じ志願者数を維持している【資料 1-4-2～3】。

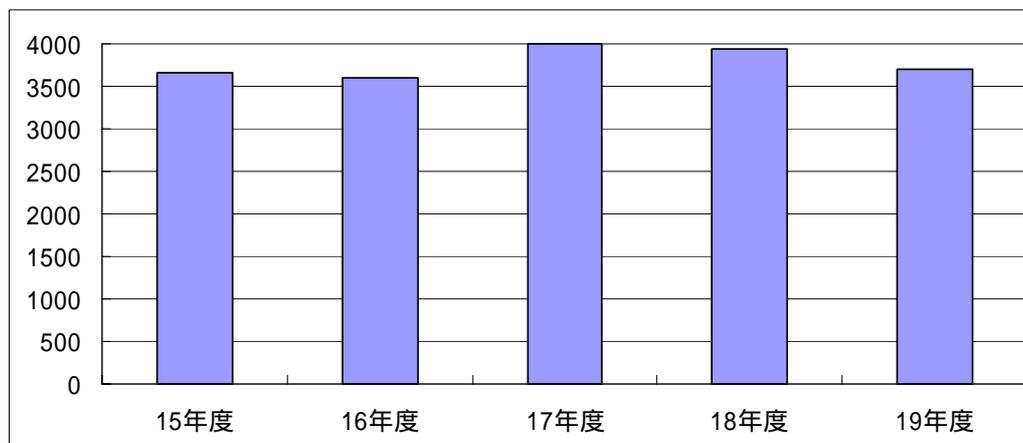
資料 1-4-1 福井大学入試関係資料請求状況（平成 19 年 4 月～平成 20 年 2 月）

資料名	平成 19 年度	平成 18 年度	前年度比
大学案内	731	549	133.2%
入学者選抜要項	48	50	96.0%
入学者選抜要項・大学案内	143	62	230.6%
一般募集要項	1,863	2,025	92.0%
一般募集要項・大学案内	3,274	3,006	108.9%
推薦募集要項	253	244	103.7%
A O 入試募集要項・A O 案内	188	200	94.0%
私費外国人留学生募集要項	78	34	229.4%
工学部第 3 年次編入学募集要項	96	8	1200.0%
医学部医学部学士編入学募集要項	251	47	534.0%
医学部看護学科第 3 年次編入学募集要項	33	27	122.2%
専攻科募集要項	8	8	100.0%
一般募集要項（願書を含む）速達対応	69	37	186.5%

（株式会社フロムページ資料より）

資料 1-4-2 総志願者数の推移

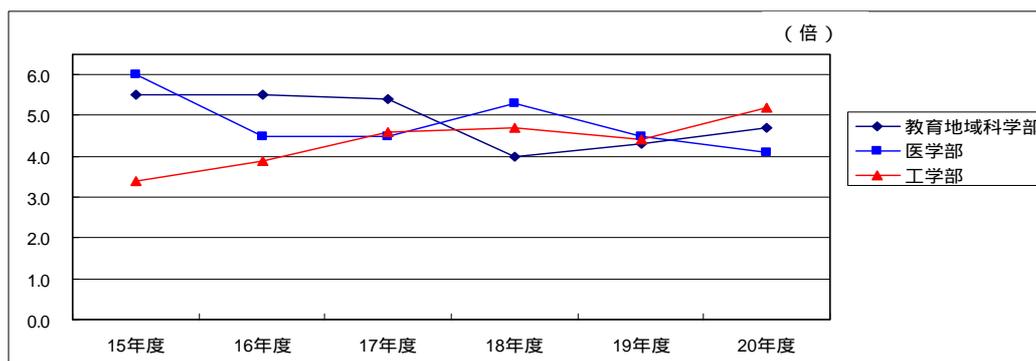
（人）



（事務局資料）

資料 1-4-3 学部別志願者倍率の推移

（倍）



（事務局資料）

入試結果など入試情報の開示請求に対する体制を整備し，適切に対応している【資料 1-4-4～5】。

資料 1-4-4 成績開示に関する申請書（抜粋）

平成 20 年度福井大学入学者選抜試験個人成績開示申込書

平成 20 年 月 日

福井大学長 へ

受験学部： 学部

受験学科・コース： 学科・コース

受験番号： 番

氏名： 氏 名

住所： 〒 住 所

電話番号： - -

私が受験した入学者選抜試験の成績開示を申し込みます。

・成績開示を希望する試験区分 [ ・前期日程 ・後期日程 ]  
( 希望する区分に 印 )

(事務局資料)

資料 1-4-5 成績開示状況

年度	学 部	合格者	不合格者	計
平成 16 年度	教育地域科学部	7	10	17
	医 学 部	56	55	111
	工 学 部	17	11	28
	計	80	76	156
平成 17 年度	教育地域科学部	6	2	8
	医 学 部	56	40	96
	工 学 部	10	5	15
	計	72	47	119
平成 18 年度	教育地域科学部	5	7	12
	医 学 部	63	69	132
	工 学 部	21	7	28
	計	89	83	172
平成 19 年度	教育地域科学部	13	11	24
	医 学 部	60	54	114
	工 学 部	33	5	38
	計	106	70	176

(事務局資料)

## b) 「小項目 1」の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である

## (判断理由)

1. 各学部において策定されたアドミッション・ポリシーを含め入試関連情報は大学説明会やホームページ等によって積極的に公表・周知され、少子化・総受験者数減少のなか、入学志願者数は高く維持された。
2. アドミッションセンター等による入試関連調査結果に基づき入学者選抜方法等が点検・改善され、アドミッション・ポリシーに相応しい学生の受入れ体制が整備された。特に、工学部における名古屋試験会場の設置は志願倍率の向上に寄与したものであるとして特記できる。

小項目2「各研究科のアドミッション・ポリシーの策定を行い、その学内外への公表と周知を図り、それに相応しい学生の受入れのシステムの構築を目指す」の分析

計画2-1「【大学院課程】各研究科及び各専攻・専修のアドミッション・ポリシーと適切な選抜方法の整備を行う。」に係る状況

全研究科のアドミッション・ポリシーを策定・整備し【資料2-1-1】、学生募集要項及び本学HP（入試情報）に掲載した【P102資料2-1-2】。

資料2-1-1 各研究科のアドミッション・ポリシー一覧

教育学研究科(修士課程)		
研究科共通		1. 子どもたちの教育に強い情熱を持つもの 2. 教育実践に深くかかわる意志のあるもの 3. 学校運営、学級経営に関心のあるもの 4. 専門的力量を高める意欲のあるもの
学校教育専攻	学校教育専修	学校教育専修は教職専門に関する資質・能力向上を目的とした教育実践研究を行うことを目標とし、次のような人を求めます。 1. 学校教育に関する高度な学力を有する人 2. 教職に関する強い意欲を有する人 3. 学校改革実践研究に意欲のある人
障害児教育専攻	障害児教育専修	心身に障害を持つ人々に対して、科学的な根拠を基に適切な教育指導や援助を行い、同時に必要な社会的支援についても提案できる人、実証的・調査的・臨床実証的な研究方法・援助方法への関心を持つ人を求めます。
教養教育専攻	国語教育専修	国語教員の資質向上のための教育研究を行う本専修は、次のような人を求めます。 1. 国語教員としての明確な意思と情熱を有する人 2. 国語教育に関する高度な研究と高い実践力の形成を目指す人
	社会科学教育専修	社会科学教育に関連する社会科学及び人文科学の基礎的知識を持ち、さらに高度な専門知識と教育研究能力の獲得によって、教員としての高い教育的資質と実践的力を形成するという明確な目的意識を持った人を求めます。
	数学教育専修	算数・数学の教員の資質・能力向上のための教育研究を行う本専修は、次のような人を求めます。 1. 算数・数学教育に対する明確な意思と情熱を有する人 2. 算数・数学教育において求められる専門性の高い実践力の形成を目指す人
	理科教育専修	理科教育専修では次のような人を求めます。 1. 理科教員としての明確な意思と情熱を有する人 2. 理科教育に関する高度な研究に対する情熱を有する人
	音楽教育専修	音楽教育に関心と意欲を持ち、高度な専門的知識と技能を備えた人材の育成を目的とします。音楽することに喜びをもち、音楽をもって広く社会に寄与するという明確な目的意識と情熱を持つ人を求めます。
	美術教育専修	美術教育専修では、理論と実践について専門的知識と技能を備えた教員の育成を目指しています。美術教育者としての資質を高め、指導的運営ができる研究と実習にあたっていきます。
	保健体育専修	保健体育・スポーツ事象を対象にして、保健体育科教育、体育学、運動学、学校保健の分野で明確な目的意識と情熱を持ち、研究と実践に取り組める人を求めます。
	技術教育専修	技術教育専修では、以下のような人を求めます。 1. 技術教育に関する、より高度な専門性と実践力を身につけた教師をめざす人 2. 技術教育に関する高度な研究に取り組む意欲のある人
	家庭教育専修	家庭教育専修では、次のような人を求めます。 1. 家庭教育に関心があり、より高度な専門性と実践力を身につけた小・中・高等学校の教師を志す人 2. 家庭教育、食物学、被服学、住居学、保育学、家庭経営学に関する高度な研究に取り組む意欲のある人
	英語教育専修	英語教育に関心と情熱を持ち、英語教員としてのより高度な専門性と実践力を身につけた人を求めます。

医学系研究科

<p>医学系研究科看護学専攻（修士課程）では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性、</li> <li>2. 従来の看護活動の枠を超えた広い視野、</li> <li>3. 地域医療に貢献する志、</li> </ol> <p>を持ち、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 新たな課題に取り組み、研究能力を身につける意欲がある人</li> </ol> <p>を求めています。</p>	
<p>医学系研究科（博士課程）では、次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学・生命科学領域において、科学的・論理的な思考で独創的かつ国際的な研究の遂行を目指す人</li> <li>2. 各医療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な臨床技能を備えた医学研究者を目指す人</li> </ol>	
<p>工学研究科（博士前期課程）</p>	
研究科共通	<p>「フレッシュな感性と学習への強い情熱」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の高度な研究に主体的に取り組む人</li> <li>2. 未来社会を支える科学技術の創造と開発に意欲のある人</li> <li>3. 人間社会の持続的発展に寄与する研究開発をグローバルな視点から進める人</li> </ol>
機械工学専攻	<p>「21世紀の科学技術を創るのは君だ」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械工学の幅広い知識を、社会に貢献する科学技術の創造に活用できる人</li> <li>2. 問題設定、解決にあたって独創性を発揮できる人</li> <li>3. 機械工学のより高度な専門知識を活かして、国際社会で活躍したい人</li> </ol>
電気・電子工学専攻	<p>「高機能電子材料・高度社会インフラシステム・先端計測技術など、マイクロからマクロまでの挑戦」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気・電子工学分野の幅広い基礎学力を有する人</li> <li>2. 社会を支える科学技術の発展のため、創造的取り組みに意欲のある人</li> <li>3. 電気・電子工学分野の専門知識を国際社会の発展に役立てたい人</li> </ol>
情報・メディア工学専攻	<p>「人にやさしいIT社会を支える技術者を目指せ」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然科学および情報・メディア工学分野の基礎学力を有する人</li> <li>2. 夢と目標を持って情報・メディア工学分野の研究に意欲的に取り組む意志のある人</li> <li>3. 大学院生としての自覚と使命感を有し、地域社会・人類社会のために自らを磨くことのできる人</li> </ol>
建築設計工学専攻	<p>「社会基盤の安全性と快適性を担う技術者を目指して」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築設計工学関連分野における基礎知識を有し、広い視野に立って研究に取り組むことができる人</li> <li>2. 地域や環境に対する建築設計技術者の役割を考えながら、熱意をもって勉学に取り組むことができる人</li> <li>3. 知識が旺盛で、学んだ知識を創造的に応用していく基礎能力を有する人</li> </ol>
材料開発工学専攻	<p>「先端材料開発を君の手で！」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学と工学の知識を基にもの作りにチャレンジしたい人</li> <li>2. グリーンケミストリー、超分子、新エネルギー、ソフトマテリアル、医用材料、最先端物質に興味のある人</li> <li>3. 工学的センスを身につけて国際社会でグローバルに活躍したい人</li> </ol>
生物応用科学専攻	<p>「真理を究め技術を極める - 分子から生命まで - 」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学やバイオテクノロジーの分野での研究で技術開発を通して社会に貢献したい人</li> <li>2. 社会の要請を踏まえて自ら研究・開発目標を設定し、その実現のために努力する人</li> <li>3. 深い洞察力と独創的な想像力を持つ人</li> </ol>
物理学専攻	<p>「最先端科学技術を支える物理学の世界へ」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微小世界の素粒子物理学から巨大世界の宇宙物理学まで、現代物理学の最先端を学びたい人</li> <li>2. 物理学を応用して21世紀の技術革新の牽引者になりたい人</li> <li>3. 物理学やその応用分野の研究者への道を歩みたい人</li> </ol>
知能システム工学専攻	<p>「人の知能と行動生成メカニズムを究明し知能システムを創造しよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学や物理や工学一般などの基礎的知識および応用力のある人</li> <li>2. プログラミング、機械工作、電子工作などが好きな人</li> <li>3. 未知なるテーマにチャレンジして、新しいことを開拓していこうと努力する人</li> </ol>
ファイバーアムニティ工学専攻	<p>「革新的ファイバー技術で、循環型アムニティ社会を実現しよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「インテリジェントファイバー工学」「光情報工学」「アムニティ工学」の革新的融合分野の研究で、社会・地域貢献したい人</li> <li>2. 国際的・学際色豊かな研究環境で、高度な専門性を有する技術者・研究者を目指したい人</li> <li>3. 国際共同研究、地域貢献、産学連携の機会を通じ、工学・自然科学の分野でリーダーシップ的役割を目指す人</li> </ol>
原子力・エネルギー安全工学専攻	<p>「目指せ、オールラウンドエンジニア」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い工学分野に関心がある人</li> <li>2. 安全、共生問題を通じて技術により社会へ貢献したいと考えている人</li> <li>3. 学習時代の専門分野について基礎学力が身につけている人</li> </ol>

工学研究科（博士後期課程）

研究科共通	「フレッシュな感性と学問への強い情熱」 1. 専門分野の高度な研究に主体的に取り組む人 2. 未来社会を支える科学技術の創造と開発に意欲のある人 3. 人間社会の持続的発展に寄与する研究開発をグローバルな視点から進める人
物質工学専攻	「サイエンスをテクノロジーに変えるのは君だ」 1. ものづくりにより社会へ貢献したいと考えている人 2. 微小世界の素粒子物理学から巨大世界の宇宙物理学まで、現代物理学の最先端を学びたい人 3. 化学や生命科学の分野での研究や技術開発を通して、社会に貢献したい人
システム設計工学専攻	「学位を目指して共に研究しませんか - エレクトロニクスから地球環境まで」 1. 大学院工学研究科博士前期課程の修了者又は同等以上の専門的知識を持ち、研究を遂行できる人 2. 社会における技術者の使命と役割を理解し、自立的に勉学に取り組むことができる人 3. 自ら研究課題を設定し、それに向かって研究を進め、困難な問題にも立ち向かっていける人
ファイバー・アムニティ工学専攻	「革新的ファイバー技術で、循環型アムニティ社会を実現しよう」 1. 「インテリジェントファイバー工学」「光情報工学」「アムニティ工学」の革新的融合分野の研究で、社会・地域貢献したい人 2. 国際的・学際色豊かな研究環境で、高度な専門性を有する技術者・研究者を目指したい人 3. 国際共同研究、地域貢献、産学連携の経験を通し、工学・自然科学の分野でリーダーシップ的役割を目指す人
原子力・エネルギー安全工学専攻	「目指せ、オールラウンドエンジニア」 1. 幅広い工学分野に関心がある人 2. 安全、共生問題を通じて技術により社会へ貢献したいと考えている人 3. 学部時代の専門分野について基礎学力が身に付いている人

(事務局資料)

資料 2-1-2 大学院アドミッションポリシーのホームページ掲載例

アドレス http://www.fukui-u.ac.jp/~nyushi/admission\_exam/daigakuin/hakase/igaku\_ap.html

福井大学 UNIVERSITY OF FUKUI

福井大学で学びたい方へ 企業・研究者の方へ 病院を利用する方へ 地域の方へ 在学者・ご家族の方へ 卒業生・修了者の方へ

大学紹介 Introduction 入試情報 Admissions 教育・キャンパスライフ Education / Campus life 研究・産学官連携 Research 教育地域科学部 医学部 工学部 大学院 教育研究施設

HOME > 入試情報トップ > 大学院-博士-博士後期課程-医学系研究科アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー(求める学生像)

医学系研究科(博士課程)のアドミッション・ポリシー

医学系研究科(博士課程)では、次のような人を求めています。

1. 医学・生命科学領域において、科学的・論理的な思考で独創的かつ国際的な研究の遂行を目指す人
2. 各医療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な臨床技能を備えた医学研究者を目指す人

前のページへ このページの先頭へ

国立大学法人 福井大学 文京キャンパス(教育地域科学部・工学部) 〒910-8507 福井市文京3-9-1 松岡キャンパス(医学部・附属病院) 〒910-1193 吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

© 2005 NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION UNIVERSITY OF FUKUI ALL RIGHTS RESERVED.

( 本学ホームページ )

各研究科では、アドミッション・ポリシーに応じた適切な選抜方法の整備として、多様な学生募集（一般，第2次，推薦，特別コース等）を実施し，さらにその方法を適宜改善している【資料2-1-3～5】。

資料2-1-3 各研究科の入学試験区分

修士・博士前期課程	一般 / 夜間主及び夜間主・学校改革実践コース	教育学研究科
	第2次（必要により実施）	
	一般 / 特定大学推薦外国人留学生特別選抜	
	第2次（必要により実施）	
	一般	医学系研究科
	第2次（必要により実施）	
	推薦	工学研究科
	一般	
第2次（必要により実施）		
博士・博士後期課程	国際総合工学特別コース / 私費留学生 / 10月入学	医学系研究科
	一般 / 第1回 / 10月入学共	
	一般 / 第2回	工学研究科
	一般 / 10月入学共	
	第2次（必要により）	
国際共学ネットワーク特別コース / 国費留学生 / 10月入学	工学研究科	
国際共学ネットワーク特別コース / 私費留学生 / 10月入学		
教職大学院の課程	一般	教育学研究科
	第2次（必要により実施）	

（事務局資料）

資料2-1-4 選抜方法の改善状況

	教育学研究科	医学系研究科	工学研究科	教育地域科学部(専攻科)
平成16年度 (平成17年度入試)	変更なし		材料開発工学専攻の選抜方法で数学（基礎科目）の取りやめ。	変更なし
平成17年度 (平成18年度入試)	教育職員免許取得プログラムが導入された事に伴い、入学者選抜とは別に、口述試験の中で、教職についての口頭試問を実施		生物応用化学専攻で英語の試験時間の変更	学生募集要項の体裁を他の要項と同様に整える
平成18年度 (平成19年度入試)	昼間主コースと夜間主コース（夜間主・学校改革実践研究コース含む）の学生募集要項を合冊 特定大学推薦外国人留学生特別選抜を実施			テレメールによる学生募集要項の請求を可能とした
平成19年度 (平成20年度入試)	選抜方法及び募集人員等の変更	博士課程の入学資格（大学の医学を卒業したものと同等以上の学力があると認められた者）を緩和 修士課程のがん看護専門看護師(CNS)コースの新設	機械工学専攻でTOEICのスコア利用 生物応用化学専攻で試験時間の変更 知能システム工学専攻で選抜方法の変更 FAIB-アパティ工学専攻が独自入試を実施 国際共学ネットワーク特別コースに日本人学生の受入開始	変更なし

（事務局資料）

資料 2-1-5 大学院志願者倍率の年度推移

学 部	年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
教育学研究科	定 員	67	67	67	67	67
	志願者数	51	49	57	59	63
	倍 率	0.8	0.7	0.9	0.9	0.9
医学系研究科	定 員	42	42	42	42	42
	志願者数	33	20	31	24	19
	倍 率	0.8	0.5	0.7	0.6	0.5
工学研究科	定 員	252	269	269	279	279
	志願者数	684	375	364	326	321
	倍 率	2.7	1.4	1.4	1.2	1.2

(事務局資料)

計画 2-2 「【大学院課程】社会人，外国人留学生への門戸を広げる。」に係る状況

外国人留学生への門戸を広げるため，財政的支援の下【資料 2-2-1】，海外での日本留学フェアや国内での外国人学生対象進学説明会への積極的参加，留学生同窓会海外支部の拡大【P105 資料 2-2-2】，海外拠点校を通じた本学の P R を実施した。さらに，工学大学院では外国人留学生に対する従来の特別選抜に加えて，英語による教育・研究指導を行う国際共学ネットワーク特別コースを平成 16 年度に設置した【P105 資料 2-2-3】。その結果，留学生の受入数は年々増加している【P106 資料 2-2-4】。

資料 2-2-1 門戸を開けるための財政支援

従来から，大学間協定を締結するために先方の大学を訪問する経費，留学生担当職員が海外で開催される「日本留学フェア（JASSO 主催）」への参加経費及び協定校への訪問並びに協定校からの来訪時用の記念品経費については，学長裁量経費からの支援により実施してきた。年度別の支援額は下記のとおりである。

平成 16 年度		平成 17 年度	
区 分	支援額	区 分	支援額
大学間等交流協定招へい経費		大学間等交流協定招へい経費	
・協定校訪問旅費	800,000 円	・記念品購入費	240,000 円
・記念品購入費	350,000 円	日本留学フェア経費	596,000 円
日本留学フェア経費	400,000 円	計	836,000 円
計	1,550,000 円		
平成 18 年度		平成 19 年度	
区 分	支援額	区 分	支援額
大学間等交流協定招へい経費		大学間等交流協定招へい経費	
・記念品購入費	200,000 円	・記念品購入費	216,000 円
日本留学フェア経費	400,000 円	日本留学フェア経費	417,000 円
計	600,000 円	計	633,000 円

(事務局資料)

## 資料 2-2-2 留学生同窓会支部設置状況

2003年11月30日「第1回福井大学留学生同窓会大会」を開催し、招聘した帰国留学生13名及び在学留学生91名が参加し、「福井大学留学生同窓会」を発足させた。その後、支部設置を拡大し、現在10支部に拡大された。

支部名	代表者	事務局
マレーシア支部( Malaysia Branch 2004年12月11日設立 )	Shaw Shuh Jiunn(Mr)	Norasnah Matnor(Ms)
タイ支部 ( Thai Branch 2004年12月15日設立 )	Surakiat Wongwasin(Mr)	Thamma Thammasak(Mr)
インドネシア支部( Indonesia Branch 2005年1月26日設立 )	Senno Susanto(Mr)	Nasrullah Idris Arief(Mr)
韓国支部( Korea Branch 2005年9月2日設立)	Kim Soonam(Mr.)	Jung Hoyun(Mr.)
西安支部( Xi'an Branch 2005年9月9日設立)	Gao Jian Bin(Mr.)	Ma Xuan(Mr.)
上海支部( Shanghai Branch 2005年12月18日設立 )	Shen Wanzhang(Mr.)	Yu Ping(Mr.)
杭州支部(Hangzhou Branch 2006年10月29日設立)	Xie Xueli(Mr.)	Wang Tao(Ms.)
台湾支部(Taiwan Branch 2006年12月16日設立)	Keng-Ming Chen(Mr.)	Chang Ping(Ms.)
北京支部(Beijing Branch 2007年2月3日設立)	Liu Dali(Mr.)	Xue Min(Ms.)
ハンブルグ支部(Hamburg Branch 2007年8月3日設立)	Iris Wieczorek(Ms.)	Sandra Schattschneider(Ms.)

( 本学HP「留学生センターHP」より )

## 資料 2-2-3 : GEPIS 及び GNEPIS の概要

## 《大学院工学研究科国際総合工学特別コース》

大学院工学研究科国際総合工学特別コース(GEPIS)では、主として英語によって授業及び研究指導を実施される。このコースは私費の外国人留学生在が10月から入学できる。工学研究科博士前期課程の各専攻の何れかに正規の学生として所属し、すべての必要要件を満足すると修士(工学)の学位が授与する。

## 《大学院工学研究科国際共学ネットワーク特別コース》

大学院工学研究科国際共学ネットワーク特別コース(GNEPIS)では、主として英語によって授業及び研究指導が実施される。このコースには国費又は私費の外国人留学生在が10月から入学できる。工学研究科博士後期課程の各専攻の何れかに正規の学生として所属し、すべての必要要件を満足すると博士(工学)の学位が授与する。

## 入学数の推移

年度	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19
博士前期課程				1	5	7	2
博士後期課程	8	9	8	7	7	6	6

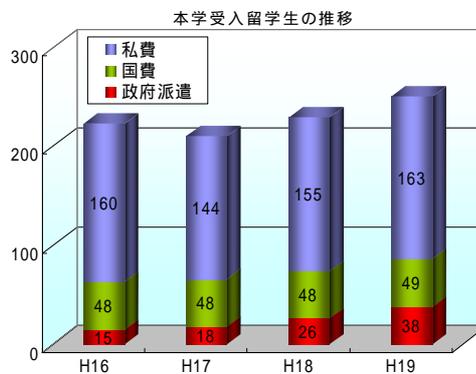
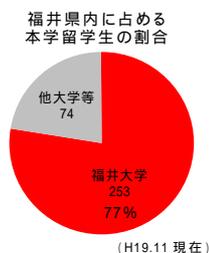
博士後期課程は平成13年度にGEPIS開始、平成19年度にGNEPIS開始

博士前期課程は平成16年度にGEPIS開始

(事務局資料)

資料 2-2-4 受入留学生数の推移

福井県内の高等教育機関全体のうち、本学では約 8 割の留学生を受け入れており、積極的な周知活動、留学生センターの整備による受入体制の整備、きめ細やかな日本語学習プログラム、留学生同窓会の活動支援等の努力により、留学生数も年々増加している。



(国際課資料「受入留学生数一覧」)

外国人留学生の声

私は、先輩に勧められて福井大学を受験しました。今年の4月に福井に来て大学生の生活を始めました。うれしかったです。最初の時間は友達が少なかったけど、今私のまわりに日本人の友達、海外の友達一杯います。先生達はとてもやさしいです。いつも留学生を応援してくれます。大学の交流活動、福井県の交流活動はとても強いです。留学生の私たちは毎日楽しみにしています。いつも Fukui-a nice place, 福井一幸せな町と感じています。福井大学に来てとてもよかったですと思います。

ベトナム TRAN THI UYEN SA

(「福井大学で学ぶ外国人留学生からのメッセージ」より)

社会人に対する再チャレンジ枠の設置【資料 2-2-5～6】や教職大学院の設置【P108 資料 2-2-7】等，社会人への門戸を広げる施策を実施した。さらに，長期履修制度を整備し，社会人の大学院課程履修を容易にした【P108 資料 2-2-8～9】。その結果，社会人の受入数は概ね増加している【P109 資料 2-2-10】。

資料 2-2-5 再チャレンジ枠の概要

社会人に対する再チャレンジ支援の概要  
 社会人等に対して，リカレント教育やスキルアップ教育の機会を提供するなど，再チャレンジ支援に資するプログラム。

【福井大学におけるプログラム概要（平成 20 年度）】

1. プログラム名：主婦等が活躍し特別支援教育が充実する学校づくり支援プログラム  
 実施母体：教育学研究科

概要：主婦や学校の支援員は，大学院入学後，教職の専門性向上のための授業を受け，必要に応じて附属学校等の拠点校での観察参加を実施。2年目は，拠点校等で長期のインターンシップに参加し，そこでの実践を修士論文として整理する。すでに非常勤支援員として勤務している者の場合は，勤務校での実践を研究対象とする。大学教員はインターンシップのフィールドインストラクターとして，定期的に拠点学校に赴きサポートをしていく。また，希望者は「学校心理士」の資格獲得が可能になるよう配慮する。  
 また，附属学校等の拠点校との日々の連絡・記録の共有等は，学校と大学を結んだ eポートフォリオシステムを用いて行う。本システムは実践記録を各自が蓄積でき，それを学校と大学の関係者が読み意見を書き込むことができるシステムである。

2. プログラム名：医療・社会福祉・保健分野に女性の力を生かせる支援プログラム  
 実施母体：医学系研究科修士課程看護学専攻

概要：看護師・保健師・助産師などの資格を有しながらも，子育て並びに介護等の事情により医療現場を離れている人々，主に専業主婦等がその生活の中で身近に体験した看護領域における様々な問題を踏まえ，看護の知識の習得及び実践能力を探求し，再び，看護職分野で活躍できるようバックアップする。  
 また，本学医学部附属病院及び地域医療機関と連携し，修了後の子育て事情等を汲んだ多様な勤務形態の再就職についても総合的に支援する。

3. プログラム名：医学・看護学分野における社会経験学生支援プログラム  
 実施母体：医学部医学科，看護学科

概要：編入学試験の実施，授業料の減免措置，修学上の相談支援などの受入体制を整備することにより，医学・看護学以外の学習経験，社会経験を有する者に対し，総合的に支援する。  
 また，一般選抜で入学した社会経験を有する学生についても同様の支援を行う。

(事務局資料)

資料 2-2-6 再チャレンジ枠による授業免除選考結果

年度区分	教育学研究科			医学部			医学系研究科		
	申請	全額	半額	申請	全額	半額	申請	全額	半額
平成 19 年度（前期）	3	1					2		
平成 19 年度（後期）	2	1					2		2
平成 20 年度（前期）	4	1	1	6	5	1			

(事務局資料)

資料 2-2-7 教職開発専攻（教職大学院）の概要

教職開発専攻(教職大学院)設置の目的

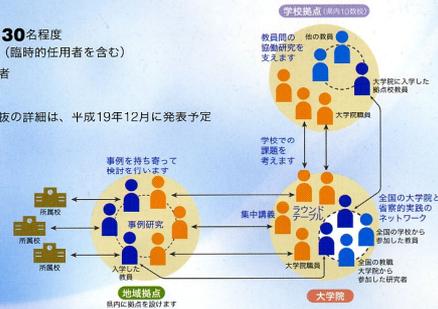
変化の激しい21世紀の社会を生きる子どもたちが、よりよく自己実現するために、学校には多くのことが求められています。家庭、地域、学校の連携で地域の教育力を高める必要があります。とりわけ学校においては、教員の専門的力量的向上と協働研究が重要になります。そのために福井大学は、21世紀の学校教育を担う教員の専門的力量的の開発を目的として、教職大学院を開設します。



1. 今日の課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
2. 15人の大学教員がチームでバックアップします。
3. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場へ出向きます。
4. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開設します。
5. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

教育課程の概要

- 学位**…………… 教職修士（専門職）  
※新しい学位の授与
- 修業年限**…………… 原則として2年（1年を許可する場合もある）
- 必要修得単位**…長期インターンシップ  
共通科目、コース別選択科目  
計45単位以上を取得すること
- 募集人員**…………… 入学定員 **30**名程度  
現職教員（臨時的任用者を含む）  
学部進学者
- 詳細**…………… 入学者選抜の詳細は、平成19年12月に発表予定



教育課程の特色

- **学校拠点の協働実践研究プロジェクト**  
学校を拠点とし、学校が抱える課題に教員と研究者が協働して実践的な学校改革に取り組みます。
- **教職専門性の開発・発展を支援**  
「実践力」「マネジメント力」「省察・研究能力」「理念と責任」の4つの軸で教育課程を構造化するとともに、世代交流のサイクルを新たに創り出していきます。
- **長期実践報告の作成**  
修士論文は課しません、長期実践報告の作成と発表を行います。
- **1年間の長期インターンシップ**  
学校の1年間のサイクルを経験し、振業づくり・学級づくり・生徒指導等を総体として実践的に学びます。
- **事例研究センターの共通科目**  
「教育課程の編成・実施」「教科等の実践的な指導法」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校と教師の在り方」の5領域について、実践的なカンファレンス・事例研究を中心に学びます。
- **コース別選択科目**  
「カリキュラム・授業改革」「成長・発達支援」「コミュニティとしての学校と教師の力量形成」の3つの系の中から1つを選択し、主題に沿って実践と研究を深めます。

教育課程の構成

教職専門性 開発コース	スクールリーダー 研修コーディネータ 養成コース*	学年履修単位（目安）	
		1年次	2年次
長期インターンシップ（10単位）		10単位	0単位
共通科目（20単位）		14単位	6単位
コース別選択科目（15単位）		2単位	13単位
合計（45単位）		26単位	19単位

\* 入学前に連携協力校等において共同研究の経験の有など一定の条件を満たす者は、短期履修（1年）でも修了可とします。

- **授業科目例**
- **共通科目例**
  1. カリキュラムのデザインの実践事例研究（2単位）
  2. 振業づくりの長期実践事例研究Ⅰ、Ⅱ（計4単位）
  3. 児童生徒の成長・発達支援の長期実践事例研究Ⅰ、Ⅱ（計4単位）
  4. 学校協働組織マネジメント（2単位）
  5. 教師の実践的力量的形成の課題と実践（2単位）
- **コース別選択科目例**
  1. カリキュラム・授業改革マネジメント 学校拠点長期協働実践プロジェクト（8単位）
  2. 児童生徒の成長・発達支援 学校拠点長期協働実践プロジェクト（8単位）
  3. コミュニティとしての学校と教師の力量形成 学校拠点長期協働実践プロジェクト（8単位）

※いずれの科目も3、4人の教員がチームで担当します。

（出典：教職大学院パンフレット）

**教職大学院の特徴**

1. 今日の課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
2. 15人の大学教員がチームでバックアップします。
3. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場へ出向きます。
4. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開設します。
5. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

（事務局資料）

資料 2-2-8 長期履修制度（平成17年度から実施）の概要

・ 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する場合は、その計画的な履修を認める（医学系研究科博士課程を除く）。修了までに納付すべき授業料総額が（留年した場合を除き）標準修業年限修了者と変わらない。

（事務局資料）

資料 2-2-9 長期履修学生受入れ状況

(人)

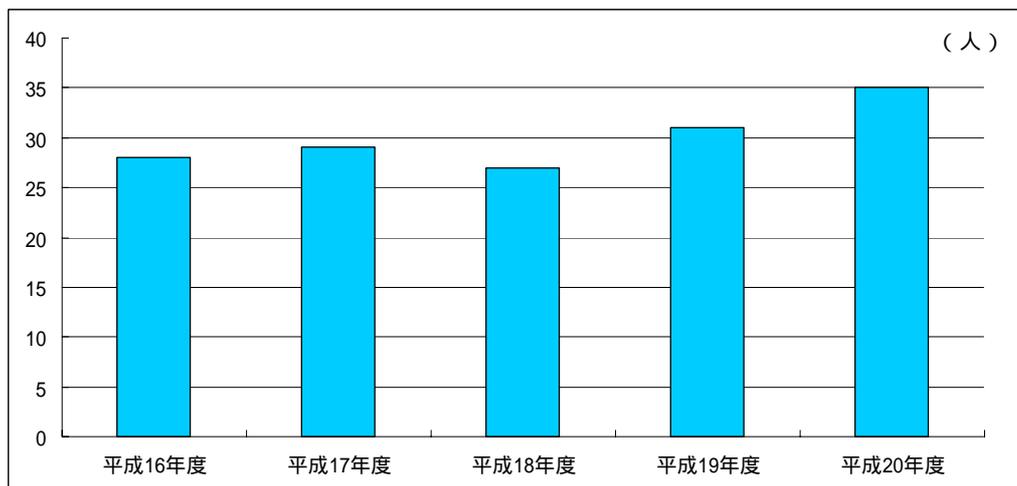
研究科	年 度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
教育学研究科		1	6	7	14
医学系研究科修士課程				1	1
医学系研究科博士課程					0
工学研究科博士前期課程		2		1	3
工学研究科博士後期課程		1	1	1	3
合 計		4	7	10	21

(事務局資料)

教育  
2

中項目 2  
教育内容等「計画  
2-2  
」

資料 2-2-10 社会人入学者数の年度推移



(事務局資料)

計画 2-3 「長期履修制度の拡大を図る。」に係る状況

長期履修制度について、工学研究科が平成 15 年度に導入以来、学生の要望に応えるため全ての研究科に導入し、活用されている【資料 2-3-1～3】。

資料 2-3-1 全学の長期履修制度

福井大学大学院長期履修学生規程（平成 16 年 4 月 1 日 福大規程第 62 号）抜粋

（趣旨）

第 1 条 この規程は、福井大学大学院学則（平成 16 年福大規程第 2 号。以下「大学院学則」という。）第 35 条の規定に基づき、長期履修学生について、必要な事項を定める。

（長期履修期間）

第 2 条 本学大学院が、長期履修学生に対し、その計画的な履修を認める期間（以下「長期履修期間」という。）は、教育学研究科修士課程、医学系研究科修士課程及び工学研究科博士前期課程においては 4 年以下、医学系研究科博士課程及び工学研究科博士後期課程においては 6 年以下とする。

（福井大学規則集より）

資料 2-3-2 教育学研究科の規程

福井大学大学院教育学研究科規程（抜粋）

（夜間主コース及び夜間主・学校改革実践研究コース）

第 2 条の 2 各専修に夜間主コースを、学校教育専修及び障害児教育専修に夜間主・学校改革実践研究コースを置く

（教育方法の特例）

第 6 条 教育学研究科における授業及び研究指導は、教育学研究科委員会が教育上特別の必要があると認める場合は、夜間その他特定の時間又は時期において行うことができる。

2 現職教員等の社会人である学生で、前項に規定する教育方法の特例による授業又は研究指導を受けようとする者は、書面をもってその旨教育学研究科長に願い出て、その許可を受けなければならない。ただし、夜間主コース及び夜間主・学校改革実践研究コースの学生については、この限りでない。

（長期履修学生）

第 6 条の 2 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを申し出たときは、教育学研究科委員会の議を経て、長期履修学生としてその計画的な履修を認めることができる。

（福井大学規則集より）

資料 2-3-3 長期履修制度の活用状況

（人）

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
教育学研究科（M）	3	0	1	6	8
医学系研究科（M）				1	1
〃（D）				0	0
工学研究科（M）	0	0	2	0	1
〃（D）	1	0	1	1	1

備考：各年度の人数は新規利用者数

（事務局資料）

教育学研究科において、長期履修制度を適用した3年間履修の教員免許取得プログラムを導入(平成18年度)し、社会人の入学者が増加した【資料2-3-4】。

資料2-3-4 教育職員免許取得プログラム実施状況

入学年度 専修	氏名	入学前取得免許	許可免許	備考
		取得希望免許		
平成19年度 学校教育	A	なし 小学校1種, 中学校(国語・英語)1種, 高校(国語・英語)1種	小学校1種	
平成19年度 障害児教育	B	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種	小学校1種	
平成19年度 数学教育	C	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種
平成19年度 英語教育	D	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成19年度 英語教育	E	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成18年度 学校教育	F	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種, 高校(英語)1種	小学校1種	
平成18年度 障害児教育	G	なし 小学校1種, 中学校(数学)1種, 高校(数学)1種, 養護学校1種	中学校(数学)1種	
平成18年度 数学教育	H	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種

(教育地域科学部現況調査表)

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である

(判断理由)

1. 各研究科において策定されたアドミッション・ポリシーを含めた入試関連情報はホームページ等によって積極的に公表・周知され、さらにアドミッション・ポリシーに応じた多様な入学者選抜が実施・改善されている。
2. 社会人に対する教職大学院の設置や再チャレンジ枠の設置や長期履修制度の整備・拡大など、並びに外国人留学生に対する積極的な周知活動、特別選抜の実施や特別コースの設置などによって、社会人や外国人留学生の受入れ状況は概ね向上した。これら取組は、アドミッション・ポリシーに相応しい学生の受入れ体制整備の一環である。

小項目3「**ウエイト**」専門職として実践的力量を形成するために、地域と大学との協働ネットワークの構築を図るとともに、高度技術者・医療人としての力量形成を目指すカリキュラム・デザインの基本方針を明確にし、併せて、国際化に対応できるカリキュラムの整備を目指す」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 3-1「【学士課程】学生の学習目的を明確にするためのオリエンテーションを充実する。」に係る状況

全新生に対するオリエンテーションを実施し【資料 3-1-1】、カリキュラムガイドブックを配付するとともに、大学・学部の理念、教育目的・目標等について周知した。さらに、各学部において、学科・コースごとのオリエンテーションや合宿研修等【資料 P256 資料 2-4-4】を実施し、学習目的等を明確化した。これら取組によって、学習目的等が学生に周知できた【P114 資料 3-1-2】。

資料 3-1-1 新入生オリエンテーションの実施例

1. 入学式 平成20年4月8日(火) 午前10時から (於 フェニックスプラザ 大ホール)

2. 新入生オリエンテーション

医学部の学生は、入学式終了後松岡キャンパスに移動、教育地域科学部及び工学部の学生は、フェニックスプラザでの学生課オリエンテーション終了後文京キャンパスに移動し、指定の講義室等でオリエンテーションを行います。  
キャンパス案内図などで、早めに講義室等の位置を確認し、時間厳守で各講義室等に集合してください。

平成20年4月8日(火) 外国人留学生は、8日(火) 12:20～12:50に総合研究棟1階総大1講義室において、留学生対象日本語プレテストを実施します。

		9:00	10:00	10:50	11:20	13:00	13:30	14:10	14:20	14:30	15:00	15:10	15:40	15:50	16:30	16:50	17:50		
教育地域科学部	学校教育課程	移動																	
	地域科学課程	移動																	
	工学部	機械工学科	受付 学生証・オリエンテーション資料等の配布 フェニックスプラザ1Fロビー	入学式	学生課オリエンテーション	移動	昼食	総合情報処理センターガイダンス 共用講義棟3階 K310講義室	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	休憩(10分)	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	休憩(10分)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部2号館2階 223L
		電気・電子工学科						共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部1号館3階 131L	
		情報・メディア工学科						教育地域科学部1号館2階 大1講義室	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部3号館1階 311L	
		建築建設工学科						総合情報処理センターガイダンス 共用講義棟1階 K110講義室	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部1号館3階 132L	
		材料開発工学科						共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部1号館1階 117M	
生物応用化学科		教育地域科学部1号館2階 大2講義室						履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 総合研究棟2階 総大2講		
物理工学科	工学部2号館2階 223L	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部1号館1階 117M								
知能システム工学科	工学部3号館1階 311L	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	共通教育ガイダンス (概要説明・履修登録一覧表記載・Web登録説明)	履修全般(学生便覧)	休憩(10分)	専門教育ガイダンス	補習説明	学別履修指導・懇談 工学部1号館1階 117M								
医学部	医学科	受付はありません	松岡キャンパスへ移動 (貸切バス利用)													新入生歓迎行事 (記念撮影等)	クラブ活動紹介 (新歓担当学生)		
	看護学科	学生証・オリエンテーションの資料等は、4/9の受付時に配布します。	昼食													講義棟前	合併講義室		
学部長挨拶		教育地域科学部長 13:30～共用講義棟3階 K310講義室																	
		工学部長 13:30～共用講義棟1階 K110講義室	教育地域科学部1号館2階 大1講義室 教育地域科学部1号館2階 大2講義室																

平成20年4月9日(水) 9日(水) 12:20～12:50に、総合研究棟1階 総大1講義室にて海外留学説明会を実施します。(希望者のみ)

		9:00	10:20	10:30	11:00	11:50	13:00	13:30	14:20	15:20	15:30	16:20	17:20		
教育地域科学部	学校教育課程	移動													
	地域科学課程	移動													
	工学部	機械工学科	コース別履修指導・懇談 各講義室	休憩	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター	(該当者のみ) 日本語学生支援機構 共同講義棟1階 K110講義室								履修登録 情報処理演習室
		電気・電子工学科	数学プレテスト 工学部2号館2階 223L	英語プレテスト 工学部2号館2階 223L	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室
		情報・メディア工学科	数学プレテスト 工学部1号館3階 131L	英語プレテスト 工学部1号館3階 131L	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室
		建築建設工学科	数学プレテスト 工学部3号館1階 311L	英語プレテスト 工学部3号館1階 311L	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室
		材料開発工学科	数学プレテスト 工学部1号館3階 132L	英語プレテスト 工学部1号館3階 132L	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室
生物応用化学科		数学プレテスト 共用講義棟3階 K310	英語プレテスト 共用講義棟3階 K310	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室	
物理工学科	数学プレテスト 総合研究棟1階 総大1講	英語プレテスト 総合研究棟1階 総大1講	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室		
知能システム工学科	数学プレテスト 工学部1号館1階 117M	英語プレテスト 工学部1号館1階 117M	履修登録 情報処理演習室	履修登録 総合情報処理センター									履修登録 情報処理演習室		
医学部	医学科	受付	医学部長挨拶	教務ガイダンス(50分) 学生生活ガイダンス(50分) 医学図書館ガイダンス(20分)	昼食	医学科概要(10分) 履修ガイダンス(30分) 学年主任との懇談(40分)	合併講義室	休憩	医学部施設案内 情報処理演習室 相模病理実習室	既方修得単位認定					
	看護学科	学生証・オリエンテーション資料配布	健康管理・環境S Oガイダンス	合併講義室	合併講義室	看護学科概要(10分) 履修ガイダンス(30分) 学年主任との懇談(40分)	看護大講義室	合併講義室	医学部施設案内 看護学科各施設 統計情報処理演習室	合併講義室					

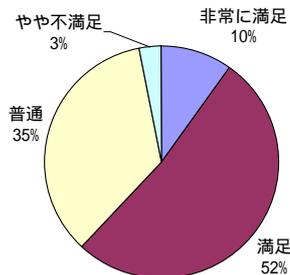
9日(水)の共通教育履修登録時の最初に、大学のネットワークへのログイン用ID・パスワード及びユニバーサル・バスポート用ID・パスワードを配布します。

【連絡事項】共通教育の履修登録終了後、「大学生協ガイダンス」に参加できなかった学生を対象に資料を渡しますので、ロビーに待機している学生協職員のとこに集合してください。

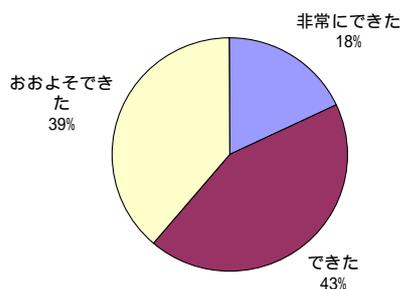
(事務局資料)

資料 3-1-2 オリエンテーションに関するアンケート結果例（医学部）

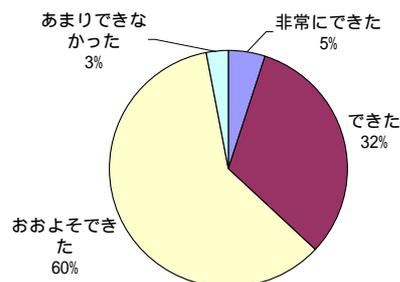
(1) これから医学・看護学教育を履修するにあたり、今回のオリエンテーションの全体的な内容には満足しましたか。



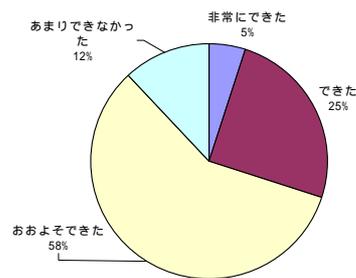
(2) 学部長の話などを聞いて、福井大学医学部の教育理念・目的などを理解することができましたか。



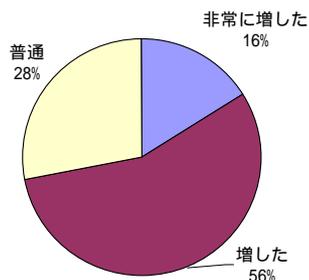
(3) これから履修する教育課程の概要を理解することができましたか。



(4) 授業科目の履修方法を理解することができましたか。



(5) 今回のオリエンテーションを受講して、これから医学・看護学教育を受ける意欲が増しましたか。



(資料 平成 19 年度医学部オリエンテーションに関するアンケート集計結果より抜粋)

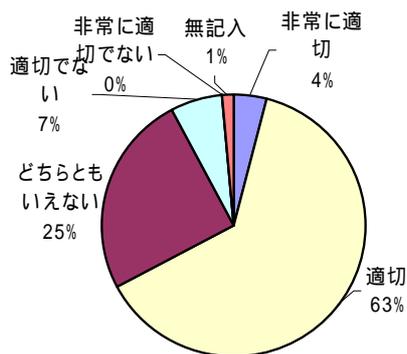
計画 3-2 「【学士課程】評価を反映させたカリキュラムの点検・再編を図る。」に係る状況

全学部で学生・担当教員を対象にカリキュラム評価アンケートを行い【P35 資料 1-6-1, 資料 3-2-1】, その評価結果に基づき学習内容や開講時期を変更するなど, 学生等による評価を組み入れたカリキュラム改善・再編を積極的に推進した【P38 資料 1-6-3】。さらに, 教育地域科学部では平成 19 年度に実施した外部評価結果等を考慮して, 平成 20 年度に地域文化及び地域社会の 2 課程を「地域科学課程」に統合・再編し, カリキュラムの全面的改善・再編を実施した【P39 資料 1-6-4~5】。

資料 3-2-1 カリキュラムに対する学生の評価結果例 (医学部)

設問：2 年次・3 年次前期における基礎医学教育カリキュラム全体 (科目構成、開講時期など) は基礎医学を学ぶ上で適切なものでしたか？

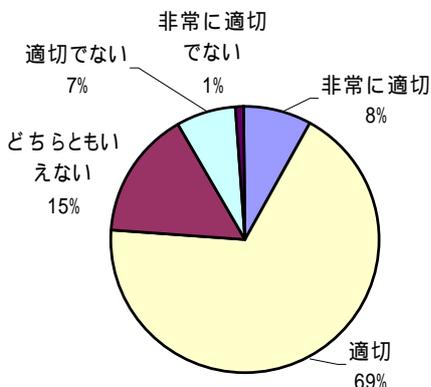
平成 18 年度



	回答者数
非常に適切	3
適切	48
どちらともいえない	19
適切でない	5
非常に適切でない	0
無記入	1
合計	76

(回収率 74.0%)

平成 19 年度



	回答者数
非常に適切	7
適切	57
どちらともいえない	13
適切でない	6
非常に適切でない	1
合計	84

(回収率 85.7%)

(医学部現況調査表)

計画 3-3 **ウエイト** 「【学士課程】テュートリアル教育の導入など探究的課題解決能力形成に資するカリキュラムを充実させる。」に係る状況

本学の教育の質的向上を図る上の最重要課題の一つである，探究的課題解決能力形成に資するカリキュラムの編成に関しては，中項目1：計画 1-5（P23）で既に述べたが，各学部ではそのカリキュラムの充実を図っている。

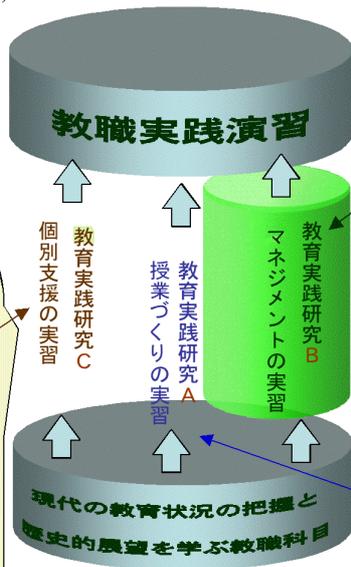
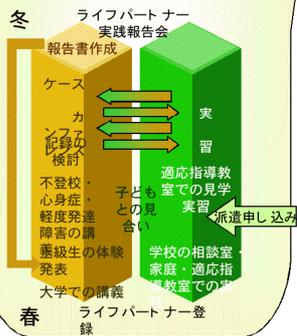
教育地域科学部では，平成 15 年度特色 G P「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」【資料 3-3-1】の実施に基づき，実践的教員としての力量形成等に資するカリキュラムを充実した。

資料 3-3-1 地域と協働する実践的教員養成プロジェクトによる教育実習概要

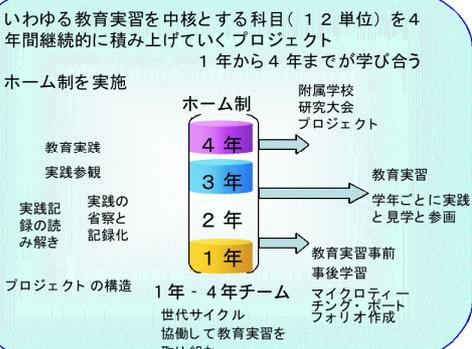
地域と協働して生徒指導・授業づくり・組織学習を体系的に行う教育実習の実施

教育実習だけでは実践と理論を架橋する教職指導はできない。3種類の教育実習を大学の講義と連動させ、且つ、4年間かけて行うカリキュラムを作成  
 教育実践研究A⇒12単位  
 教育実践研究B⇒8単位  
 教育実践研究C⇒8単位  
 Aは1年生から4年生までのホーム制教育実習における学び世代サイクルを実現。  
 Bは週5日制に対応し土曜日開講。  
 Cは、市教育委員会との連携事業。講義と並行して実習が行なわれ、講義の中で実習のサポートが行なわれる。

生徒指導・教育相談及び進路指導の科目（8単位）を中心に、大学の講義と教育実習が連結し、且つ、教育委員会と連携した不登校や軽度発達障害の教育支援プロジェクト（ライフパートナー事業）



3種類の教育実習は、4年次に行なわれる教職実践演習の中で、教員としての使命感や責任感、対人関係、児童生徒理解、教科の指導力の視点から、福井スタンダードにもとづいて到達度評価と省察が行われる。



(教育地域科学部現況調査表)

医学部では新カリキュラムの学年進行に伴い課題探求・解決型学習法である「テュートリアル教育」【P28 資料 1-5-6】科目を順次導入することによって探求的課題解決能力形成カリキュラムを充実させた（平成 16 年 2 科目；平成 17 年 4 科目；平成 18 年 5 科目）。

工学部では，平成 17 年度現代 G P 「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」【資料 3-3-2】の実施や「学際実験・実習」【P33 資料 1-5-12】の新設，また，平成 17 年度特別教育研究経費により，創成教育を担う先端科学技術育成センター【P31 資料 1-5-10】を設置し，学生の「課題提案能力」や「探求的課題解決能力の形成」等の創成教育を養う「創成教育部門」を設けたことより，創造力を涵養するカリキュラムを充実させた。

資料 3-3-2 地域教育活動の場の持続的形成プログラムによる活動について

「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」では，大学に隣接する田原町商店街を中心とした町全体を地域教育活動の場と位置づけ，大学生と地域住民とが一体となってまちづくりを考えていく。

教員と学生が多彩な研究成果やノウハウを活かす「学際実験・実習」をベースに，多角的に環境まちづくり教育を行っており，平成 17 年度現代 G P にも採択されるなど，関係者からも高い評価を受けている。

商店街全体を巻き込む「打ち水大作戦」の実施

学生常駐の地域との交流拠点としての「たわら屋」の開設

地域住民と学生との交流組織「雑木林を楽しむ会」の結成

音楽科学生と子どもたちによるミニコンサートの実施

底喰川の拡幅をきっかけとした環境学習・デザインの考察

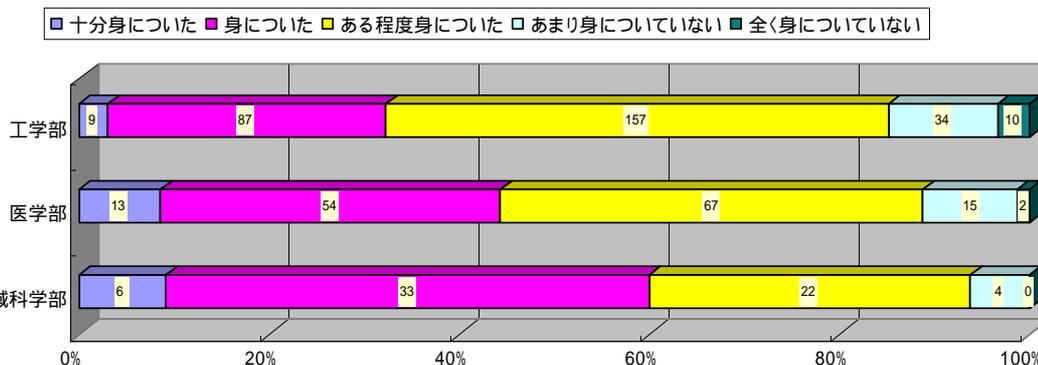
美術部・美術科学生による銭湯「桃の湯」での壁画作成

（本学 HP 「特色ある教育活動」より）

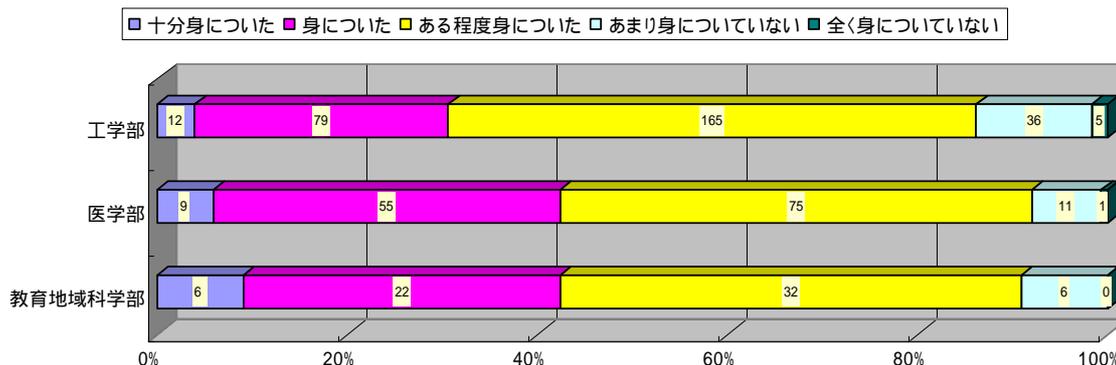
これらの取組によって、探求的課題解決能力の基礎となる「多面的に考える力」「根拠に基づいて考える力」及び「問題を把握する力」が学生に涵養された【資料 3-3-3】。

資料 3-3-3 探求的課題解決能力の涵養について

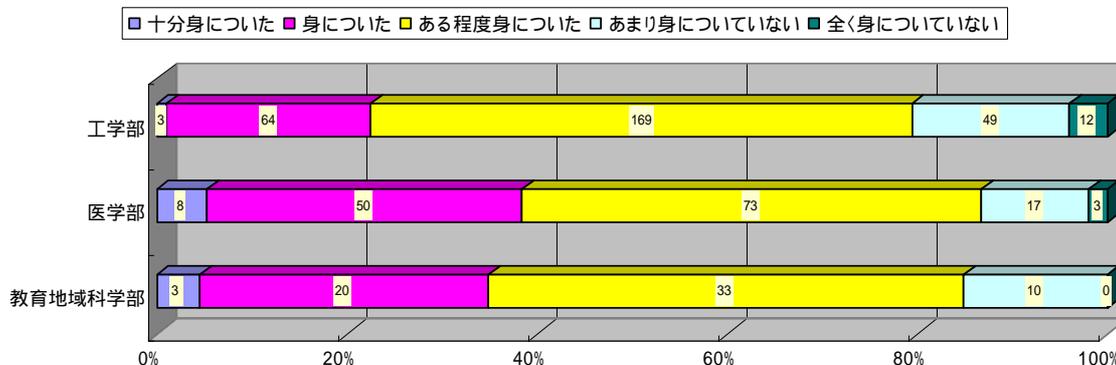
【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって広い視野で物事を多面的に考える力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって問題のポイントを素早く押さえ、まとめる力がどの程度身についたと思いますか。



【設問】あなたは福井大学で学習や研究をすることによって論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力がどの程度身についたと思いますか。



(注) 数字は、回答者数を表す。

(平成 19 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査より)

計画 3-4「【学士課程】社会的な要請のある新分野についての教育課程編成を検討する。」に係る状況

教育地域科学部では、実践的科目を新たに再編するとともに、企業等のアンケート調査を検証し、企業等が求める人材の養成をめざしたカリキュラムの見直しを行った。特に、平成 20 年度に「地域文化課程」と「地域社会課程」を発展的に統合した「地域科学課程」に改組し、社会的要請に対して適切に対応した【資料 3-4-1】。

資料 3-4-1 平成 20 年度から出発した地域科学課程





工学部では、原子炉の多い県にある大学として平成 16 年度に大学院独立専攻「原子力・エネルギー安全工学専攻」を設置したが、その基礎教育を学部で行なうため、平成 21 年度に「原子力・エネルギー安全工学副専攻コース」を設置する（平成 19 年度申請）。なお、同取組には平成 20 年度文科省政府課題対応経費が認められた【資料 3-4-3】。

資料 3-4-3 原子力・エネルギー安全工学副専攻コースの概略



(工学部現況調査表)

計画 3-5 「【大学院課程】社会人，外国人など多様な学生の受入れ体制とそのための教育課程の整備を進める。」に係る状況

各研究科では，平成 17 年度から大学院長期履修制度の活用【P108 資料 2-2-8～9】，夜間・特定時間帯での開講を行う夜間主コースの設置【資料 3-5-1】及び大学院設置基準第 14 条（教育方法の特例）の適用など【資料 3-5-2】，社会人の受入体制を整備した。

資料 3-5-1 教育学研究科夜間主コース，夜間主・学校改革実践研究コース受入れ状況

(人)

年度 コース	平成15 年度	平成16 年度	平成17 年度	平成18 年度	平成19 年度	合計
夜間主コース		3	4	4	4	15
夜間主・学校改革実践研究コース	4	7	9	4	6	30
合計	4	10	13	8	10	45

時間的制約の多い社会人等（現職教員）の便宜に配慮して，夜間の時間帯において授業を行う制度。

(事務局資料)

資料 3-5-2 大学院設置基準第 14 条（教育方法の特例）適用者状況

(人)

研究科	年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
教育学研究科	前期	14 (研究指導)	9 (研究指導)	8 (研究指導)	8 (研究指導)	9 (研究指導)	48
	後期	14 (研究指導)	9 (研究指導)	8 (研究指導)	8 (研究指導)	9 (研究指導)	48
医学系研究科 修士課程	前期	13 (研究指導)	13 (研究指導)	19 (研究指導)	21 (研究指導)	16 (研究指導)	82
	後期	13 (研究指導)	13 (研究指導)	19 (研究指導)	21 (研究指導)	16 (研究指導)	82
医学系研究科 博士課程	前期	69 (研究指導)	70 (研究指導)	75 (研究指導)	72 (研究指導)	84 (研究指導)	370
	後期	69 (研究指導)	72 (研究指導)	77 (研究指導)	72 (研究指導)	92 (研究指導)	382
工学研究科 博士前期課程	前期						0
	後期						0
工学研究科 博士後期課程	前期	32 (24科目， 研究指導)	35 (19科目， 研究指導)	24 (29科目， 研究指導)	26 (37科目， 研究指導)	24 (4科目， 研究指導)	141
	後期	33 (25科目， 研究指導)	39 (25科目， 研究指導)	31 (28科目， 研究指導)	29 (14科目， 研究指導)	21 (6科目， 研究指導)	153
合計	前期	128	127	126	127	133	641
	後期	129	133	135	130	138	665

科目数は延数

(事務局資料)

教育学研究科では、他学部出身者で新たに教員免許取得を希望する社会人に対して平成 18 年度に「教育職員免許取得プログラム」を設置した【資料 3-5-3】。また、平成 17 年度教員養成 G P に「学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院」が採択され【資料 3-5-4】、さらに平成 20 年度より「教職大学院」【P108 資料 2-2-7】を開設することは、教育課程の整備への積極的な取組として特記される。

資料 3-5-3 教育職員免許取得プログラム実施状況



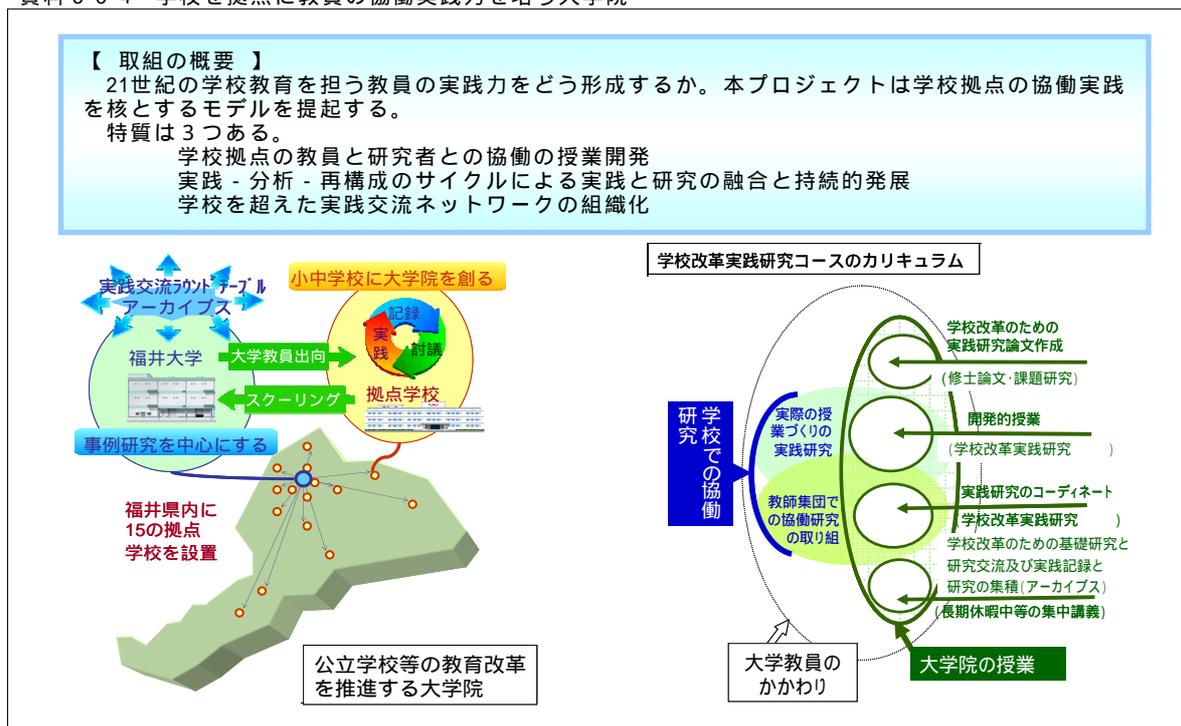
長期履修制度の導入  
**教育職員免許取得プログラム**  
福井大学大学院 教育学研究科

他学部出身者で新たに教員免許取得を希望する者や、他種免許の取得を希望する者のために、在学中に一種免許及び専修免許の取得が可能な「教育職員免許取得プログラム」を平成 18 年度から実施している。平成 18 年度は 3 名、平成 19 年度は 5 名の入学者がこの履修制度を利用している

入学年度 専修	氏名	入学前取得免許	許可免許	備考
		取得希望免許		
平成19年度 学校教育	A	なし 小学校1種, 中学校(国語・英語)1種, 高校(国語・英語)1種	小学校1種	
平成19年度 障害児教育	B	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種	小学校1種	
平成19年度 数学教育	C	高校(数学)1種 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種
平成19年度 英語教育	D	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成19年度 英語教育	E	中学校(英語)1種, 高校(英語)1種 小学校1種	小学校1種	
平成18年度 学校教育	F	なし 小学校1種, 中学校(英語)1種, 高校(英語)1種	小学校1種	
平成18年度 障害児教育	G	なし 小学校1種, 中学校(数学)1種, 高校(数学)1種, 養護学校1種	中学校(数学)1種	
平成18年度 数学教育	H	なし 小学校1種, 中学校(数学)1種	小学校1種	平成19年度後期から科目等履修生出願希望・中学校(数学)1種

(教育職員免許取得プログラムパンフレット及び基礎資料)

資料 3-5-4 学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院



(「福井大学基礎資料」及び「大学・大学院における教員養成推進プログラム申請書」より)

医学系研究科修士課程では専門看護師教育課程設置の一環として、平成 19 年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に、金沢大学等と共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」が採択され、医療関係者の受け入れ体制を整備した【資料 3-5-5】。

資料 3-5-5 北陸 5 大学の連携による「がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施

質の高いがん専門医等を養成する優れたプログラムに対し、文部科学省が財政支援を行う「がんプロフェッショナル養成プラン」において、平成 19 年度、北陸地区 5 大学（福井大、金沢大、富山大、金沢医科大、石川県立看護大）が共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム - ICT による融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築 -」が採択された。

本学では「がん看護専門看護師（OCNS）」の教育課程を設定している。

平成 20 年 2 月には、次年度からの本格導入を前に同プログラムの内容や意義、がん看護専門看護師への理解を深めるためにワークショップを開催し、県内外から約 100 名の看護師の参加を得た。

福井大など北陸の 5 大学の連携により、OCNS の教育課程（二年間）を春開設する福井大が、OCNS を目指すきっかけとして、同大における同養成プログラムの第一弾としてワークショップは、16 日、永平寺町の福井大松岡キャンパスで開いた。



がん看護専門看護師について約 100 人が理解を深めたワークショップ＝16 日、永平寺町の福井大松岡キャンパス

## がん専門看護師育て 北陸 5 大学連携し講座 永平寺町

OCNS の教育課程（二年間）を春開設する福井大が、OCNS を目指すきっかけとして、同大における同養成プログラムの第一弾としてワークショップは、16 日、永平寺町の福井大松岡キャンパスで開いた。

（福井新聞 H20.2.17）

同大の松岡浩子看護学部長が、同養成プログラムの概要を説明。大阪大附属病院で OCNS として活躍する田原恵子さんが、大学院での学習内容や現在の活動を紹介した。田原さんは「高度な知識を持つことで、一般の看護師では難しい病棟の検査や検査結果の解釈、調整や後の指導ができるようになった」と資格取得の意義を述べた。県内の看護部長らが専門看護師への期待を表す。質疑応答も行われ、より質の高い看護を目指して意見が交わされた。

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム開講講座一覧（本学開催分）

講座名	講座内容	対象者
腫瘍薬物学特論	抗がん剤の基礎的知識および作用機序と有害事象についての理解を深める。効果予測因子としてのバイオマーカーについても最新の知識を学ぶ。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
腫瘍放射線医学特論	根治療法および緩和療法としての放射線療法の適応や、治療計画および線量測定の原理を理解する。放射線治療の急性作用と遅発性作用の療法を把握する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
がん緩和医療学特論	がん緩和医療法に用いる薬剤の作用を理解し、緩和療法とはどのようなものであるかを理解する。緩和療法、支持療法における和漢薬についても理解を深める。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
がん外科学特論	外科医とともに、手術の適応および禁忌の理解を深め、悪性疾患患者の病期分類、根治療法、緩和医療における手術の役割を熟知する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
臨床腫瘍学特論	治療の一般原則を理解した上で、各種のがん治療および各悪性腫瘍に特有で考慮すべき事項について指導を受ける。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
腫瘍病理学特論	がんの確定診断と重症度、進展度を判断する上での病理学的診断の重要性を理解する。各種がん細胞における病理学的特徴についての知識を習得する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
臨床栄養学特論	がん臨床における栄養摂取、代謝などの変化を理解し、がん診療に必須の栄養学を多方面からのアプローチで習得する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、栄養士、歯科医師

（事務局資料）

工学研究科では、外国人留学生のニーズに対応して、国際総合工学特別コースを設けて英語による教育・研究指導を実施した【資料 3-5-6】。平成 19 年度から博士後期課程に、日本人と留学生の共学の国際共学ネットワーク特別コースを新設した。【P126 資料 3-5-7】。これらのコースの留学生数は国費留学生枠を満たしている【P126 資料 3-5-8】。

資料 3-5-6 国際総合工学特別コース教育課程表（抜粋）

Global Engineering Program for International Students (GEPIS)

国際総合工学特別コース

Materials, System Design Engineering 物質・システム設計系		履修方法
Subject (授業科目)	Credits 単位	1.本表の授業科目から業科目及び所属専攻教育課程表の授業科目から10単位以上選択。 2.所属する専攻の必修科目,特別演習及び実験を8~10単位必修。ただし,科学英語関係科目は除く。 3.所属専攻の選択科目(科学英語関係科目を除く),研究科共通科目及び本表中から10~12単位以上履修する。ただし,研究科共通科目及び他専攻科目は8単位までを修了に必要な単位数に算入することができる。 4.上記条件を満たして,合計30単位以上を履修すること。 5.日本語関係科目は,単位の認定されない科目である。この科目を履修した場合は,請求により履修証明書を交付する。
Environmental Strength of Materials	環境材料強度学 2	
Fluid Mechanics	流体力学 2	
Dynamics	動力学 2	
Advanced Engineering for Electric Energy *	電気エネルギー基礎論* 2	
Advanced System Science *	システム工学特論* 2	
Digital Network, Adv.	デジタルネットワーク特論 2	
Information Theory and Data Compression, Adv.	情報理論とデータ圧縮特論 2	
Environmental Hydraulics	環境水理学 2	
National and Regional Planning, Adv.	国土・地域計画特論 2	
Town and Country Planning, Adv.	都市論 2	
Theory of Polymer Solution	高分子溶液論 2	
Material Processing and Engineering	材料加工工学特論 2	
Bioengineering, Adv.	生物工学特論 2	
Organic Chemistry, Adv.	有機化学特論 2	
Advanced Quantum Mechanics	量子力学特論 2	
General Relativity	相対論特論 2	
Introduction to Field Theory and Particle Physics	場の理論と素粒子物理学入門 2	
Physics of Magnetism	固体物理学 2	
Cryogenic Engineering	低温工学 2	
Application of Spectroscopy on condensed matter	分子分光光学特論 2	
Advanced Bioinformatics	生体情報工学特論 2	
Motion Control of Robots	ロボット運動制御論 2	
<b>Inter-Faculty Japanese Language Program 日本語関係科目</b>		
Japanese	日本語	

\* 3人以上の受講者がある場合のみ開講

(大学院生便覧)

資料 3-5-7 国際共学ネットワーク特別コース教育課程表（抜粋）

博士後期課程教育課程表

Global Network Engineering Program for International Students (GNEPIS)

国際共学ネットワーク特別コース

Material Engineering Sub-Course 物質工学サブコース			Requirements
Subject		Credits	
Advanced Physical Engineering	物理工学特別講義	2	1. 本表の所属専攻講座 担当授業科目及び所属 専攻教育課程表の授業 科目から4単位以上 選択。 2. 所属専攻講座の特別 演習2単位及び研究 ゼミナール4単位必 修。 3. 上記条件を満たして 合計10単位以上を履 修すること。 4. 日本語関係科目は、 単位の認定されない 科目である。この 科目を履修した場 合は、請求により履修 証明書を交付する。
Advanced Physical Engineering	物理工学特別講義	2	
Exercises for Physical Science	物理工学特別演習	1	
Exercises for Physical Science	物理工学特別演習	1	
Seminar for Physical Science	物理工学研究ゼミナール	2	
Seminar for Physical Science	物理工学研究ゼミナール	2	
Advanced Molecular Engineering	分子工学特別講義	2	
Advanced Molecular Engineering	分子工学特別講義	2	
Molecular Engineering Exercise	分子工学特別演習	1	
Molecular Engineering Exercise	分子工学特別演習	1	
Molecular Engineering Special Seminar	分子工学研究ゼミナール	2	
Molecular Engineering Special Seminar	分子工学研究ゼミナール	2	
Advanced Biological and Applied Chemistry	生物応用化学特別講義	2	
Advanced Biological and Applied Chemistry	生物応用化学特別講義	2	
Advanced Seminar in Applied Chemistry	生物応用化学特別演習	1	
Advanced Seminar in Applied Chemistry	生物応用化学特別演習	1	
Research Seminar	生物応用化学研究ゼミナール	2	
Research Seminar	生物応用化学研究ゼミナール	2	
Advanced Materials Processing	物質加工学特別講義	2	
Advanced Materials Processing	物質加工学特別講義	2	
Advanced Practice in Material Processing	物質加工学特別演習	1	
Advanced Practice in Material Processing	物質加工学特別演習	1	
Seminar in Material Processing	物質加工学研究ゼミナール	2	
Seminar in Material Processing	物質加工学研究ゼミナール	2	
Inter-Faculty Japanese Language Program 日本語関係科目			
Japanese	日本語	2	

（大学院生便覧）

資料 3-5-8 GEPIS 及び GNEPIS プログラムへの外国人留学生の入学数の推移

年度	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19
博士前期課程				1	5	7	2
博士後期課程	8	9	8	7	7	6	6
国費留学生枠	6	6	6	6	6	6	4

博士後期課程は平成 13 年度に GEPIS 開始，平成 19 年度に GNEPIS 開始

博士前期課程は平成 16 年度に GEPIS 開始

（事務局資料）

## 計画 3-6 「【大学院課程】学問的進歩や社会的ニーズに鑑みたカリキュラムの編成に努める。」に係る状況

教育学研究科では、平成 20 年 4 月の「教職大学院」開設【P108 資料 2-2-7】と併せ、既存の大学院についても総体として、21 世紀の知識基盤社会に生きる力を培う教育を支える専門職のための中核機関としての再編成（新・学校教育専攻と新・教科教育専攻の設置）を行い、社会的なニーズに適切に対応した【資料 3-6-1】。さらに教員養成学部以外の卒業生を対象に、教育職員免許取得プログラムを平成 18 年度に開始した【P128 資料 3-6-2】。

資料 3-6-1 既設大学院の改組概要の例（教育学研究科）

### 学校教育専攻

学校教育が直面する諸課題は、学校の内部努力だけで解決できるものではなく、学校を支える地域との協働により解決の糸口を探る営みが今求められています。学校教育専攻は地域に支えられた学校のあり方を実践的に学び、新しい地域-学校モデルを創生しようとする専攻です。

#### 学校教育専攻の特徴

- 学校教育専攻の教育課程は、新たな学校教育の課題にかなう教職専門の資質と能力、これまでの障害児教育専攻で培ってきた、多様なニーズに応える学習支援を行う資質と能力、学校とそれを支える地域コミュニティの協働という三つの柱から構成されています。
- 学校を支えるコミュニティの再生と人間力を形成するために、必修科目「協働実践研究プロジェクト」において、子どもたちや家族の多様なニーズに応える見識と専門的力量、そして生涯学習、地域の文化振興、健康教育、環境教育、国際教育など、学校と地域の連携なくしては実現できない諸課題を体験的に実践研究します。

### 教科教育専攻

21世紀の知的基盤社会に生きる力は、PISA（OECD生徒の学習到達度調査）のリテラシーに象徴されるような実践的探究的な学力であると考えられます。教科教育専攻では、教科専門の力を伸ばすとともに、リテラシーと人間力を育むためのカリキュラム開発を通じて、児童生徒の真の学力向上を支援できる教員の養成を目指します。

#### 教科教育専攻の特徴

- 専門領域別教育研究と課題研究の履修および修士論文作成を通じて、教師に求められる高度な教科専門性と指導力を身につけます。
- 必修科目「協働実践研究プロジェクト（PISA型、探究と体験型カリキュラム開発）」では、大学院生と教員による2年間の協働研究を通じて、児童・生徒のリテラシー形成と人間力育成を支援するための教科横断的なカリキュラム開発と授業プランの検討を行います。
- 教育を深く考え、柔軟に発想する力を持ち、より高度な教科専門性と実践力を身につけ、教育現場での授業開発や協働研究において中心的な役割を果たし得る教員を養成します。

#### 教科教育専攻の教育課程 (計30単位以上)

**協働実践研究プロジェクト**  
知的基盤社会に生きる  
リテラシーを育てるカリキュラム開発

PISA型  
探究と体験型

(8単位)

#### 領域別専門科目

教科教育研究  
教科に関する科目

(計18単位以上)

課題研究(4単位)・修士論文

(大学院教育学研究科パンフレット)

## 教育職員免許取得プログラムに基づく学部の教員養成カリキュラムの履修に関する申合せ

## 1. 取得できる教員免許状の数

教育職員免許取得プログラム（以下「本プログラム」という。）に基づき、学部の教員養成カリキュラムを履修し取得することができる教員免許状は、原則として1種類かつ1教科とする。ただし、中学校又は高等学校のいずれかの学校の1教科に係る教員免許状の取得を許可された者が、必要な単位を修得した結果、もう一方の学校の同一教科に係る教員免許状の取得要件を満たすこととなった場合は、この限りでない。

## 2. 他大学等における既修得単位の認定

本研究科入学前に課程認定以外の大学の課程等で修得した単位で、本プログラムに基づき取得する教員免許状の教科に関する科目の単位として適当であると認めるときは、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）別表第1備考第5号口の規定に基づき、「他の大学等において修得した単位、大学以外の教育施設等における学修、入学前の既修得単位等に対する教育地域科学部における単位の認定手続に関する申合せ（平成12年2月4日教授会決定）」を準用し、学部教務学生委員会及び研究科委員会の議を経て、本プログラムに基づき学部の教員養成カリキュラムを履修し修得したものとみなし、単位を認定することができるものとする。

## 3. 科目の学籍簿登載

本プログラムに基づき、教員免許状を取得するために学部の教員養成カリキュラムを履修し単位を修得した科目（上記2により単位を認定された科目を含む。）は、学籍簿に登載する。

## 4. 学部科目等履修生としての出願承認

本プログラムに基づき取得することを許可された教員免許状に加え、さらに別の種類又は教科の教員免許状の取得を希望する者があるときは、本研究科入学前に他の大学・学部等で当該教員免許状取得に必要な単位を相当程度修得している等の理由により、本プログラムに基づく大学院の教育課程の履修及び学部の教員養成カリキュラムの履修に特段の支障がないと認められる場合に限り、「大学院教育学研究科学生及び入学予定者の科目等履修生出願の承認に関する申合せ（平成16年5月7日研究科委員会決定）」に基づき、研究科委員会の議を経て、学部科目等履修生としての出願を認めることができるものとする。

## 附 則

この申合せは、平成19年7月6日から施行する。

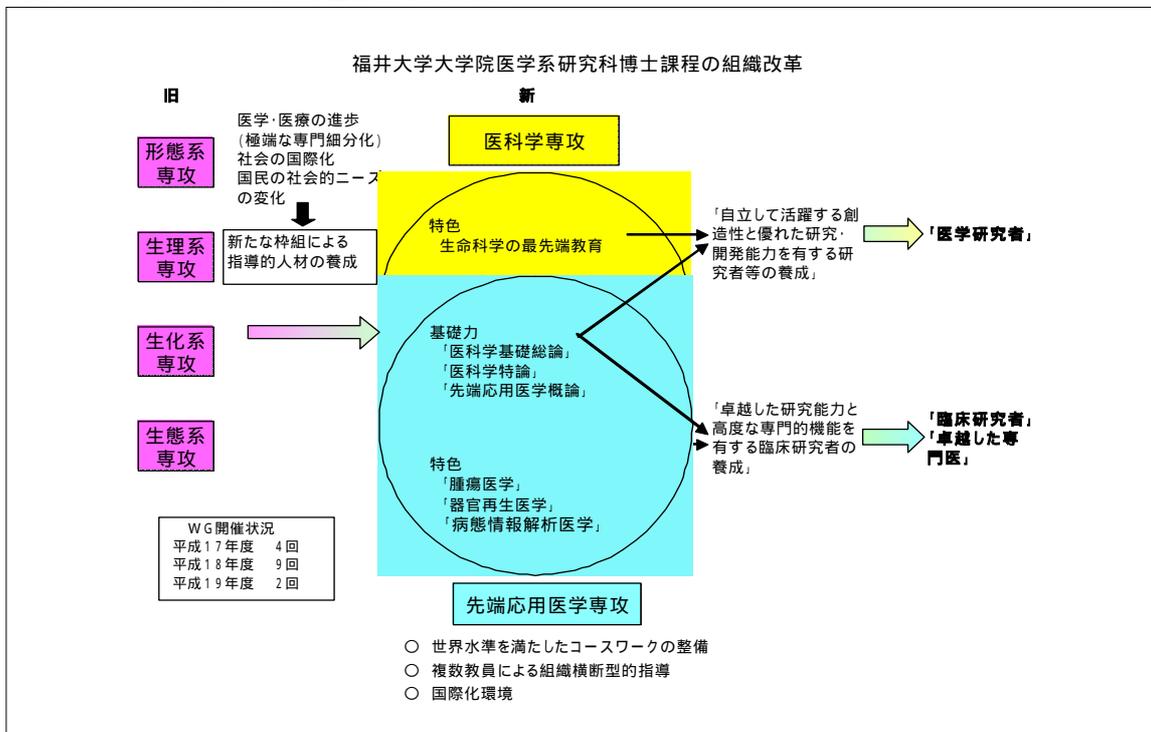
## 教育職員免許取得プログラム履修許可状況

取得年度	取得人数
平成18年度	3名
平成19年度	5名
平成20年度	4名

（教育学研究科資料）

医学系研究科博士課程では、学問的進歩に対応するため平成 20 年に大学院教員組織体制を改組し、新規カリキュラムを編成することによって大学院教育をさらに実質化する【資料 3-6-3】。また、同修士課程では「がんプロフェッショナル養成プラン」に基づく専門看護師教育課程を平成 19 年度に設置し、社会的なニーズに適切に対応した【P124 資料 3-5-5】。

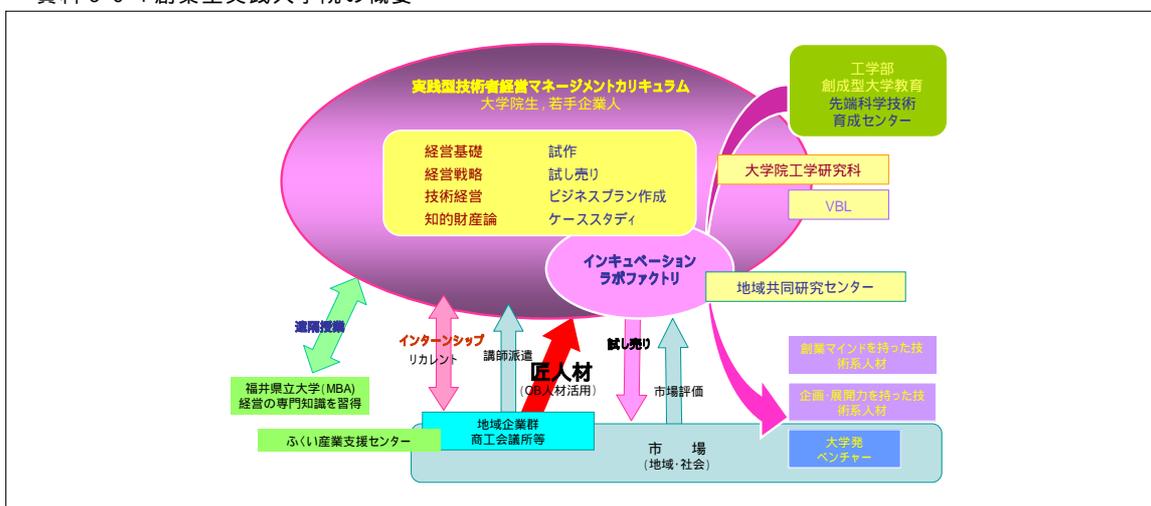
資料 3-6-3 医学系研究科博士課程の組織改革



(事務局資料)

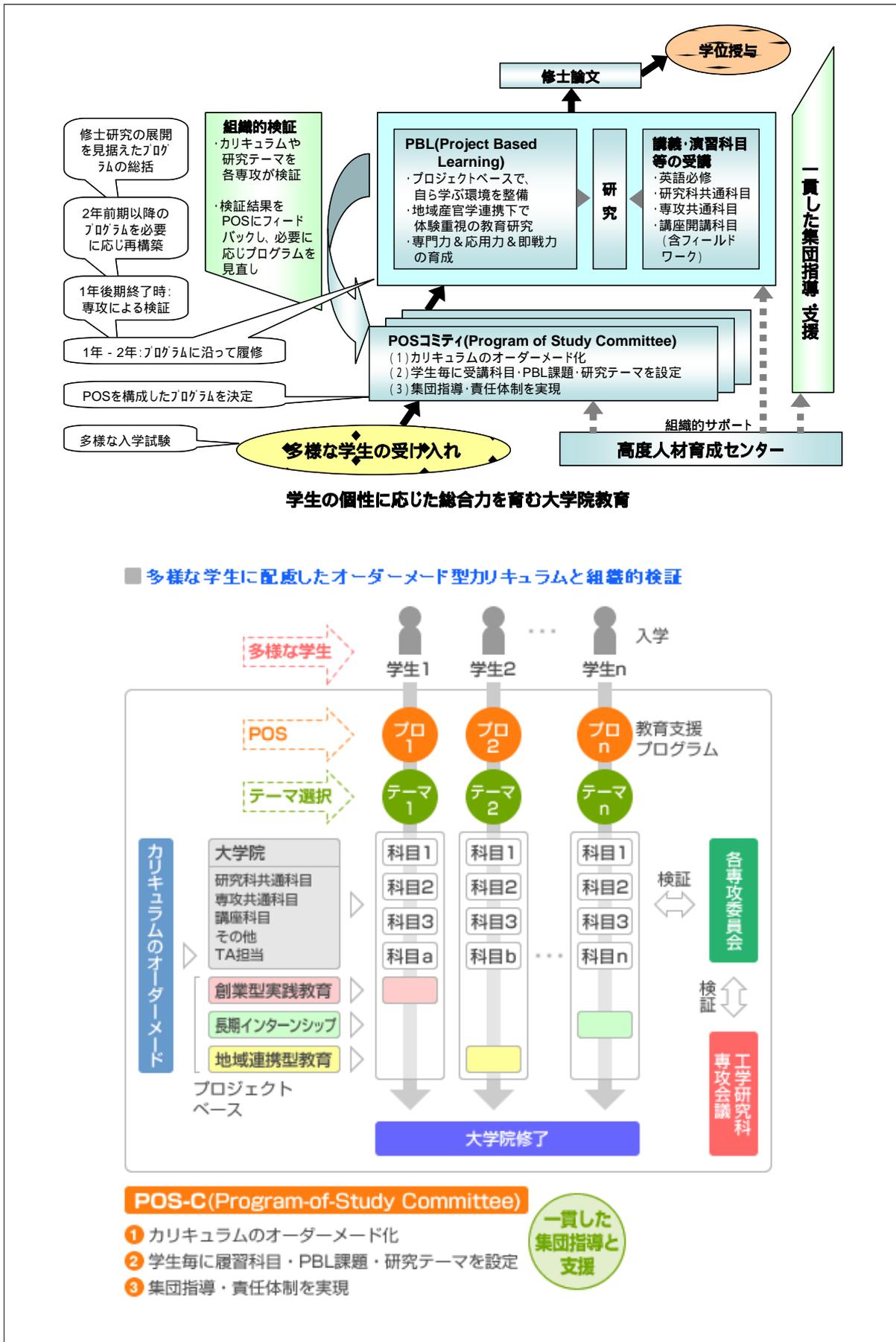
工学研究科では、平成 18 年度文部科学省予算による「派遣型高度人材育成協同プラン」や平成 18 年度文部科学省特別教育研究経費による「創業型実践大学院教育プログラム」を開始し、企業等での実践力を重視した教育を推進した【資料 3-6-4】。特に、これら取組を取入れた「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」【P130 資料 3-6-5】が平成 19 年度大学院教育改革支援プログラムに採択されたことは、これら取組が高く評価された証左である。

資料 3-6-4 創業型実践大学院の概要



(工学部資料)

資料 3-6-5 「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」の概要



(学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育パンフレットより)

計画 3-7 「【共通】留学生に対する英語による教育プログラムと日本語教育プログラムを充実させる。」に係る状況

「短期留学プログラム」に基づく英語による授業及び研究指導並びに日本語教育を推進している【資料 3-7-1～2】。同プログラムの留学生受入数は概ね受け入れ定員数を満たしている【P132 資料 3-7-3】。さらに、工学研究科では国際総合工学特別コースを設けて英語による教育・研究指導を実施しているほか、博士後期課程では平成 19 年度から日本人学生と留学生が共学する国際共学ネットワーク特別コースを設置した【P126 資料 3-5-7～8】。

資料 3-7-1 福井大学短期留学プログラムについて

プログラム概要

学術交流協定校からの留学生向けに作られたプログラムで、学部生向けには日本語・日本事情に関する科目と主に英語による専門教育を、また大学院生には英語による研究指導を行っている。日本語能力を必要としないため、これまで日本語を習ったことのない学生でも参加が可能。学部生向けの専門教育では 70 もの科目が用意されており、留学生に幅広い選択肢を提供している。

期間

10 月～ 9 月（1 年間）

定員

20 名

プログラム内容（平成 19 年度）

学部学生： 修了要件：30 単位

日本語・日本事情系科目（10 単位必修）

伝統産業計科目 2 科目（2 単位必修）

専攻科目 4 分野（社会・文化系、環境系、情報系、物質系）計 71 科目（18 単位必修）

8 単位の特別課題研究が含まれ、研究をしたいという学生に研究室に所属して研究を行う機会を与えている。

修士学生： 英語による研究指導及び日本語教育



（平成 19 年度「福井大学短期留学プログラム募集要項」等より）

資料 3-7-2 短期留学プログラム参加者のからのコメント

If I have anything I want to ask, my supervisor always welcomed me. My tutor helped me much. During my research, free talking, and any bothering situation, he was always there to help. I didn't find any difficult things during the program.

何か質問したいことがある時、指導教員の先生はいつでも歓迎してくれました。またチューターは、課題研究や日常の会話の中で、また何か問題が起こった時など、いつも私を助けてくれました。おかげで、滞在中何も困ったことはありませんでした。

I think this program is meaningful and useful. Not only did I deepen my knowledge in the field of my major, but also I'm allowed to have a touch with the Japanese culture and society.

このプログラムは大変有益なものであると思います。専門分野に関する知識を深めるに留まらず、日本文化・社会に触れる機会が得られました。

Here in the University of Fukui, there is the International Student Center. When we are in difficulties, I can get a lot of guidance from teachers and service desk.

福井大学には留学生センターがあり、何か問題が起こった時など、先生やスタッフが様々な相談に乗ってくれました。

Although it is strange for me to do special research, I found it is interesting and what's more, it is worth taking time.

課題研究は私にとってなじみの薄いものでしたが、実際に経験したところ興味深く、時間をかけて取り組む意味のあるものだと思います。

(事務局資料)

資料 3-7-3 短期留学プログラム申込者数・参加者数・大学院進学者数推移 (定員 20 名)

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
申込者数	38 名	33 名	31 名	43 名
参加者数	16 名	20 名	19 名	20 名
本学大学院進学者数	(H18 年度大学院入学) 4 名	(H19 年度大学院入学) 6 名	(H20 年度大学院入学) 8 名	-

(事務局資料)

留学生に対する日本語教育プログラムの一環として、留学生センターを中心に Web を利用した日本語学習ソフト CALL【資料 3-7-4】を開発し、平成 17 年度に留学生センターホームページに自習用教材として掲載した。本学の留学生だけでなく、本学に留学予定の渡日前の学生にも使用できるよう配慮し、個別学習が可能となる CALL 教材と一斉授業との連携によって学習効率が向上した。これら日本語教育プログラムは留学生から好評を得ている【P134 資料 3-7-5】。

資料 3-7-4 Web を利用した日本語の文字・語彙学習用ソフト (CALL) について

教材 1 : Katakana Dictation 書いてみよう

【使用者対象】

初級～上級日本語学習者

【練習形式】

画面上の「voice」をクリックすると、カタカナ語の音声を聞くことができる。学習者はそれを画面上の四角の中に正しく筆記する。筆記はタイプ入力ではなく、画面上のカタカナチャートから適切なカナを選ぶ方法である。このような入力方法をとることによって、学習者の負担が軽減すると同時に、海外での使用を可能にすることができる。(図 1 参照)

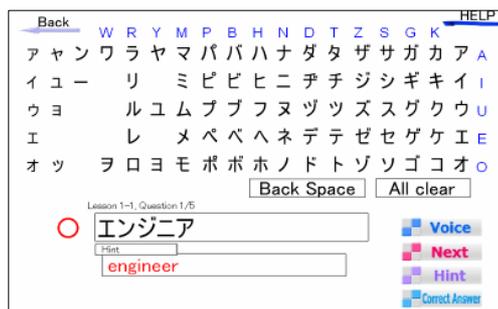


図 1 'Katakana Dictation 書いてみよう'画面例

教材 2 : カタカナ語チャレンジ (中級用)

【使用者対象】

中級～上級日本語学習者

【練習形式】

文中の空欄に当てはまるカタカナ語を、3つの選択肢の中から選ぶ。(図 2 参照)

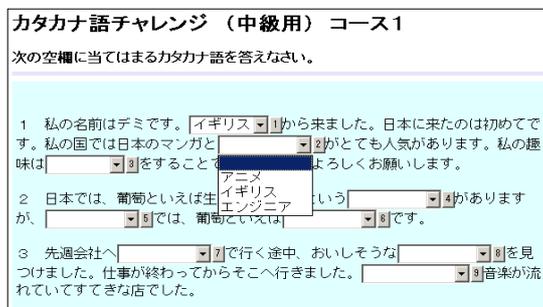


図 2 カタカナ語チャレンジ (中級用)画面例

教材 3 : 日本語聞き取り教材「何とっていますか」

【使用者対象】

初級～日本語学習者 (中国語母語話者向け)

【練習形式】

単語の音声を聞くことができる。画面上の 2つの単語 (ミニマルペア) から、その音声に一致するほうを選択する。(図 3 参照)

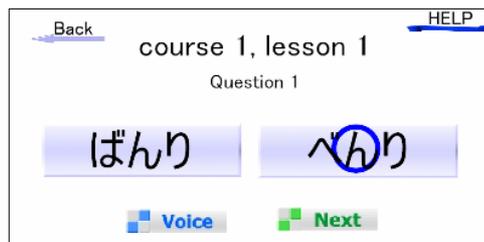


図 3 聞き取り教材「何とっていますか」画面例

(留学生センター資料)

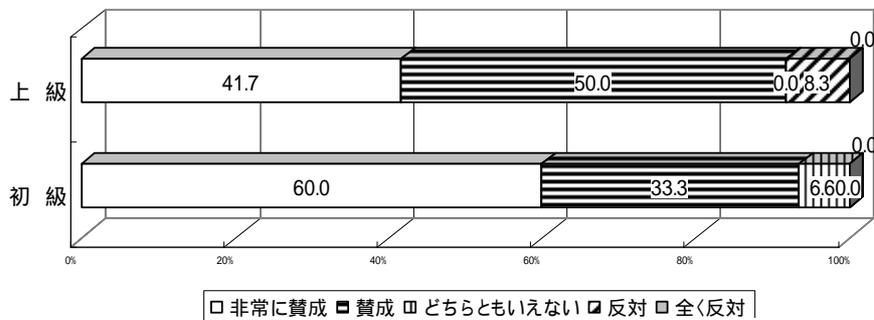
資料 3-7-5 日本語教材に対する留学生の評価

教育 2

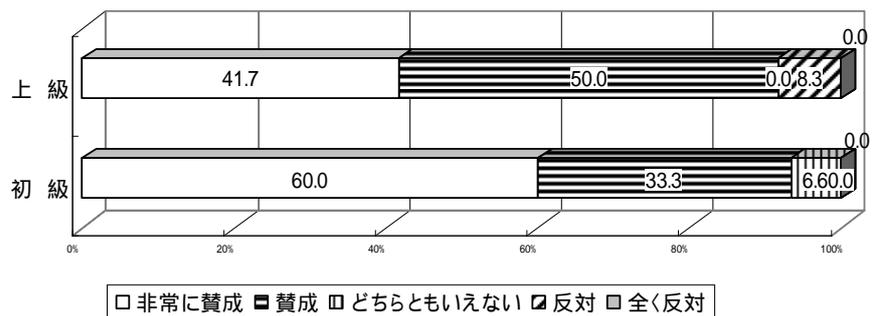
中項目 2

教育内容等「計画 3-7」

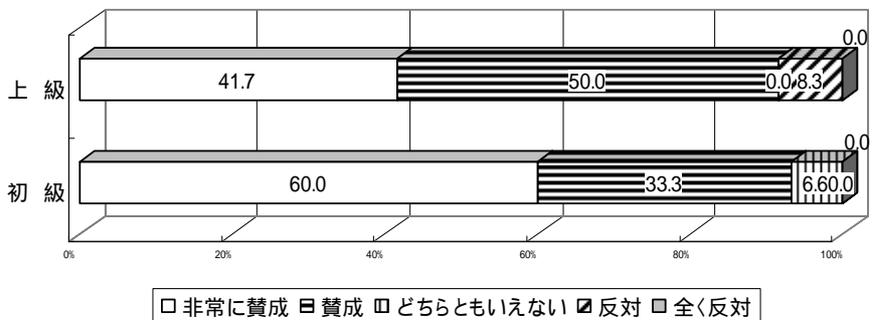
カタカナ語の勉強に役立つ



カタカナ語の正しいつづりを覚えるのに役立つ



教材の使い方は分かりやすい



(注) 数字は、回答者の割合を表す。

(事務局資料)

計画 3-8「特色ある大学教育支援プログラムに基づき、「ライフパートナー事業」や「探求ネットワーク事業」などの実践的教育を行えるカリキュラムの整備・充実を図る。」に係る状況

教育地域科学部においては、平成 15 年度特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の実施プログラムに基づいて【P23 資料 1-5-1】、「教育実践研究」では e-ポートフォリオシステムを活用した実習の記録化や教育実習生のサポートをインターシップの大学院生が担当するなどの試み【P150 資料 4-2-3】、「ライフパートナー事業」では県内 8 適応指導教室と連携し不登校及び軽度発達障害児童・生徒の支援活動、さらに「探求ネットワーク事業」では 300 名規模の小中学生を相手に通年の探求活動を進め、年度末には活動と省察を報告書にまとめ、交流・発表する場をもった【P24 資料 1-5-2~3】。これらをコアに学部のカリキュラム再編に取り組んだ【資料 3-8-1】。

資料 3-8-1 地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

ブロック	15年度		16年度		17年度		18年度	
	子ども	学生	子ども	学生	子ども	学生	子ども	学生
わくわくキャンプ工房ブロック	70	20	27	13	27	21	27	26
ふれあい村 探求ネットワーク	—	—	30	14	22	17	27	19
ナチュラルキッキングパラダイスブロック	—	—	30	13	29	19	32	20
ふれあいフレンドクラブ	34	32	34	33	29	31	30	44
福井まちなか探求隊ブロック	17	12	15	13	19	20	21	16
かみずきブロック	18	12	20	10	25	16	26	15
探求ネットワーク	22	19	25	15	37	20	33	20
ふれあいフレンドクラブ	36	13	34	18	31	21	30	17
もくもくブロック	39	15	36	15	32	21	40	20

(地域と協働する実践的教員養成プロジェクト実施報告書)

計画 3-9 「医学部の医学教育モデルコアカリキュラムに準拠したカリキュラムの点検・整備充実を図る。」に係る状況

平成 15 年度から「医学教育モデルコアカリキュラム」に準拠する新規な医学教育カリキュラムを学年進行で円滑に導入した【資料 3-9-1】。

資料 3-9-1 医学教育モデルコアカリキュラムに準拠した医学科教育課程

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	7W	8W	後期
1	英語1	英語3	医学英語1	医学英語2	医学英語3	医学英語4	医学英語5	実用医学英語					
2	英語2	英語4	細胞の基本構造と機能 (19)	遺伝と遺伝子 (27)	原因と病態 (42)	血液・造血器・リンパ系 (22)	感染症 (19)	免疫・アレルギー疾患 (17)					
3	独語1・仏語1 中国語1	独語2・仏語2 中国語2	個体の発生 (11)			腎臓内科 (15)	神経系 (42)	物理・化学的因子による疾患 (7) 加齢と老化 (8)					医学・医療と社会 3(20)
4	運動スポーツ科学実習	人の行動と心理 (15)						成長と発達 (12)					
5	数学基礎	健康科学 (15)		生体と微生物 (40)				死と法 (20)					
6	物理現象と物質の科学 (34)		組織と各臓器の構成 (65)		生体と薬物 (41)		泌尿器系 (21)	皮膚系 (15)	症候・病態からのアプローチ (10)				
7													
8	生命現象の科学 (46)			免疫と生体防御(12)	生体と放射線 (7)		内分泌・栄養・代謝系 (25)	運動器系 (20)					
9	情報の科学1 (15)	情報の科学2 (20)			生体と医動物 (27)		眼・視覚系(10)	基本的診療知識 (60)					
10	医学のための物理学入門	体力作り科学	個体の調節機構とホメオスタシス(47)			女性生殖機能・乳房 (31)	耳鼻咽喉・口腔系 (23)						
11	医学のための生物学入門	現代物理学入門		人体解剖学1 (80)	ファイトケミ (12)		循環器系 (34)	精神系 (16)					
12	総合教養ゼミナール	倫理の基礎から応用へ	生体物質の代謝(34)					基本的診療技能 (45)					
13	心理行動科学入門	医療分野のドイツ語			研究室配属 (60)		循環器系 (12)						
14	生命倫理学入門	応用数学	医科学基礎実習 (54)			呼吸器系 (20)	医学・医療と社会1 (40)	医学・医療と社会2 (36)					
15	歴史学	文化人類学				消化器系 (31)							
16	文学	社会学		人体解剖学2 (40)									
17	法学	芸術学			アドバンストコース ホルモンの情報...		消化器系 (12)	アドバンストコース 整形外科・リハビリ他					
18	医療経済学入門	教養特別講義2			分子細胞情報学 分子免疫学 医科学特論		アドバンストコース 先端医学生体工	熱帯医学 神経疾患					
19	哲学的人間学	コミュニケーションとチーム医療(7)					コミュニケーションとチーム医療 (2)	コミュニケーションとチーム医療(4)	医療における安全性への配慮と危機管理 (5) 医の原則(10)				
20	教養特別講義	入門テュートリアル(30)	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験				
21	経済学												
22	医学入門 (15)				医学導入	A項目	D項目						
23	医学概論 (15)				準備教育	B項目	E項目						
24					選択科目	C項目	F項目						
25	試験	試験			必修科目	選択必修科目	アドバンストコース	テュートリアル					

1年次生の1枠は1コマを表す  
科目名横の( )内数字はコマ数を表す  
\* 学外関連病院及び基礎医学講座研修など選択制をとる。

**医療人として社会から求められている科目の開講**

(高い倫理観を涵養するための科目)  
生命倫理学入門, 倫理の基礎から応用へ (1年) 医の原則 (4年)

(医療における安全管理能力を涵養するための科目)  
医療における安全性への配慮と危機管理 (4年)

(コミュニケーション能力の向上を図るための科目)  
医学入門(1年), コミュニケーションとチーム医療(1年・3年・4年), 基本的診療知識 (4年)

(課題探求・解決能力の向上を図るための科目)  
入門テュートリアル (1年), テュートリアル1 (3年), 循環器系 (3年), 消化器系 (3年), 神経系 (4年)

(医学部現況調査表)

当該カリキュラムの点検・整備・充実を担当する「医学部教育開発推進センター」を平成18年度に設置し、定期的に意見聴取を行いその結果に基づきカリキュラムの随時改善を行った【P35 資料 1-6-1, P38 資料 1-6-3】。

課題探求・解決型教育としての「チュートリアル教育」、社会ニーズ等を考慮した選択性コースとしての「アドバンストコース」、「医学準備教育モデルコアカリキュラム」に準拠した医学準備教育カリキュラムの導入等、新規の医学教育コースを積極的に取り入れた。これら取組は学生から好評を得ている【資料 3-9-2】。

資料 3-9-2 教育課程全般に対する学生の評価

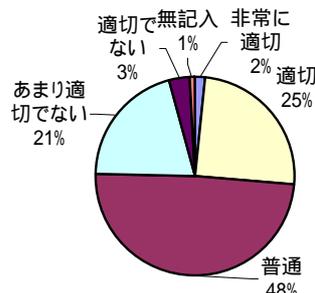
旧教育課程履修の卒業生と新教育課程履修の学生(4年次生)を比較すると、教育課程全般に対して「非常に適切」～「適切」と回答したものが26%から48%の増加している。単純な比較は難しいが、少なくとも新教育課程の導入は関係者の期待に応えていることが示唆される。

医学科

卒業生対象

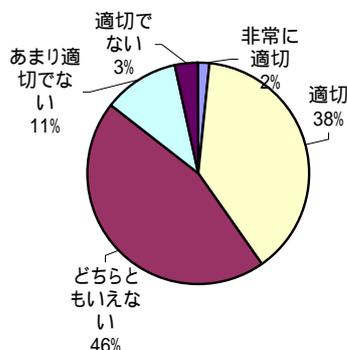
臨床現場に臨んでいる現時点で、あなたの履修した医学教育カリキュラム全般についてお尋ねします。

設問：医学教育カリキュラム全体（科目構成、開講時期など）は適切なものでしたか？



	回答者数
非常に適切	2
適切	29
普通	57
あまり適切でない	24
適切でない	4
無記入	1
合計	117

設問：臨床実習等の医学教育カリキュラムは臨床研修の前提となる基礎的な診療技術・知識を習得する上で適切なものでしたか？



	回答者数
非常に適切	2
適切	45
どちらともいえない	53
あまり適切でない	13
適切でない	4
合計	117

(回収率30.4%)

(資料「卒業生対象 福井大学医学部医学教育カリキュラムに関するアンケート集計結果」より抜粋  
(注)平成16～19年度卒業生を旧医学科教育課程履修者として調査対象とした。

(医学部現況調査表)

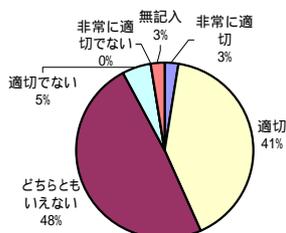
資料 3-9-2 教育課程全般に対する学生の評価（続き）

医学科

4年生

設問：1年次以降の臨床前医学教育カリキュラム全体（科目構成、開講時期など）は臨床実習に臨む上で適切なものでしたか？

18年度

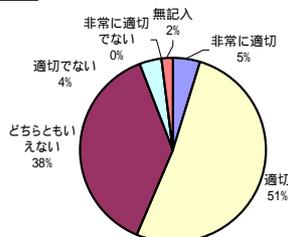


平成18年度	回答者数
非常に適切	2
適切	31
どちらともいえない	37
適切でない	4
非常に適切でない	0
無記入	2
合計	76

（回収率84.3%）

（資料「平成18年度医学科4年次生カリキュラム評価アンケート」より抜粋）

19年度



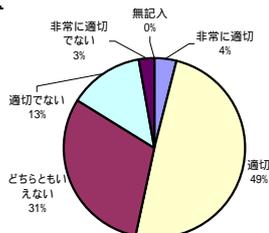
平成18年度	回答者数
非常に適切	5
適切	53
どちらともいえない	39
適切でない	4
非常に適切でない	0
無記入	2
合計	103

（回収率100%）

（資料「平成19年度医学科4年次生カリキュラム評価アンケート」より抜粋）

設問：臨床前医学教育カリキュラム全体はCBTおよびOSCEを受験する上で適切なものでしたか？

18年度

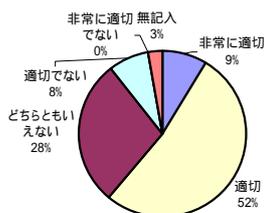


平成18年度	回答者数
非常に適切	3
適切	37
どちらともいえない	23
適切でない	10
非常に適切でない	2
無記入	0
合計	75

（回収率84.3%）

（資料「平成18年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート」より抜粋）

19年度



平成19年度	回答者数
非常に適切	9
適切	54
どちらともいえない	29
適切でない	8
非常に適切でない	0
無記入	3
合計	103

（回収率100%）

（資料「平成19年度医学科4年生カリキュラム評価アンケート」より抜粋）

（医学部現況調査表）

平成 16 年度現代 G P「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」の実施プログラムに基づき、実践的医学英語教育を推進した【P17 資料 1-3-10】

全国一律に実施される C B T (Computer-based Testing)において、新カリキュラム履修学生は旧カリキュラム履修者に比べ成績が向上している【資料 3-9-3】。これは新カリキュラムの導入が教育の質的向上をもたらしたことの証左である。

資料 3-9-3 臨床実習時点における医学科学生の十分な学力と高い資質・能力の修得

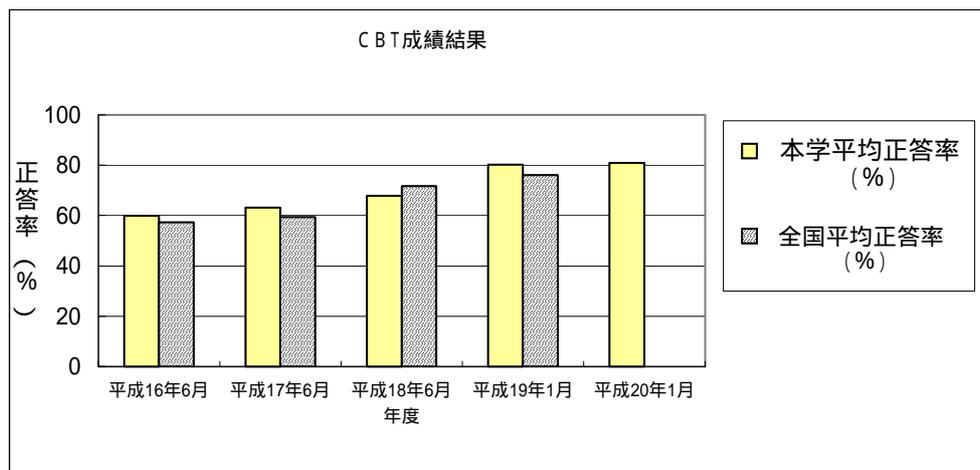
CBT の概要

共用試験 (CBT)では、臨床実習開始前までに修得しておくべき必要不可欠な医学的知識を総合的に理解しているかどうかを評価する知識・問題解決能力の客観的評価試験であり、全国的に一定水準に達しているかを評価する。本学部では 4 年生 1 月末に実施しており、進級要件 (臨床実習履修要件) としている。学生は「情報処理演習室」に設置したパソコン上で各自に出題される問題を解答する。なお、平成 19 年度以降の受験者は新教育課程履修者である。

共用試験 (CBT) 結果

	トライアル(旧カリ) 平成16年6月	トライアル(旧カリ) 平成17年6月	正式実施(旧カリ) 平成18年6月	正式実施(新カリ) 平成19年1月	正式実施(新カリ) 平成20年1月
本学平均正答率 (%)	59.9	63.2	67.8	80.2	80.9
全国平均正答率 (%)	57.3	59.4	71.7	76.1	*

\*全国平均は集計結果がまだ発表されていない。



(事務局資料)

計画 3-10「大学院医学系研究科博士課程では、21世紀COEプログラムの教育実施計画に基づく大学院学生の支援を行う。」に係る状況

COE 特別研究員制度【資料 3-10-1~2】により平成 16 年度から毎年 1 名の研究員を採用し、大学院生を支援した。当該大学院生による研究成果は原著論文として公表された【P141 資料 3-10-3】。さらに、大学院生の国際学会における研究発表の機会を増やすため、公募による出張旅費の支援を行った（平成 18 年度 5 件；平成 19 年度 5 件）。

資料 3-10-1 COE の概要



「生体画像医学の統合研究プログラム」



プロジェクトリーダー

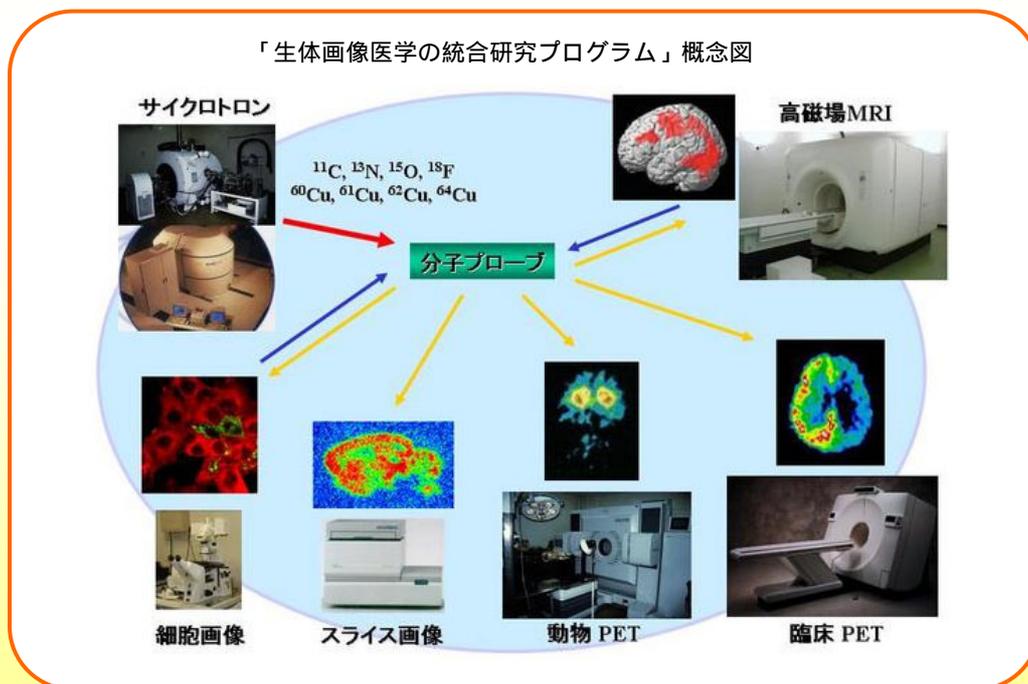
高エネルギー  
医学研究センター  
センター長  
藤林 康久

- 生体画像医学から新しい診断・医療の創成
- ・生命現象の理解から疾患の理解へと繋がる新知見の発見
  - ・臨床診断，治療に津ながら薬物・技術の創成

- “近代の知”と“臨床の知”を併せ持つ人材の育成
- ・近代の知：分子生物学を代表とする解析的研究能力
  - ・臨床の知：多面的生命現象の統合的解析能力

- 人材を育む環境の整備
- ・有機的に組織された実験機器と高度研究支援者集団  
基礎研究機器から臨床診断機器までの一括運営・管理  
高度研究支援者の養成と指導
  - ・アイデア重視の研究指導・支援  
プロジェクト提案型研究の指導・独立支援  
博士研究員・リサーチアシスタント制度による支援
  - ・独創性，研究実施能力に対する的確な評価システム  
COE推進本部，COE運営委員会の設置

「生体画像医学の統合研究プログラム」概念図



（福井大学HP「高エネルギー医学研究センターHP」）

## 資料 3-10-2 COE 特別研究員制度の概要

この度、本学 21 世紀 COE プログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」では、日本学術振興会特別研究員（21 世紀 COE プログラム）を採用することとなりました。

画像情報を利用した基礎・臨床医学研究をはじめとして、本 COE 実施計画に合致する研究を専門分野とする大学院博士課程在学者の応募をお待ちしています。

## 1. 募集人員

## 2. 応募資格

## (1) 特別研究員-DC1（大学院博士課程在学者）

【年齢】平成 18 年 4 月 1 日現在，34 歳未満（医学，歯学または獣医学を履修する課程に在学する者は 36 歳未満）

【身分】平成 18 年 4 月 1 日現在，我が国の大学院博士課程に在学し，次のいずれかに該当する者（外国人も含む）

区分制の博士課程後期第 1 年次に在学する者

一貫性の博士課程第 3 年次に在学するもの

後期 3 年の課程のみの博士課程第 1 年次に在学する者

医学，歯学又は獣医学系の博士課程第 2 年次に在学する者

～ において，平成 18 年 4 月に博士課程後期等に進学する予定の者を含む

## (2) 特別研究員-DC2（大学院博士課程在学者）

【年齢】平成 18 年 4 月 1 日現在，34 歳未満（医学，歯学または獣医学を履修する課程に在学する者は 36 歳未満）

【身分】平成 18 年 4 月 1 日現在，我が国の大学院博士課程に在学し，次のいずれかに該当する者（外国人も含む）

区分制の博士課程後期第 2 年次以上の年次に在学する者

一貫性の博士課程第 4 年次以上の年次に在学する者

後期 3 年の課程のみの博士課程第 2 年次以上の年次に在学する者

医学，歯学又は獣医学系の博士課程第 3 年次以上の年次に在学する者

ただし，平成 18 年 4 月 1 日において博士課程に標準修業年限を越えて在学することになる者も DC2 として応募できます

（COE 特別研究員制度支援大学院生募集要項より）

## 資料 3-10-3 支援大学院生による研究成果（原著論文）

1. 都築秀明，藤枝重治，坂下雅文，呉明美，成田憲彦，田中健，小嶋章弘，斎藤等：甲状腺癌の術後インタクト PTH 値の検討。耳鼻臨床。96 (12), 1103-1108, 2003,12.
2. 藤枝重治，田中健，東野正明，高橋昇，坂下雅文，意元義政，扇和弘，伊藤有未，山田武千代：花粉症と咳，アレルギー性副鼻腔炎について。耳鼻免疫アレルギー。23(3), 23-26, 2005,9.
3. Furukawa T, Lohith TG, Takamatsu S, Mori I, Tanaka I, Fujibayashi Y.: Potential of the FES-hERL PET reporter gene system -- basic evaluation for gene therapy monitoring. Nucl Med Biol. 33(1), 145-151, 2006,1.
4. Tanaka I, Furukawa T, Fujieda S, Kasamatsu S, Yonekura Y, Fujibayashi Y.: Double-tracer autoradiography with Cu-ATSM/FDG and immunohistochemical interpretation in four different mouse implanted tumor models. Nucl Med Biol. 33(6), 743-750, 2006,8.
5. Inaoka, Y., Yazawa, T., Uesaka, M., Mizutani, T., Yamada, K., Miyamoto, K.: Regulation of Nur77/NGFI-B gene expression in the rat ovary and in Leydig tumor cells MA-10. Mol. Reprod. Dev. (in press.)

（注）下線が支援大学院生

（高エネルギー医学研究センター資料より）

プロジェクト提案型研究の一環として，高エネルギー医学研究センターでは大学院生の積極的な受入・研究指導によって大学院生の支援を推進した（平成 17 年度国費留学生 1 名；平成 18 年度国費留学生 3 名および工学系研究科 4 名；平成 19 年度国費留学生 4 名および工学系研究科 7 名）。

計画 3-11 「中期計画に記述されていない措置等」に係る状況

工学部・工学研究科では，大学教育支援プログラムやG Pの支援の下に，実践的教育プログラムの整備・充実を図る。

工学部では，平成 17 年度現代G P「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」【P32 資料 1-5-11】の実施，また，平成 18 年度概算要求により，創成教育を担う先端科学技術育成センター【P31 資料 1-5-10】を設置し，学生の「課題提案能力」や「探求的課題解決能力の形成」等の創成教育を養うカリキュラムを充実させた【P33 資料 1-5-12】。

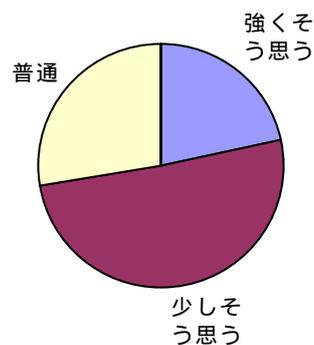
創造性・企画力を備えた人材を求める産業界の要請にも応えて【資料 3-11-1～2】，博士前期課程には，特別教育研究経費の配分を受けた「創業型実践大学院工学教育による人材育成」事業及び平成 19 年度大学院教育改革支援プログラム「学生の個性に応じた統合力を育む大学院教育」により，実践的な高度専門技術者を養成している。

資料 3-11-1 平成 19 年度就職先企業に対するアンケート調査結果

【設問】理工系教育について日頃色々とお感じになっていることと思います。下記の項目についてご意見をお聞かせ下さい。

創造性・企画力の育成をもっと重視すべき

回答	件数	回答率
強くそう思う	11	21.6%
少しそう思う	26	51.0%
普通	14	27.4%
あまり思わない	0	0.0%
全く思わない	0	0.0%



(平成 19 年度企業アンケート 調査結果 (自己点検・評価委員会資料))

資料 3-11-2 創業型実践大学院工学教育プログラム始まる (抜粋)

優れた「ものづくり」技術を武器に世界で活躍してきた日本が，現在，その地位を失いつつあります。それは，安い労働賃金を背景に中国などの発展途上国に生産の拠点・主体がどんどん移っていているためです。優れたものづくり技術さえも，生産拠点がなくなり受け継ぐ後継者がいないために，日本から消え去ろうとしています。このように，日本の産業社会は大きな変革期を迎えています。このような状況を打破するためには，大量生産・低コスト化を追求する従来型の生産活動から，斬新で付加価値が高く，少量生産でも利益率の高い開発型生産へと移行することです。そこには，専門知識だけでなく，経済・経営的視点とともに企画・展開力を持った技術系人材が必要です。

(福井大学HPより)

工学研究科では，即戦力としての知識・能力の育成に重点を置くべきとする企業の要請にも応えて【資料 3-11-1～2】，平成 18 年度に派遣型高度人材育成協同プラン事業に採択され，長期インターンシップにより，企業との連携の下に高度専門人材を育成している【P69 資料 2-2-4】。平成 18 年度は 10 名，平成 19 年度は 12 名 (内博士後期課程 2 名) の大学院生を派遣し，成果があったとの意見が寄せられた【P70 資料 2-2-5】。

## b) 「小項目3」の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

## (判断理由)

- 1.【学士課程】では、専門職としての実践的力量を形成するため、地域と大学との協働ネットワークの構築や高度技術者・医療人としての力量形成を目指し以下のようなカリキュラムのデザインを策定・推進した。平成15年特色GP「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の実施プログラムに基づく実践的教育能力を持った教員の養成(教育地域科学部)、組織改組に伴う教育課程の再編(教育地域科学部)等の評価結果に基づく教育課程の改善、教育モデルコアカリキュラムに準拠した新規の医学教育課程の導入(医学部)、「潜在的看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力獲得プログラム」の実施(医学部)や「原子力・エネルギー安全工学副専攻コース」の設置計画(工学部)等の社会的要請に対する適切な教育課程の整備、平成17年現代GP「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」の実施(工学部)や「テュートリアル教育」の積極的導入(医学部)等の探求的課題解決能力形成のための教育課程の整備などであり、それらの取組みを通して教育課程は随時整備・改善されている。
- 2.【大学院課程】では、「教育職員免許取得プログラム」の設置、平成17年教員養成GP「学校を拠点教員の協働実践力を養う大学院」プログラムの実施や「教職大学院」の設置(教育学研究科)、「北陸がんプロフェッショナル養成プラン」の実施(医学系研究科)、「国際共学ネットワーク特別コース」や「短期留学プログラム」の設置(工学研究科)、日本語教育プログラムの整備などの取組によって、社会人や留学生の受入体制が強化された。新規教育課程の設置(教育学および医学系研究科)、派遣型高度人材育成協同プランや創業型実践大学院教育プログラムを基盤とした平成19年度大学院教育改革支援プログラム「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」の実施や「原子力・エネルギー安全工学専攻」の設置(工学研究科)などの取組によって、国際化にも対応する社会的ニーズや学問的進歩に適切に対応した教育課程が整備された。
- 3.各学部・研究科では、GP採択プログラム等に基づく独自の教育を推進している。これらは、本学教育の個性化につながる最重要課題の一つとして位置づけられている。

小項目4「主体的、能動的に学ぶことのできる教育方法の工夫並びに評価を組み入れた教育方法の開発に努め、そのための教育研修を行う」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 4-1 **ウエイト** 「グループ学習、ディベート学習など多様な授業形態を取り入れ、学生同士の交流を促進し、学習へのインセンティブを高める。」に係る状況

教育地域科学部では、平成 15 年度特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」を展開し、ライフパートナーでの学生が出向いての不登校児の支援と授業でのカンファレンスや、探求ネットワークでの学生自身が活動を企画・運営・組織する学習に取り組んだ。また、教職総合演習等でもグループごとの探究・調査と全体での交流を行うなど、多様な授業形態を工夫し、交流や協働を通して学生の主体的な学習を促す上で、十分な成果をあげた。【P24 資料 1-5-2, 4-1-1~2】。

資料 4-1-1 ライフパートナー授業計画と学校担当者の評価

回数	日時	学校教育相談研究		学校教育相談研究（幼児理解）	
		内 容	担 当	内 容	会議
1	10月3日	オリエンテーション	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
2	10月10日	講義 発達障害を考える1（中村）	中村	学校教育相談研究 と合同	
3	10月17日	ケースカンファレンス1（各自7-9月の経過報告と問題）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
4	10月24日	至民中学校の授業研究会への参加（見てみよう公立中学校）		学校教育相談研究 と合同	
5	10月31日	講義 発達障害を考える2（松木）	松木	講義 幼児理解1（岸野）	
6	11月7日	シンポジウム（ライフパートナーを考える）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
7	11月14日	月曜授業			
8	11月21日	講義 不登校と発達障害を抱える学校（淵本・上野）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	
9	11月28日	地域別・グループ別相談会（淵本・上野・岸野・中村）		講義 幼児理解2（岸野）	有
10	12月5日	講義 不登校と発達障害を考える（廣澤）		学校教育相談研究 と合同	有紹介
11	12月12日	ケースカンファレンス2と事例報告1（坂井郡）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
12	12月19日	テレビ授業報告1（工学部）と事例報告2（福井市）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
13	1月9日	テレビ授業報告2（工学部）と事例報告3（丹南地区）	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
14	1月16日	テレビ授業報告3（工学部） レポート作成のための会議	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
15	1月23日	ケースカンファレンス3とレポートの書き方	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
16	1月30日	レポートの最終確認と提出	TA全員	学校教育相談研究 と合同	有
17	2月23日	ライフパートナー体験発表会			有
18		午前 10時より12時まで 全体発表 大2講義室 コメントータ（ 大学教授・特殊教育センター長・相談課長） 午後 13時より16時まで 各市町別発表 11・12・13・14講義室			

注意：工学部学生は、学校教育相談研究 を受講します。工学部学生はテレビ授業報告を行います。テレビ授業は前期・後期合わせて2回行います。事例報告では、2名報告してもらいます。その後ケースカンファレンスを行います。

（平成 19 年度ライフパートナー活動報告書）

ライフパートナーに対する学校担当者の評価（受入れ教員の担当、学校種、当該児童・生徒がかかえる問題）

コミュニケーション能力の不足が現員と思われる当該児童にとって登校を促さず、一緒に遊んだり活動してくれたりする大人として、ライフパートナーの存在は非常に大きかった。（担任、小学校、不登校）

相談室登校の児童たちなのでストレスが多く、その発散として、身体を動かすことを望んでおり、いつもその相手をしてもらっています。時には委員会活動を一緒にしてもらったり、時間を延長して相手になってくれたり感謝しています。（教頭、小学校、不登校）

本人の話し相手になってくれたことが大変よかったように思う。担任に言えないことでも気軽に話せるところがあった。（担任、小学校、軽度発達障害）

当該児童の良さ（長所）を引き出したり気づいたりしていただき、ありがたかったです。ゆっくりと優しく、当該児童のペースに合わせて支援していただきました。（担任、小学校、軽度発達障害）

体調がすぐれず外出することが少ないため、母親以外の人と話す機会が少ない。そのため、年の近いライフパートナーの方と過ごす時間は大変有効であった。生徒の表情も大変わらわらしていたようである。（教育相談担当、中学校、不登校）

引きこもりがちになっている児童にとって外部の人とのコミュニケーションはよい刺激になったようだ。友人的な関係がよかったのだと思う。（担任、小学校、不登校）

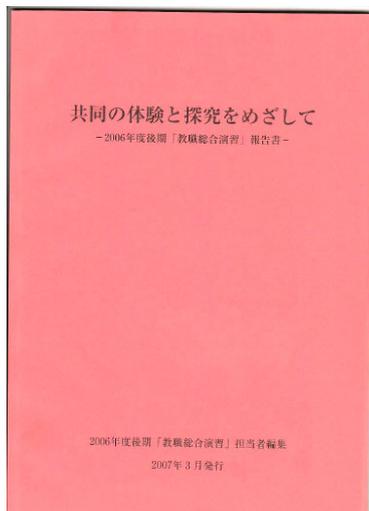
不登校生をお願いしたところ、上手に対応していただき、集1回登校できるようになりました。学生ならではの対応で対象生徒の笑顔がたくさん見られました。ありがとうございました。（教育相談担当、中学校、不登校）

基礎的な内容をきちんと板書し、一つ一つ確認しながら学習を進めていただき、ご自分の専門分野の魅力を生徒に伝えてくださったと思います。（教育相談担当、中学校、学習上の問題）

当該生徒が病気で急に欠席した際、相談室の他の生徒7～8人を対象に、理科のある単元の内容について解き方を説明してくれたことが何回かありました。大変分かりやすく、上手に説明してくれたので、生徒たちは一生懸命2時間ぶっ通しで取り組んでいました。（教育相談担当、中学校、不登校）

（平成 15 年度特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」実施報告書、平成 19 年 3 月）

## 資料 4-1-2 教職総合演習の内容と報告書



公開授業 教職総合演習「中間発表会」  
- 共同の体験と探究をめざして -  
平成19年11月26日(月)13:30~14:30  
場所:大1講義室(全ブロック一緒に発表します)

Aブロック 高山善行(言語教育講座)  
「福井大学版 キャンパスことば辞典」の構築  
代表グループ名:ザ・ソナタクラブ(代表福地美紀さん・音楽)  
テーマ:「キャンパスことば-学外系-」(お店, アルバイト関係など)

Bブロック 中田隆二(理数教育講座)  
「エネルギー・環境を考えるための科学的リテラシーとは?」  
B-1:僕たちの食べているものを調べよう  
B-2:ごみ問題の解消法を考える  
B-3:水

Cブロック 清水史郎(芸術・保健体育教育講座)  
「ニュースポーツを創造してみよう」  
C-1:ニュースポーツ1  
C-2:ニュースポーツ2  
C-3:ニュースポーツ3  
C-4:ニュースポーツ4

Dブロック 荒井紀子(生活科学教育講座)  
「自分らしさとジェンダー -男女共同参画社会について考えよう-」  
D-1:ジャム男組「女性の葛藤」  
D-2:Team田んぼ「これからの男女の生き方」  
D-3:アートレンジャー「SexとGenderのBorder」

Eブロック 清水泰幸(社会系教育講座)  
「戦争・地域紛争を考える」  
代表E-1 「パレスチナとイスラムにおける紛争から考える」  
代表E-2 「民族浄化の歴史を紐解く」

Fブロック 寺岡英男(発達科学講座)  
「動物園の科学教育プログラムに参加し,自らが動物の行動観察を行うとともに,観察会を組織しながら,子どもたちの学習やプログラムのあり方を学ぶ」  
F-1:「学習する場としての動物園」1  
F-2:「学習する場としての動物園」2  
F-3:「学習する場としての動物園」3  
F-4:「学習する場としての動物園」4

## 教職総合演習レポートから

今回の教職総合演習では,大きなテーマこそ設けられているが,そこから何についてみていくかは自由であり,それぞれが新たな学びを得るものであった。私が調査したキャンパス語であれ,ミネラルウォーターに関する調査であれ,ニュースポーツを創造する取組であれ,道徳的な縛りがなく,自由に考察できる。このことが,子どもたちの興味,関心を引き出し,自ら考え解決するという力を生み出すのではないだろうか。そして,そのためには,教師は広い分野に対して,広い知識を持つていなければならない。

教師は,特定の教科を教える存在,特定の教科を教えることができればよいという時代ではなくなった。特に,小学校は,人生の基盤となる時期である。教科書の内容にとらわれず,広い視野を持って子どもを教育していかなければならない。多くの言葉に触れ,人に触れる。その中には人生にとって大変重要なものが含まれている。そうした活動をする中で,子どもたちの可能性というものは限りなく広がっていくことになるだろう。

福祉などのテーマに沿って考えさせるのも大変重要であるが,教科書にとられないテーマで調査,考察することで子どもたちの可能性を広げることができる。そして,そのためには,教師は広い視野を持つていなければならない。私は教職総合演習の授業を通して,以上のことを考えた。(平成19年度後期「教職総合演習」報告書, P 72より抜粋)

教職総合演習の授業のねらいのひとつに,「総合的な学習の時間」の内容づくりに連動させるというものがあった。当初私たちは「総合学習の指導案づくり」を目指して活動していたが,子どもにエネルギーと環境を考えさせるような指導案を作るのは大変難しいことだと実感した。ただでさえ難しいエネルギーや環境問題について,子どもたちが主体的にそれらに取組むためには,わかりやすく,身近な問題を取り上げて考えていくことが必要であると思う。これから私が子どもを指導する立場になった際,どのように指導していけばよいのだろうか。これまでに実践されてきた例を調べ,まずは例にならって実施していくことから始めるべきだろう。また,「総合的な学習」は,今回ブロックで分けたように言語,環境,エネルギー,芸術,保健体育,生活,社会,科学,など様々な分野にわたって取組んでいくものである。視野を広げ,自分の専門以外でも指導できるよう準備が必要であると思った。中間発表,最終発表で他のブロックの発表を聞き,まだまだ知らないことが多く,興味関心のある内容も多かった。これから見聞を広め,知識を増やし深め,今後の指導に生かしていきたいと思う。(平成19年度後期「教職総合演習」報告書, P 79より抜粋)

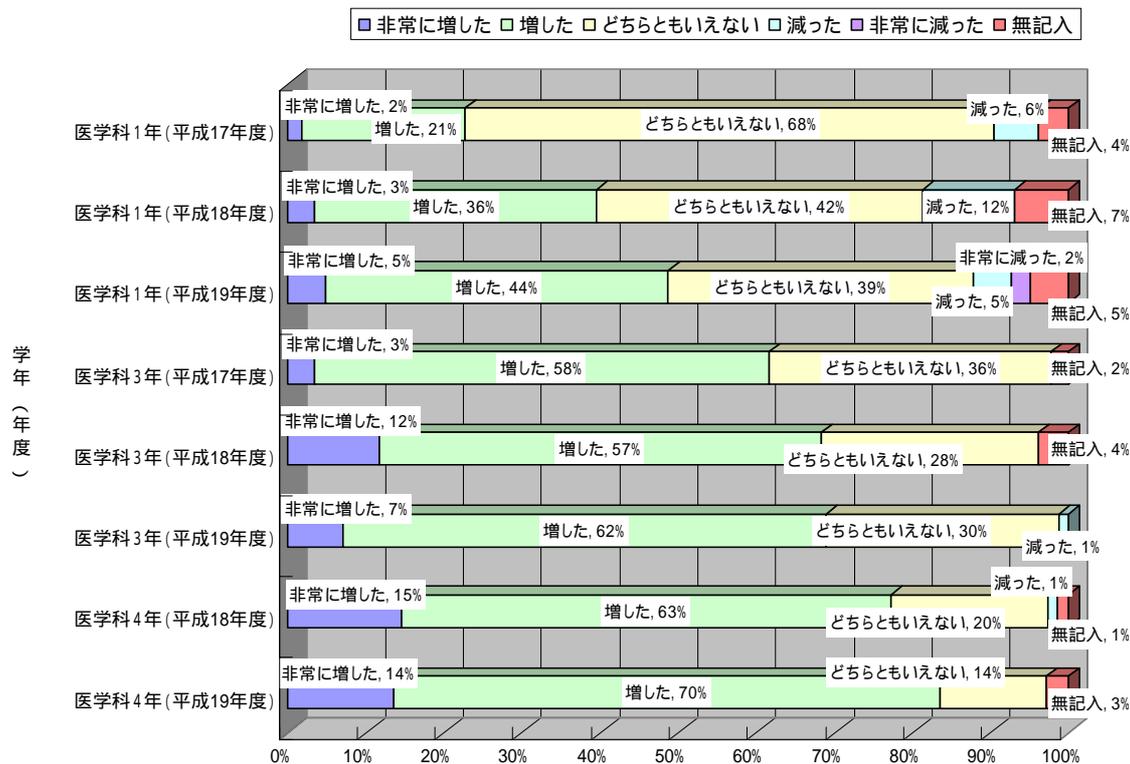
(教職総合演習報告書)

医学部では「テュートリアル教育」【P28 資料 1-5-6】や平成 16 年度現代 G P「医学英語と医学・看護学の総合的一貫教育」【P17 資料 1-3-10】プログラムにおける少人数学習などの多様な授業形態をカリキュラムに積極的に導入している。学生の意見聴取結果から鑑みると、これらカリキュラムは学生の学習意欲を高めていることが明らかである【資料 4-1-3】。

資料 4-1-3 医学・医療への意欲涵養の促進；学生に対するアンケート調査結果

医学部								
設問：これまでのカリキュラムを履修して医学・医療に対する興味または履修意欲が増えましたか？								
	非常に増した	増した	どちらともいえない	減った	非常に減った	無記入	合計	回収率
医学科 1年(平成17年度)	1	11	36	3	0	2	53	55.2%
医学科 1年(平成18年度)	3	31	36	10	0	6	86	86.9%
医学科 1年(平成19年度)	4	36	32	4	2	4	82	82.0%
医学科 3年(平成17年度)	3	50	31	0	0	2	86	92.5%
医学科 3年(平成18年度)	9	43	21	0	0	3	76	73.8%
医学科 3年(平成19年度)	6	52	25	1	0	0	84	85.7%
医学科 4年(平成18年度)	11	47	15	1	0	1	75	84.3%
医学科 4年(平成19年度)	14	72	14	0	0	3	103	100.0%

(注) 数字は回答者数を表す



(注) 数字は回答者数の割合(%)を表す

(資料「平成 17 年～19 年度医学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

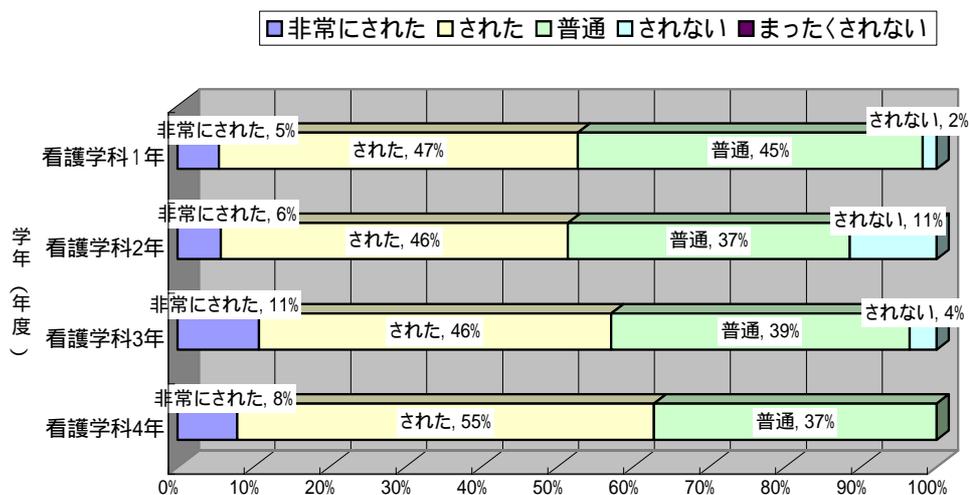
1 年，3 年及び 4 年生の結果を比較すると，学年進行と共に履修意欲の向上が見られる。さらに，同一調査対象の平成 17 年度 1 年生と平成 19 年度 3 年生，平成 18 年度 3 年生と平成 19 年度 4 年生で比較すると，高学年ほど履修意欲等の向上が認められる。従って，教育課程は年次推移のみならず，学年進行とともに学生に対して履修意欲の喚起度が向上している。

看護学科

設問：これまでのカリキュラムを履修して学習意欲，看護学や医療に対する意欲が刺激されましたか？

	非常に された	された	普通	されな い	まったく されな	合計	回収率
看護学科1年	3	26	25	1	0	55	91.7%
看護学科2年	2	16	13	4	0	35	59.0%
看護学科3年	3	13	11	1	0	28	43.8%
看護学科4年	4	28	19	0	0	51	76.1%

(注) 数字は回答者数を表す



(注) 数字は回答者数の割合(%)を表す

(資料「平成19年度 看護学科カリキュラム評価アンケート集計結果」より抜粋)

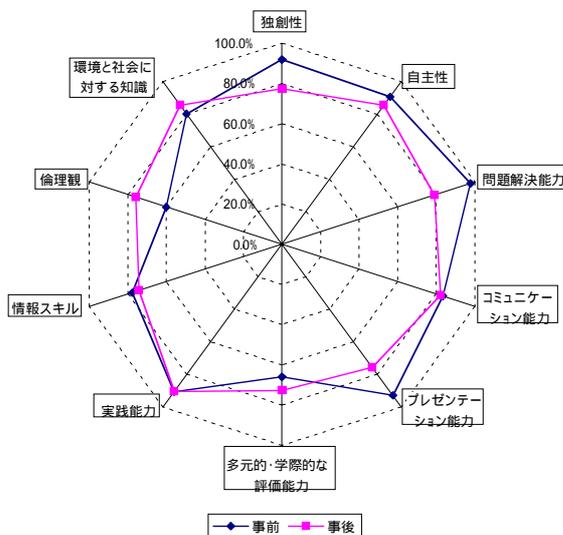
(医学部現況調査表)

工学部では、平成 16 度に「学際実験・実習」科目の新設【P33 資料 1-5-12】、更には平成 17 年度現代 GP「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」【P32 資料 1-5-11】の実施により、地域との交流を含めた学生同士の交流を促進するグループ学習・ディベート学習を積極的に導入した【資料 4-1-5】。「学際実験・実習」科目の授業学生の満足度は、年々向上している【資料 4-1-6】。

資料 4-1-5 「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」に関するアンケート結果

学生が取組前に身に付けたい能力（事前）と取組後に身に付いたと思った能力（事後）に関するアンケート結果は、殆どの期待に答えていることを示している。対象学生数は 149 名である。

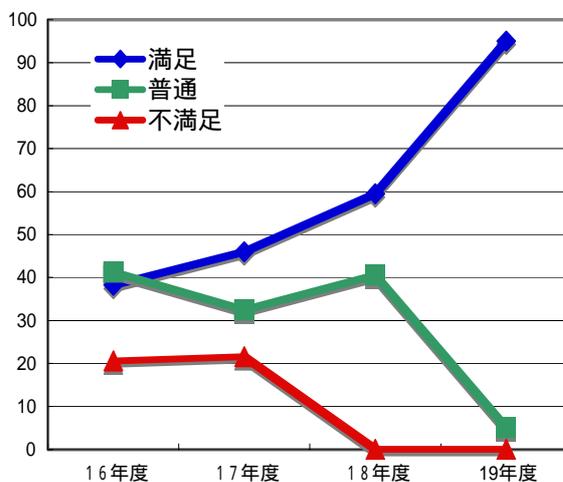
特に、約 82% の学生は、自主性を習得できたと回答しており、本プログラムは、学生の学習へのインセンティブを向上させた。



(平成 18 年度現代 GP 実施報告書)

資料 4-1-6 学際・実験実習に対する学生の評価

創成教育「学際実験・実習」履修者の満足度は、年々上昇し、平成 19 年度は 95% を越えている。

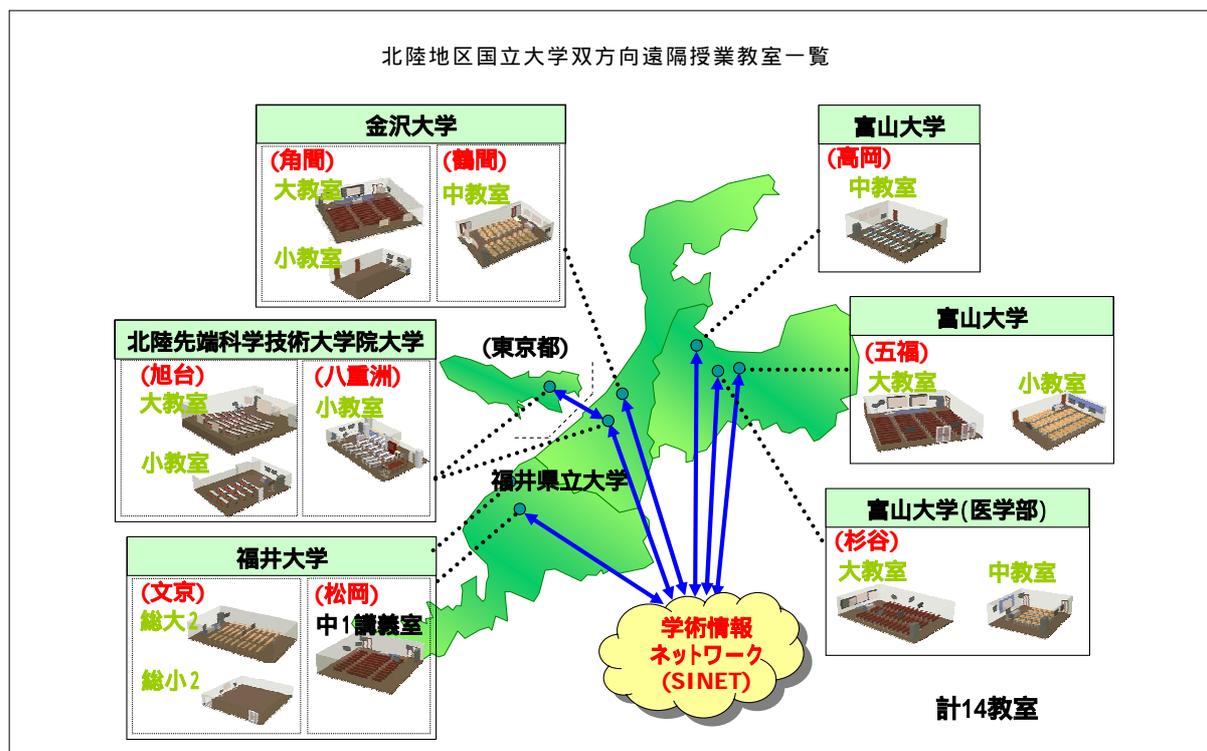


(学際実験・実習実施委員会資料)

計画 4-2 「教養教育，専門教育等の拡充を目的としたIT教育の拡大，e-Learning，遠隔教育の導入を図る。」に係る状況

北陸4大学双方向遠隔授業システムを利用して，教養教育や大学院教育の相互発信を行い，履修可能な科目数を拡充した【資料 4-2-1～2】。

資料 4-2-1 北陸四大学双方向遠隔授業システム



(事務局資料)

資料 4-2-2 福井大学における双方向遠隔授業システムを活用した授業実施状況

	授業科目名	受講者数	発信大学	受信大学
平成 18 年度	法学（医事法入門）（教養教育）	86	金沢大学	福井大学
	バイオテクノロジー（教養教育）	65	金沢大学	福井大学
	総合科目特殊講義「地域と人間」（教養教育）	46	富山大学	福井大学
	先端情報技術の近未来（教養教育）	40	金沢大学	福井大学
	コーヒーの世界（教養教育）	97	金沢大学	福井大学
	繊維製造プロセス制御（大学院）	40	福井大学	金沢大学
平成 19 年度	法学（医事法入門）（教養教育）	100	金沢大学	福井大学
	バイオテクノロジー（教養教育）	93	金沢大学	福井大学
	コーヒーの世界（教養教育）	92	金沢大学	福井大学
	北陸学総論（教養教育）	50	金沢大学	福井大学
	北陸学各論「北陸の企業と法」（教養教育）	23	金沢大学	福井大学
	総合科目特殊講義「地域と人間」（教養教育）	63	富山大学	福井大学
	現代経営学（大学院）	9	福井県立大学	福井大学
	マーケティング論（大学院）	19	福井県立大学	福井大学
社会学（共通教育）	(文京)	51	福井大学	福井大学
	(松岡)	50	福井大学(文京キャンパス)	福井大学(松岡キャンパス)

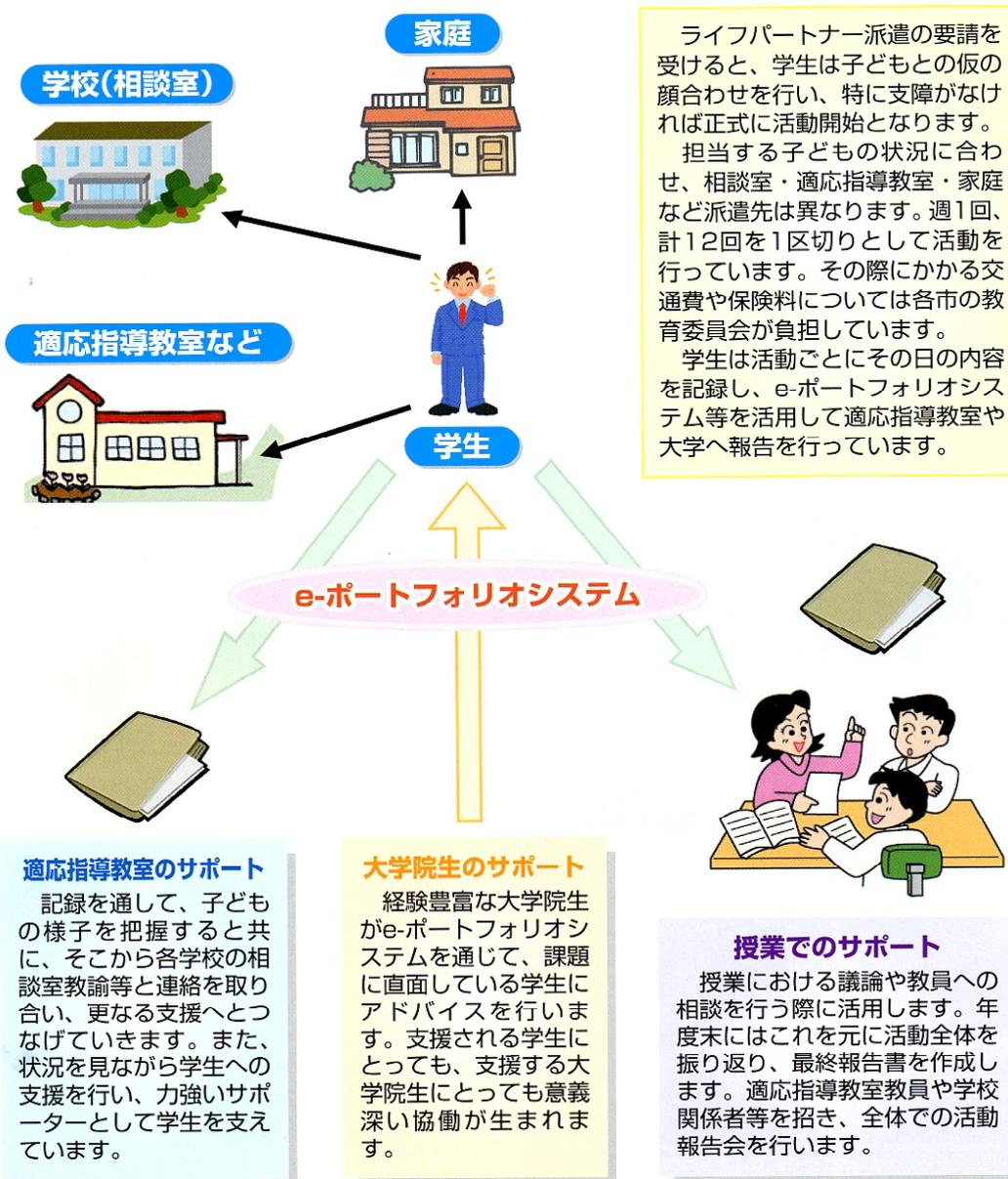
(事務局資料)

教育地域科学部では、e-ポートフォリオシステムの活用等による「教育実践研究」や「ライフパートナー」の授業などにより、実践能力に優れた教員養成を推進した【資料4-2-3~4】。同システムは、e-Learningとして学生から好評である。

資料 4-2-3 ライフパートナー事業の概要

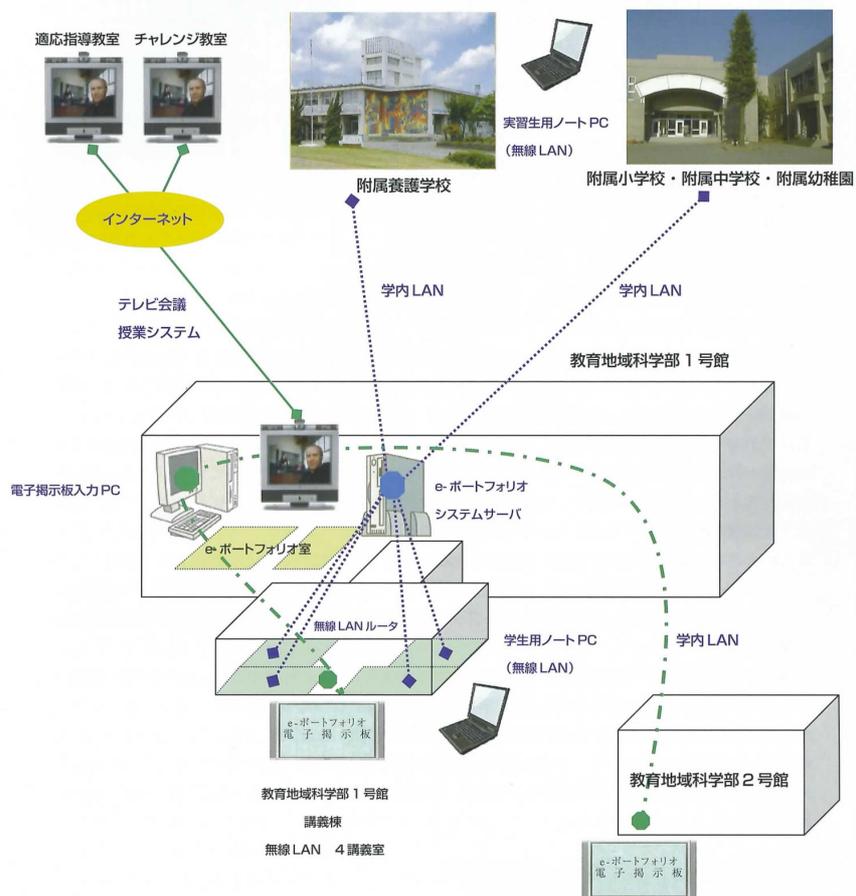
## ライフパートナー事業 —不登校・不応児支援の実践—

各市教育委員会からの求めに応じて、学生は不登校児や軽度発達障害児の家庭・学校の相談室・学級・適応指導教室に出かけます。そこでの活動内容をe-ポートフォリオを用いて、教育委員会や担任教諭に伝えていきます。一方、大学の授業「学校教育相談研究」に参加し、不登校や軽度発達障害に関する講義を受けると共に、定期的にケースカンファレンスで自分の実践内容を報告し、他の参加者から意見をもらい、次回からの実践を検討していきます。大学の授業には教育委員会の担当者等も参加し、学生にアドバイスを行います。



(平成15年度G P「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト実施報告書、平成19年3月」)

## 地域交流ゾーン(e-ポートフォリオシステム)の概要図



電子掲示板をみる学生



e-ポートフォリオにアクセスする学生



「教育実践研究」の授業でe-ポートフォリオの利用方法を学ぶ学生

インターネットを利用してネット上にポートフォリオのフォルダを設置。各自のフォルダに自分の学習物をファイリングし、自分の学習プロセスを跡付けていく。

### e - ポートフォリオを利用した学生からのコメント

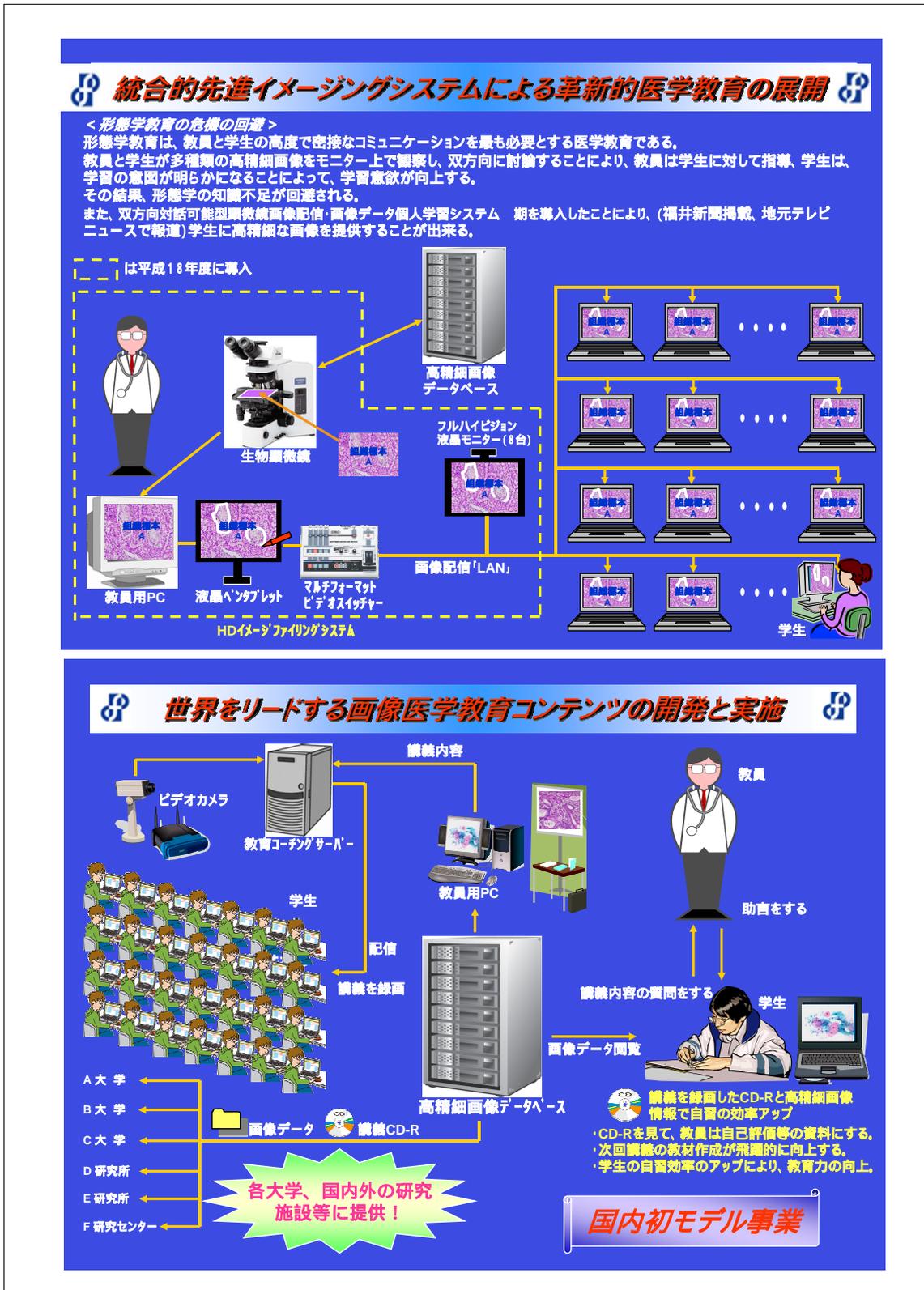
学生は昼間時間が取れないことが多いので、レポートの提出が出来なかったりするが、このシステムを使えば夜中であっても提出することができるので、便利だと思う。  
 プリントアウトしなくても済むので、プリンタが身近にない学生にとってはとても助かる。  
 過去のレポートなどについては紛失してしまうことが多いが、ここに保存しておけばいつでもすぐ直すことができるので良い。  
 自宅でも学校でも使える。場所を選ばないところがよい。  
 返事やコメントをもらえるのが良い。

医学部では、高度IT機能を備えた組織病理実習室の整備（平成18年度）【資料4-2-5～6】を踏まえた「総合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラムが平成20年度特別教育研究経費として予算化され、画像医学教育カリキュラムが拡大された。同カリキュラムは、革新的な画像医学教育として、国内初のモデル事業であることは特筆される。

資料 4-2-5 総合的先進イメージングシステム

教育 2

中項目 2 教育内容等「計画 4-2」



(医学部現況調査表)

資料 4-2-6 組織病理実習室（医学部）の整備

組織病理実習室



(平成 18 年度整備)

【授業科目】  
組織・各臓器の構成、位置関係、原因と病態、病理学実習ほか

【実習内容】  
ハイビジョンマルチモニターリングシステムによる組織・病理教育  
(双方向対話可能型顕微鏡画像配信・画像データ個人学習システム)

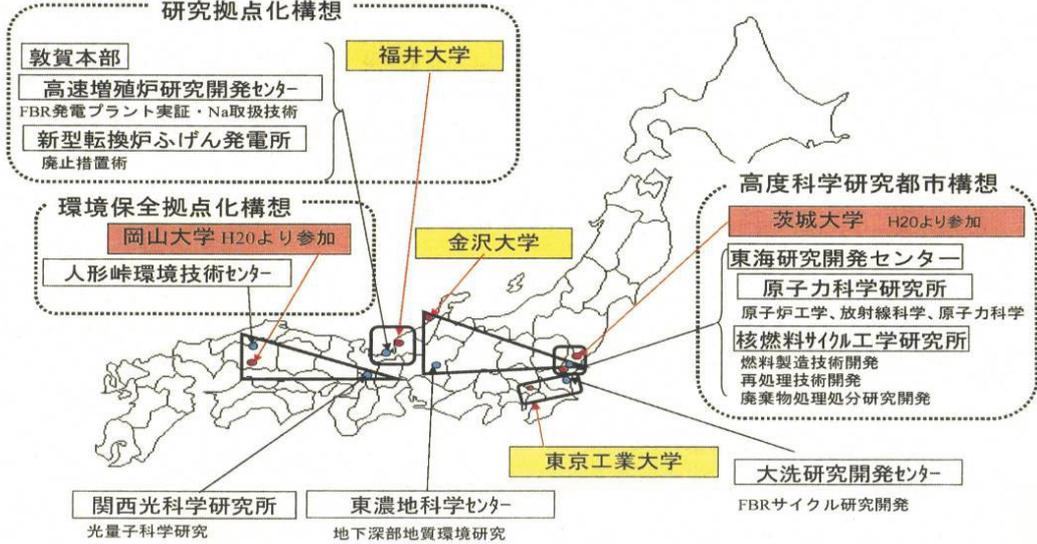
【主な設備】  
ハイビジョンカラーカメラ、イメージファイリングシステム、液晶ペンタタブレット PC、液晶ハイビジョンカラーテレビ、ビデオミキサー、液晶プロジェクター、大型スクリーンなど

(医学部現況調査表)

工学研究科では、福井県立大学との双方向遠隔授業システムを利用した創業型実践大学院工学教育プログラムにおける M O T (Management of Technology) 講義の実施や原子力教育大学連携ネットワーク(平成 19 年度設置)【資料 4-2-7】のもとでの遠隔連携講義を通じた大学間連携によって教育内容を拡充した。

資料 4-2-7 原子力教育大学連携ネットワーク概要

### 平成20年度からの連携ネットワークの参加大学



**研究拠点化構想**

- 敦賀本部
  - 高速増殖炉研究開発センター  
FBR発電プラント実証・Na取扱技術
  - 新型転換炉ふげん発電所  
廃止措置術

**高度科学研究都市構想**

- 茨城大学 H20より参加
- 東海研究開発センター
  - 原子力科学研究所  
原子炉工学、放射線科学、原子力科学
  - 核燃料サイクル工学研究所  
燃料製造技術開発  
再処理技術開発  
廃棄物処理処分研究開発

**環境保全拠点化構想**

- 岡山大学 H20より参加
- 人形峠環境技術センター

**参加大学**

- 福井大学
- 金沢大学
- 東京工業大学
- 大洗研究開発センター  
FBRサイクル研究開発
- 東濃地科学センター  
地下深部地質環境研究
- 関西光科学研究所  
光量子科学研究

**1) 創業型実践大学院工学教育プログラムに係る遠隔連携講座**

科目名	受講者数	備考
現代経営学	9	H19前期
マーケティング論	19	H19後期

**2) 原子力教育大学連携ネットワークに係る遠隔連携講座**

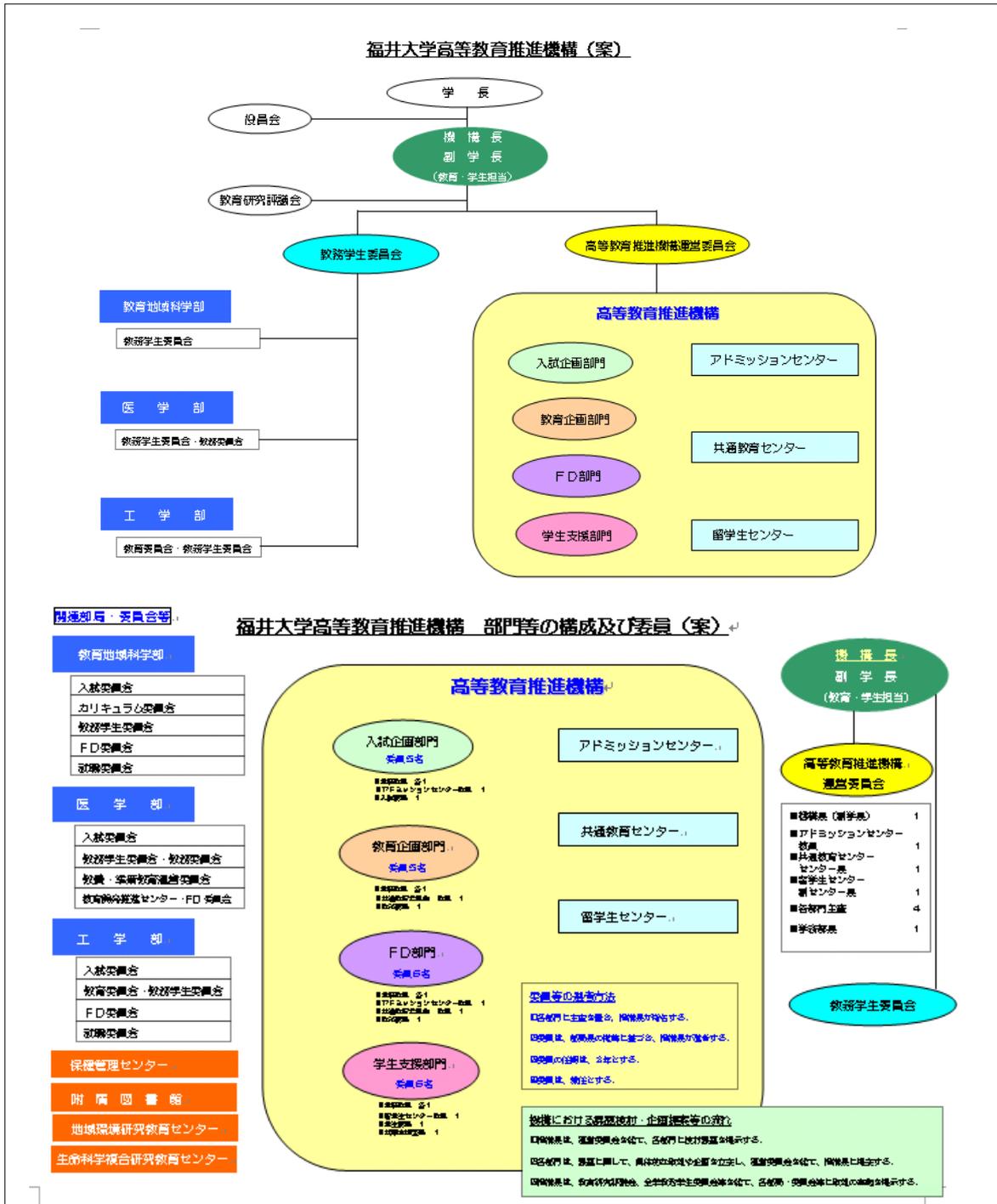
科目名	受講者数	備考
放射線計測	4	H19前期
エネルギー環境概論	5	H19後期

(工学部資料)

計画 4-3「教育方法や評価法を開発する大学教育に関するセンターの設置を検討する。」に係る状況

本学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援の強化を図ることを目的として、入試企画、教育企画、FD、学生支援の4部門からなる高等教育推進機構を設置する案を教務学生委員会において平成19年度にとりまとめた【資料4-3-1、P216資料3-5-1~2】。同機構内の教育企画部門では、従来からの各学部で個別に実施されてきた取組を統合・発展させ、評価を組入れた教育方法の開発に関する取組を企画・実施する予定である。

資料 4-3-1 高等教育推進機構の概要



(事務局資料)

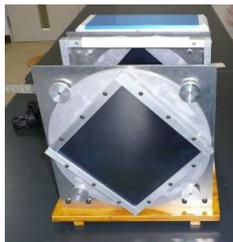
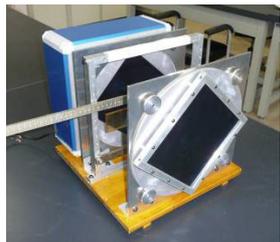
同機構の設置に先立ち、教材開発や本学独自のテキスト等の作成を推進するため、平成16年度より「競争的配分経費（教育に関する評価経費）」として「教科書等作成推進費」を設定することによって財政的措置を行った。学内より優れた教材開発等プロジェクトを学内公募し、これまで15件に及ぶ優れたプロジェクトを財政的に支援した【資料4-3-2】。その成果は報告書として公表され、幾つかは教育に活用されている【P156 資料4-3-3】。

資料4-3-2 「教科書等作成推進費」採択プロジェクト一覧

	テーマの名称	部局名	プロジェクト代表者
平成16年度	学際教育『宮沢賢治と非線形科学』の教科書作成	工学部	平田 隆幸
平成17年度	『福井から行く地質見学案内書』の作成	教育地域科学部	中島 正志
	機械工学科の実験指導書の改訂	工学部	機械工学科
	教育環境および物理 Museum の整備と公開	工学部	小野田信春
平成18年度	大学教育の改善と教材研究の新たな取り組み	教育地域科学部	宇野 文男
	新しい教材開発の取り組みと教育支援の国際化推進プログラム	教育地域科学部	黒木 哲徳
	福井大学のカリキュラムに即した線形代数学の教科書作成	工学研究科	小野田信春
	本学独自教科書の作成（電気回路の理論と計算法）	工学研究科	高橋 謙三
	Webを利用した日本語単語の表記定着のためのCALL教材作成	留学生センター	桑原 陽子
平成19年度	大学教育の改善につながる教育・教材パックの開発プロジェクト	教育地域科学部	宇野 文男
	全学的な取り組みによる新しい教材・教育コンセプト開発・実用化への試み	教育地域科学部	黒木 哲徳
	医学・看護学生の人間性探求を促し職業倫理観を高める人文系教材の整備と開発	医学部	宮島 光志
	教科書「ファイバー・アメニティ工学—専攻が目指す理念と方向性—」の作成	工学研究科	桜井 康宏
	工学部材料開発工学科専門教育科目「材料力学」の教材作成	工学部	田中 穰
	初級日本語学習者向けかな教材の作成	留学生センター	桑原 陽子

(事務局資料)

資料 4-3-3 教材開発の例（平成 19 年度「競争的配分経費（教育に関する評価経費）」実施報告書）

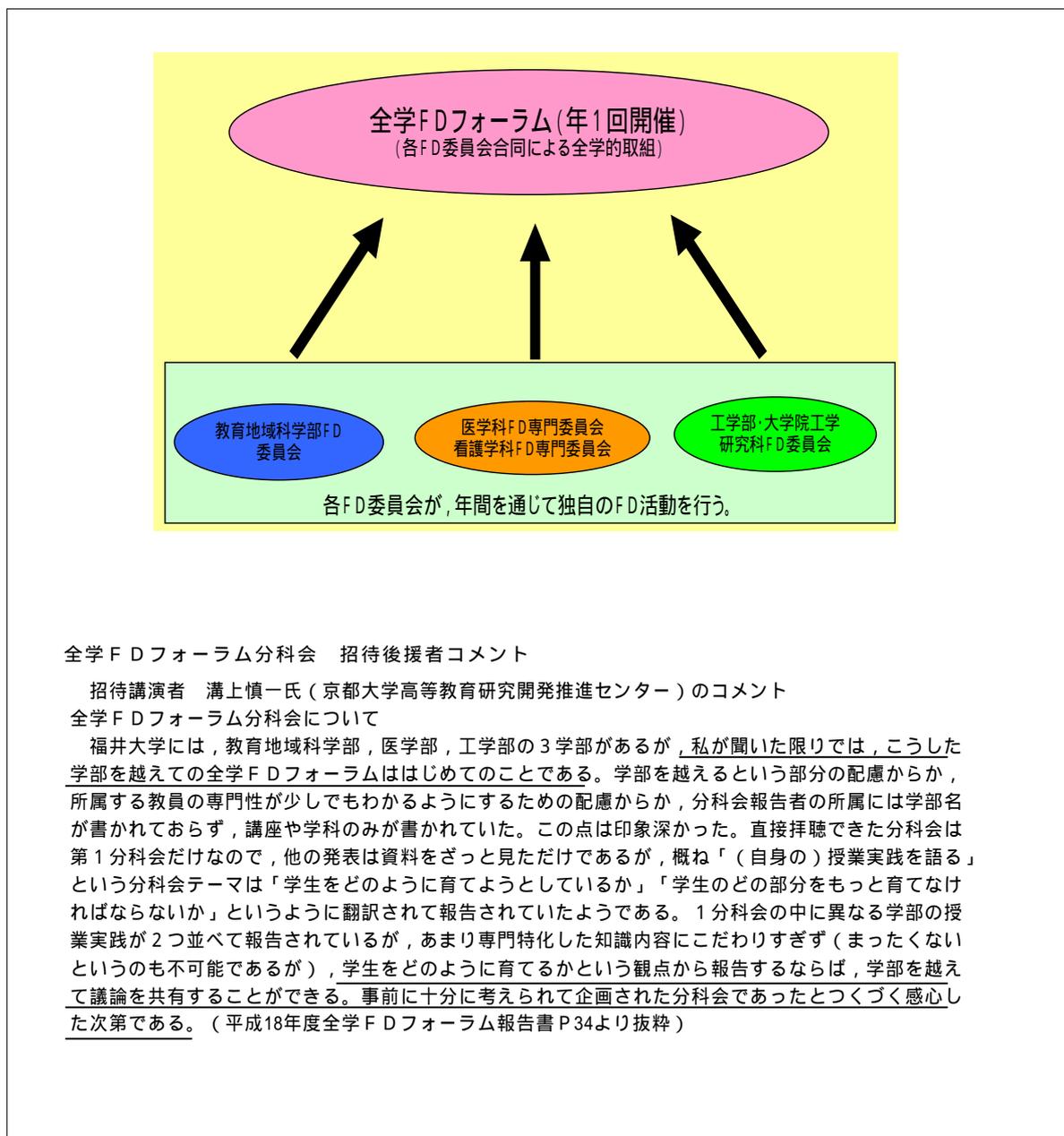
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	田中 穰(工学部材料開発工学科)
該当する中期目標・中期計画等	中期計画 大学の教育研究等の質の向上に関する目標・・・の措置 1. 教育に関する目標を達成するための措置(3) 教育の実施体制等・・・ 教材, 学習指導方法等に関する研究開発及び FD に関する具体的方策
「教育に関する評価経費」における要求事項	1. G P 申請準備推進費 2. 双方向遠隔授業支援システム活用推進費 3. キャリア教育・入試改善推進費 4. 学部間授業交流推進費 5. 教科書等作成推進費 ⑥. その他
テーマの名称	工学部材料開発工学科専門教育科目「材料力学」の教材作成
テーマの目的, 内容, 必要性	(目的) 工学部材料開発工学科では「材料力学」を開講している。その多くの単元において材料内部に発生する応力を取り上げて, 内部ひずみとの関係や図式化について解説する。そこで, 内部応力の存在を視覚的に認識できる教材を作成することが目的である。 (内容) 材料内部に力がかかる様子を視覚的に認識できるようにする教材として, 光弾性装置を作成する。作成したものを使って, プレゼンターを用いて材料内部の力を学生へ見せる。また, 力の作用点とひずみの発生との関係について解説する。 (必要性) 材料(教科書で挙げているのは, ほとんどが"はり(梁)"の場合)の内部で応力とひずみの関係が成立していることを, 講義という限られた時間と限られた状況の中でマスプロ式の伝達手段だけを頼りに, 理解してもらうためには, 視覚的に内部応力, 内部ひずみを示すことが有効である。
得られた成果	   <p>写真(1) 写真(2) 写真(3)</p> <p>作成した光弾性装置の外観を上の写真(1)へ示した。写真(3)に示すように材料の両側へ偏光フィルムを配置し, 荷重をかける。写真(2)のように光を通す材料が適している。写真(4)は荷重をかけた様子を示している。</p> <p>以上のように, 材料内部に力がかかる様子を視覚的に認識できる教材を作成した。</p>  <p>写真(4)</p>
今後の利用・活用等	平成 20 年前期からの講義において, 機会あるごとに演示教材として利用していく。

(平成 19 年度「競争的配分経費（教育に関する評価経費）」実施報告書)

## 計画 4-4 「FDを積極的に実施する。」に係る状況

各学部のFD委員会が連携して全学FDフォーラムを平成18年度から毎年実施し、その研修内容を報告書として広く公表している【資料4-4-1】。同フォーラムは、全国的にも例をみない全学的な取組として特筆される。なお、全学部の新任教員については、FD研修会への参加を義務付けている。

資料 4-4-1 全学のFD体制



(事務局資料)

各学部においてFD体制を整備し、それぞれのFD委員会によって講演会等のFD活動が積極的に実施されている。【資料4-4-2~5】。

資料4-4-2 教育地域科学部のFD活動について

FD研究会

年 度	内 容
16	テーマ「大学教育の改善と今後のFDのあり方を考える」 第1部 講演会:演題「これからのFD活動と大学評価のあり方」 第2部 講座別分科会
17	テーマ「FDの課題と授業改善の工夫」 第1部 講演会:演題「FDでいま何が課題なのか?」 第2部 講座別分科会
18	全学FDフォーラム「大学教育を直視し、自分の授業を省察する」

ワークショップ型授業FD研修

年 度	内 容
18	第1回 ワークショップ入門 第2回 応用編(学生を交えたワークショップ体験)

教材開発研究会の取組

年 度	内 容
18	・ワークショップ「教科専門の技」 ・シンポジウム「教材から考える学力形成ー豊かな学びを求めてー」

教材開発研究会セミナー

年 度	内 容
18	第1回 教材開発と海外での教育支援実践～大津波の被災地、インドネシア・バンドアチエ市での「物理教育ワークショップ」(福井大学・シヤクハラ大学共催)の報告会を兼ねて～ 第2回 地図で読み解く日本と世界 第3回 スウェーデンにおける現職教員教育の経験から 第4回 化学を生かした地域・学校-大学連携プログラム 第5回 米国プロジェクト・ゼロによる教育改革への挑戦・ハワード・ガードナーのMI理論(多元的知能理論)を中心として 第6回 IMP - 数学相互学習の紹介 第7回 ベルギーにおける高等美術教育の動向-学芸員養成コース(BMW/PCAプロジェクト)の紹介- 第8回 統計教育のいろいろ-福井大学から出前をした授業-
19	第1回 「リアルタイム教育モニタリング」 第2回 「ものづくり教育関連教材・教具について」 第3回 「音楽と数学」-【実験数学】によるカリキュラム開発の一事例- 第4回 批判的思考力を育てるカリキュラムと授業-アメリカの家庭科教育の事例に学ぶ- 第5回 「ポーランド・プロセスの高等教育制度改革と歴史教育の現在」-東欧諸国におけるホロコースト教育の事例に学ぶ- 第6回 「教職大学院担当の教員になって」-児童生徒に夢の卵を持たせたい- 第7回 近代成熟期の社会における学びの模索-授業から見える高校生のリアル-

(外部評価資料「教育地域科学部・大学院教育学研究科の現状」)

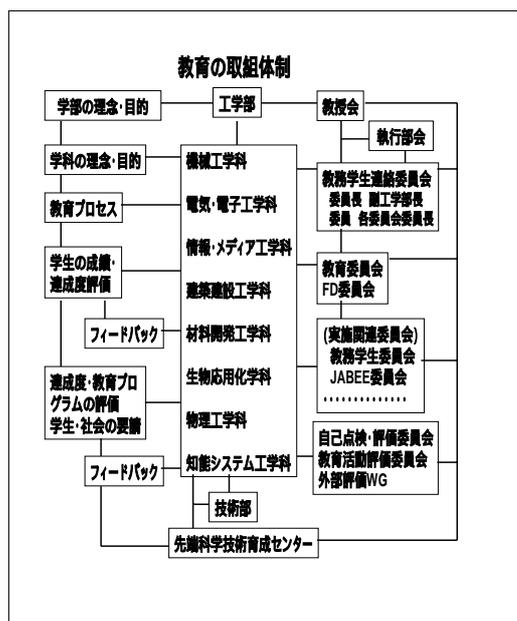
資料 4-4-3 医学部のFD活動について

年度	内 容
16	問題作成 (CBT)作成についてのワークショップ
	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会主催「FDを知る会」
	FD講演会 (工学部のFDの取組の現状と課題)
	授業改善のためのFD講演会
	クリニカルクラークシップにかかる講演会
17	問題作成 (CBT)作成についてのワークショップ
	授業改善のためのセミナー
	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会セミナー「実習に関するセミナー」
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (授業評価は本当に教育改善につながるのか?)
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (大学におけるカリキュラム改革ー看護学に焦点をあてて)
18	看護学科FD専門委員会セミナー「課題と取組に関する意見交換会」
	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (グルーワークでのファシリテティング技術)
	卒後臨床研修指導医講習会
	全学FDフォーラム
19	福井大学医学部チューター養成ワークショップ
	看護学科FD専門委員会セミナー講演会 (初年次教育について)
	公開授業「H18年度授業評価上位教員による公開授業」
	全学FDフォーラム

(医学部現況調査表)

資料 4-4-4 工学部教育の改善にむけたPDCA体制

教育委員会は教育改革・改善，FD委員会は教育手法の改善に特化した活動，教育の実施は教務学生委員会をはじめ，各種実施委員会が担当する。教育担当副学部長を委員長とし，各委員長で構成される教務学生連絡委員会は，毎月1回開かれ，全体を統括する。自己点検・評価委員会は各委員会に改善を求められることができる。



**Action**

- ・教務学生連絡会委員会を始めとする全委員会

**Check**

- ・自己点検・評価委員会
- ・教育活動評価委員会
- ・外部評価WG

**Do**

- ・教務学生委員会
- ・日常の教育を実施
- ・JABEE委員会
- ・教育実施内容の管理
- ・FD委員会
- ・FD活動

**Plan**

- ・教務学生連絡会委員会
- ・教育全般のプラン策定
- ・教育委員会
- ・教育改革・改善策の策定

(平成 16 年度教育活動評価報告書)

資料 4-4-5 工学部・大学院工学研究科のFD活動について(特色あるFD)

区 分	取 組
1.教育改善の仕組み・体制をつくる	卒業研究の評価法の検討(機械工学科)
	学習目標の達成度を評価するフィードバックシステム(電気・電子工学科)
	教育点検システム(情報・メディア工学科)
	エビデンスチェックシート(情報・メディア工学科)
	学科FD委員会の実施(建築建設工学科)
	オープン講義の実施(材料開発工学科)
	FD関連委員会(物理工学科)
	外書の講読に対するアンケート(物理工学科)
	FD合宿研修(知能システム工学科)
	講義ノート(知能システム工学科)
	オープン授業(知能システム工学科)
授業担当見直し(知能システム工学科)	
2.学生の意見を聞く,学生とのコミュニケーション	サイバー空間を用いた教育の改善(情報・メディア工学科)
	教育への社会や学生の要望の反映(情報・メディア工学科)
	知能システム工学入門セミナー(知能システム工学科)
3.学生の学力の把握ときめの細かい対応を行う	学生の目標達成度の(試行)(電気・電子工学科)
	入学時に化学・物理の試験実験と祖その利用(材料開発工学科)
	入試別合格者成績の調査(材料開発工学科)
	能力別クラス分けの検討基礎科目の補修(材料開発工学科)
	履修状況調査・指導(知能システム工学科)
進路ガイダンス(知能システム工学科)	
4.新しい授業を試みる	機械創造演習(機械工学科)
	学生の自発的なまちづくり活動に基づく創成教育(建築建設工学科)
	新教科(サイエンス寺子屋化学分野)の立ち上げ(選択科目)(材料開発工学科)
	学部4年生対象に重要科目の補修(材料開発工学科)
	実験室開放について(生物応用化学科)
	読書教育について(生物応用化学科)
	AO合格者に対する事前学習(物理工学科)
	物理博物館(物理工学科)
	ロボット工房(知能システム工学科)
	実践物づくり道場(知能システム工学科)
知能ロボット・アドバンスコース(知能システム工学科)	
5.コース選択・研究室配属を工夫する	卒業研究における研究室配属方法の検討(情報・メディア工学科)
	学生のコース選択決定方法に関する検討(建築建設工学科)
	研究室配属方法の検討(建築建設工学科)
	研究室の早期配属(知能システム工学科)
6.JABEEに関連したFD	カリキュラムの改定(機械工学科)
	JABEE関連のFD活動(情報・メディア工学科)
	JABEE(日本技術者教育認定機構)受審への取組み(建築建設工学科)
7.大学院の教育改善	博士前期課程改善WGによる大学院改革(機械工学専攻)
	産学連携教育活動(情報・メディア工学専攻)
	専攻の理念の策定とカリキュラムの検討(知能システム工学専攻)

(FD - 学科の取組 福井大学工学部・大学院工学研究科)

教員の経験交流を深めるため、共通教育センターでは「共通教育フォーラム」、工学部では「FDフォーラム誌」を定期的に発行し、全学的な啓発活動を実施している【資料4-4-6】。

資料4-4-6 共通教育フォーラム誌とFDフォーラム誌

共通教育フォーラム誌は年2回発行し、FDフォーラム誌は年4回発行して、工学部HPでも公開している。

福井大学(文京キャンパス)

創刊号 2005年12月  
「共通教育フォーラム」創刊に際して  
共通教育センター長

文京キャンパスの共通教育が実施されてから、今年度で7年目になります。その間、多くの教職員によって継続的な改善が図られ、今は当初の目的を凌駕するものがあります。平成14年度の中教審答申で謳われている教養教育の再構築は、ここでは既に実現されていると言って良いでしょう。その証は、今年度我々の取組が国立大学から唯一選ばれ、教育情報誌で紹介されていること、また、文部科学省「特色ある大学教育プログラム」に採択され、色々な大学から問合せがあることから伺えます。

しかし、我々の共通教育は、現在ますます進化しようとしています。来年度は、共通教養・副専攻科目(A群)4科目や情報処理応用コースが増設されます。ガイダンスの新たな取り組みや副専攻制度の改善、環境の整備も実施されます。実は、これらのアイデアは全て、構成員による共通教育センターへのメールやアンケートでの意見、あるいは提言、さらには日常的な会話に端を発しているものです。

教育の問題点を実感するのは、現場においてです。しかし、多くの場合、熱心な現場の教育論議も論議で終わりがちであることを、我々は長い間経験してきました。センターの大きな役割は、これからもそれらの問題を機敏に取り上げ、共有し、解決していくことであると思います。

この目的のために、今回、「共通教育フォーラム」誌を発刊することにしました。



学生座談会(第二回)を行いました



外部評価特集



優秀教員特集

2005年度の優秀教員に選ばれた先生方に「授業の玉手箱」について執筆していただきました。授業で大切にしていることや学びの工夫など、各人の教育改善について語っていただきました。

それぞれの先生方は、各分野の授業内容ごとに様々な工夫を行い、教育改善を試みておられます。先生方の取組に心から敬意を表すと共に、教育も多様なんだなと実感いたします。

その中でも、多くの共通点が見られたのも事実です。その一つは、「勉強」でしょうか。どの先生も熱意を持って取り組んでおられます。熱意は学生によく伝わると感じました。大変参考になるものでした。

(編集長 西島 邦雄)

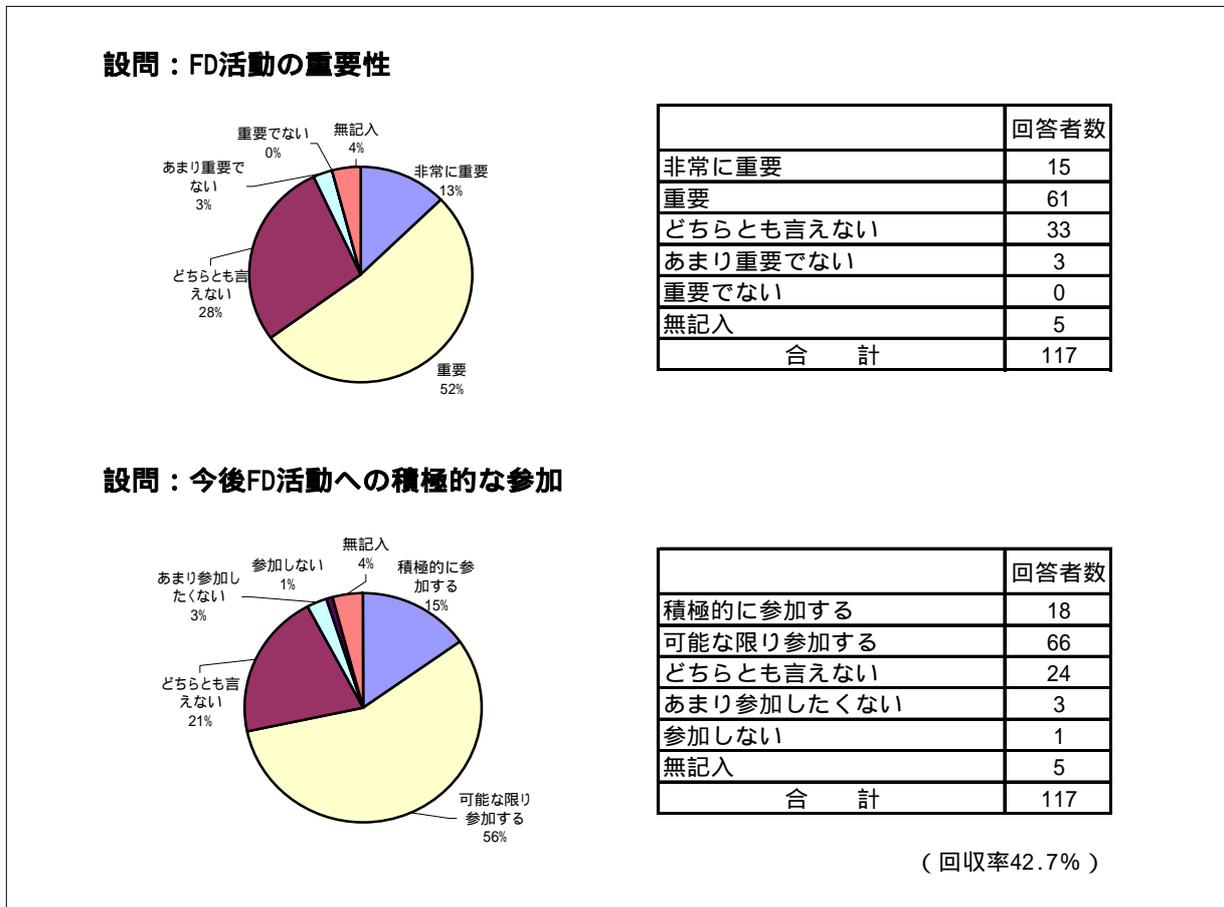
CONTENTS

- 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への展望 ..... 2  
西島 邦雄 (共通教育センター長)
- 私の授業観と実践 ..... 4  
藤生 洋 (機械工学科)
- 「玉手箱なんてありませんが」 ..... 5  
山田 敦史 (機械工学科)
- 「優秀教員」のどこが素晴らしいのか ～生体応用化学科の学生の声～ ..... 6  
石川 梨 (生体応用化学科)
- 日頃の授業に対する工夫と実践 ..... 7  
石井 雅也 (機械工学科)
- 「勉強がくり」の授業 ..... 8  
高橋 望 (機械工学科)

(共通教育フォーラム誌創刊号とFDフォーラム誌10～12号)

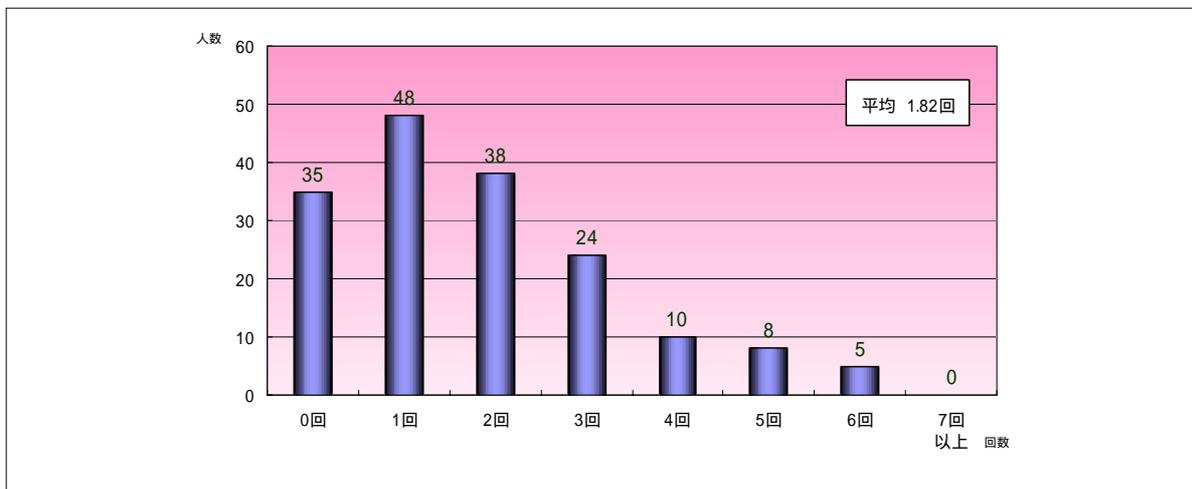
F D 活動に対する教員の意欲は高く , 教育内容・方法の改善が図られている【資料 4-4-7 ~ 8】。

資料 4-4-7 医学部教員の F D 活動に対する高い意欲



(「平成 19 年度授業改善 (学部教育) に係る教員アンケート集計結果」)

資料 4-4-8 工学部教員の F D 活動に対する高い意欲 (教員の F D 参加回数)

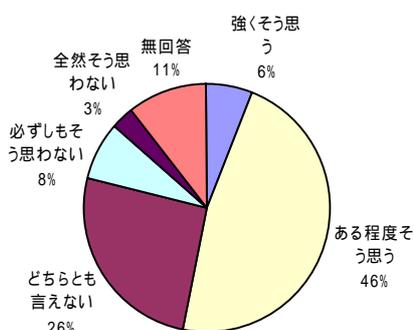


(平成 16 年度教育活動評価報告書)

各学部ともFD活動の一環として学生による授業評価アンケートを随時実施している【P35 資料 1-6-1】。その評価結果は教員にフィードバックされ、教育内容・方法が随時改善されている【資料 4-4-9】。

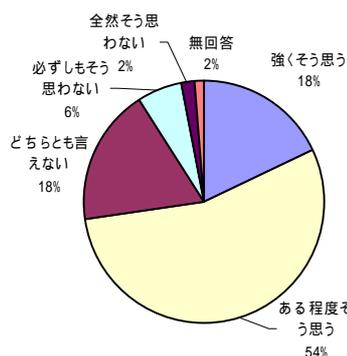
資料 4-4-9 授業評価の適切なフィードバック例（医学部）

**設問：前年の評価アンケート結果を参考に、授業方法の改善を試み、学生へのフィードバックができた。**



	回答者数
強くそう思う	4
ある程度そう思う	31
どちらとも言えない	17
必ずしもそう思わない	5
全然そう思わない	2
無回答	7
合計	66

**設問：今回の評価結果を受け、次の講義を改善する予定である。**



	回答者数
強くそう思う	12
ある程度そう思う	36
どちらとも言えない	12
必ずしもそう思わない	4
全然そう思わない	1
無回答	1
合計	66

(回収率64%)

**授業評価のフィードバックによる改善例（アンケートより一部抜粋）**

- ・ プリントを B4 A3orA4 に（学生の要望）。プリントに空きスペースを（学生の要望）。早口になるので内容を圧縮。一昨年に比べ昨年の学生達には好評で、基礎系教官 5 人のうちの 1 人に入った。
- ・ スライドを使って授業をしたが、内容を印刷したプリントを配布しなかったところ、配布してほしいという要望があったので、次年度配布した。
- ・ 板書で行っていたところ、わかりづらいなどの評価だったので、全てパワーポイントに変更しました。パワーポイントで時々インターネットの関連サイトやビデオを見せるなど、「飽きさせない」「眠らせない」ように工夫しました。配付資料をパワーポイントのプリントアウトで穴埋め式に変更しました。その結果、真剣に前を向いて授業を聞くようになりました。学生の反響は好評のようです。
- ・ 配布するプリントに、記入スペースが少ないという指摘あり。 記入スペースを増やした。
- ・ 進行スピードが速いと指摘を受け、進行をゆっくりとし、補講講義を 1 コマ追加した。
- ・ パワーポイントのスライドが早いとのコメントがあったので、メモが必要なスライドは、時間を十分とるように今年はしている。
- ・ 教材として映画を活用するさいに解説を丁寧に行うように改善した。分かり易かったと好評であった。
- ・ 学生が参加する講義になるよう実習的要素も取り入れた。反響は悪くなかったと思う。

(「平成 19 年度「学生による授業評価」のフィードバックに係るアンケート調査結果」より抜粋)

b) 「小項目 4」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 学生の「学び」への意識を喚起する様々な授業形態の積極的な導入による教育方法の工夫は、教育の質的向上を図るための本学の重要課題の一つである。平成 15 年度特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」、平成 16 年度現代 G P 「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」、平成 17 年度現代 G P 「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」などの実施プログラムに基づくグループ学習やテュートリアル教育等の積極的な導入・推進によって、学生の主体的・能動的学習態度が向上した。
2. 教育方法の工夫の一環としての e - ポートフォリオシステムによる e-Learning や革新的画像医学教育等の I T 教育の積極的な導入、並びに北陸 4 大学双方向遠隔授業システムや他大学院との連携に基づく遠隔授業の活用等による履修科目数の増加など、学部及び大学院教育が拡充された。
3. 評価を組入れた教育方法の開発等を推進する「福井大学高等教育推進機構」設置に向けた具体的検討がなされた。それに関連し、教材開発を推進するための財政的措置などによって、本学独自の教材が開発された。
4. 各学部及び全学における積極的な教育研修 ( F D ) 活動の実施、関連報告書の刊行などによる教員の教育改善努力内容の交流、学生や卒業生による教育評価の実施とそのフィードバックによって、教員は随時教育方法・内容等を改善している。

小項目5「学習目標とともに成績の評価基準を明らかにし、厳格かつ一貫性のある成績評価を行う」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 5-1「成績評価について教員の共通理解を深め、共通の指針の策定を目指す。」に係る状況

厳格かつ一貫性のある成績評価を行うため、全学部において成績評価基準を学生便覧・規程等に明示し【資料 5-1-1】、さらに各科目の成績評価基準等をシラバスに掲載するなど、教員及び学生に対して成績評価基準、教育目標等を積極的に周知した。

資料 5-1-1 福井大学学則

福井大学学則（平成 16 年 4 月 1 日 福大学則第 1 号）抜粋

（成績評価基準等）

第 46 条 各学部は、学生に対して、授業の方法、内容及び授業計画をあらかじめ明示するものとする。

2 成績の評価及び卒業認定については、厳格性・客観性を確保するために、その基準をあらかじめ明示するものとする。

（福井大学規則集より）

工学部では、J A B E E（日本技術者教育認定制度）受審に向けた取組として、教員の共通理解の深化や成績評価の共通指針の策定などを含め厳格な成績評価を実施した。本取組は、成績評価に関する他学部の共通指針策定のモデルとなっている【資料 5-1-2】。

資料 5-1-2 シラバスと教育目標の例（機械工学科）

科目名	単位数	開講時期		区分
数値流体力学	2	1 年 前期		選択
担当教員	研究室	電話（内線）	e-mail	基本キーワード
川端 信義	M-311	27-8536 (4122)	kawabata@mech.fukui-u.ac.jp	計算力学 熱流体力学
1. 授業の目標/2. 専攻の学習・教育目標との関連				個別キーワード
1. 授業の目標：有限要素法は、製品及び工具の設計、加工条件の決定、材質の子割等各種製品を生産する上で必要とされる情報を収集するための有力な手段である。近年多くの企業で導入され納期短縮やコスト削減に有効に活用されている。本授業では、塑性力学の基礎、有限要素法の定式化手法などについて学習し、有限要素法による変形解析技術の習得を図る。また、有限要素法による解析演習も実施し材料の変形を力学的に評価する能力を養う。				計算流体力学、有限要素法、流体力学、非定常流、移動境界問題
2. 専攻の学習・教育目標との関連：機械工学の主要分野である熱流体に関する計算力学に関する高度な専門知識を得、それらを諸問題の設定・解決に応用する能力を向上させる。 (A) 5%、(B) 60%、(C) 35%、(D) 0%				
授業の内容				
1. 第 1 章 差分と精度 (1)	前差差分、後差差分、中心差分、テラ展開、精度次数			
2. 第 1 章 差分と精度 (2)	数値的な精度、精度解析、陽的・陰的解法、			
3. 一次元移流方程式の数値計算法 (1)	移流方程式、一次風上差分			
4. 演習 (1)	一次元移流方程式の解析 (1)			
5. 一次元移流方程式の数値計算法 (2)	Lax-Wendroff 法、数値拡散、CIP 法			
6. 一次元移流方程式の数値計算法 (3)	CIP 法、スプライン補間			
7. 演習 (2)	一次元移流方程式の解析			
8. 移流方程式による界面捕獲	界面捕獲法			
9. 演習 (3)	界面捕獲、形状保存			
10. 多次元の移流方程式	Time-Split 法			
11. 演習 (3)	2 次元移流方程式、形状保存			
12. 非圧縮性粘性流体の数値解析法	MAC 法、圧力方程式、境界条件			
13. 演習 (4)	2 次元キャビティ流れ (中心差分、一次風上差分)			
14. 演習 (5)	2 次元キャビティ流れ (CIP 法)			
15. 総合演習				
授業方法				
プリントおよび板書を中心とした講義形式で行う。演習時には、与えられた課題を解くためのプログラムを作成する。				
学生の目標				
1. 熱流動解析の基礎である移流拡散方程式の導出と各項の性質について理解すること。				
2. 基礎式を利参加する際の精度について理解すること。				
3. 移流項の離散化手法について理解すること。				
4. 過渡現象の基礎方程式の時間積分法について理解すること。				
5. 上記の項目の応用問題として 2 次元流動問題を解くためのプログラムを制作できること。				
評価の方法				
演習課題 (40%) および総合演習 (60%) の課題提出による。 60 点以上を合格とする。				
教科書、参考書等		その他、注意事項、オフィスアワー等		
プリント		1. 授業内容に関する質問は随時受け付ける。		

**評価の方法**

演習課題 (40%) および総合演習 (60%) の課題提出による。  
60 点以上を合格とする。

J A B E E とは  
大学など高等教育機関で実施されている技術教育プログラムが、社会の要求基準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求基準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度

（工学部現況調査表より）

計画 5-2 「学習のねらいと成績評価の基準を明確にしてシラバスに記載する。」に係る状況

シラバスの記載様式は学習のねらいや成績評価の基準などの重要事項を独立項目として記載できる様式とした。さらに、シラバスは電子化してホームページ上で公開している。文京キャンパスでは学内及び自宅からネットワークを利用し、松岡キャンパスでは情報処理演習室端末からシラバスの検索・閲覧が可能となり、学習のねらいや成績評価の基準を学生が容易に閲覧出来るようにした【P165 資料 5-1-2, 5-2-1】。

多くの学生から学習のねらいや成績評価の基準等を知る上でシラバスは、参考になっているとの回答を得た【P167 資料 5-2-2~3】。

資料 5-2-1 統一化したシラバス様式

(シラバス冊子例)

科目名		単位数又はコマ数	開講時期
循環器系 (必修)		4.6 コマ	3 年次生後期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
李 鍾大	教授/保健管理センター/外科学(2)		事前にメール等で都合を確認
内木 宏延	教授/分子病理学		毎週火曜日 16:30~18:00
井俣 彰夫	准教授/外科学(2)		毎週金曜日 13:00~17:00
此下 忠志	准教授/内科学(3)		事前にメール等で都合を確認
森岡 浩一	講師/外科学(2)		毎週金曜日 14:00~17:00
森島 繁	講師/薬理学		毎週月曜日 16:00~17:00
宇隨 弘泰	助教/内科学(1)		毎週金曜日 9:00~12:00
中野 順	助教/内科学(1)		毎週金曜日 9:00~12:00
見附 保彦	助教/内科学(1)		毎週金曜日 9:00~12:00
荒川健一郎	助教/内科学(3)		
河合 康幸	金沢医科大学講師		
斎藤 正一	福井県立大学教授		毎週火曜日 14:30~16:00
池口 滋	滋賀県立成人病センター循環器科部長		毎週水曜日 16:00~17:00

**1 学習目標**  
循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病態生理、原因、症状、診断と治療を学ぶ。

**2 授業の内容**  
すべての医学生が臨床実習前に修得すべき必須の学習内容を精選し、かつ国家試験出題基準との整合性も考慮して作成されたコアカリキュラムにもとづいた授業内容である。すなわち従来の講義単位で行われていた授業内容を再構成し、循環器系を正常構造と機能、病態、診断そして治療へと効率的に学習することができるように基礎医学と臨床医学を関連づけた統合的なカリキュラムを編成した。さらに生涯にわたる自ら課題を探索し、問題を解決してゆく能力を身につけることを目的としてテュートリアル教育をとり入れる。

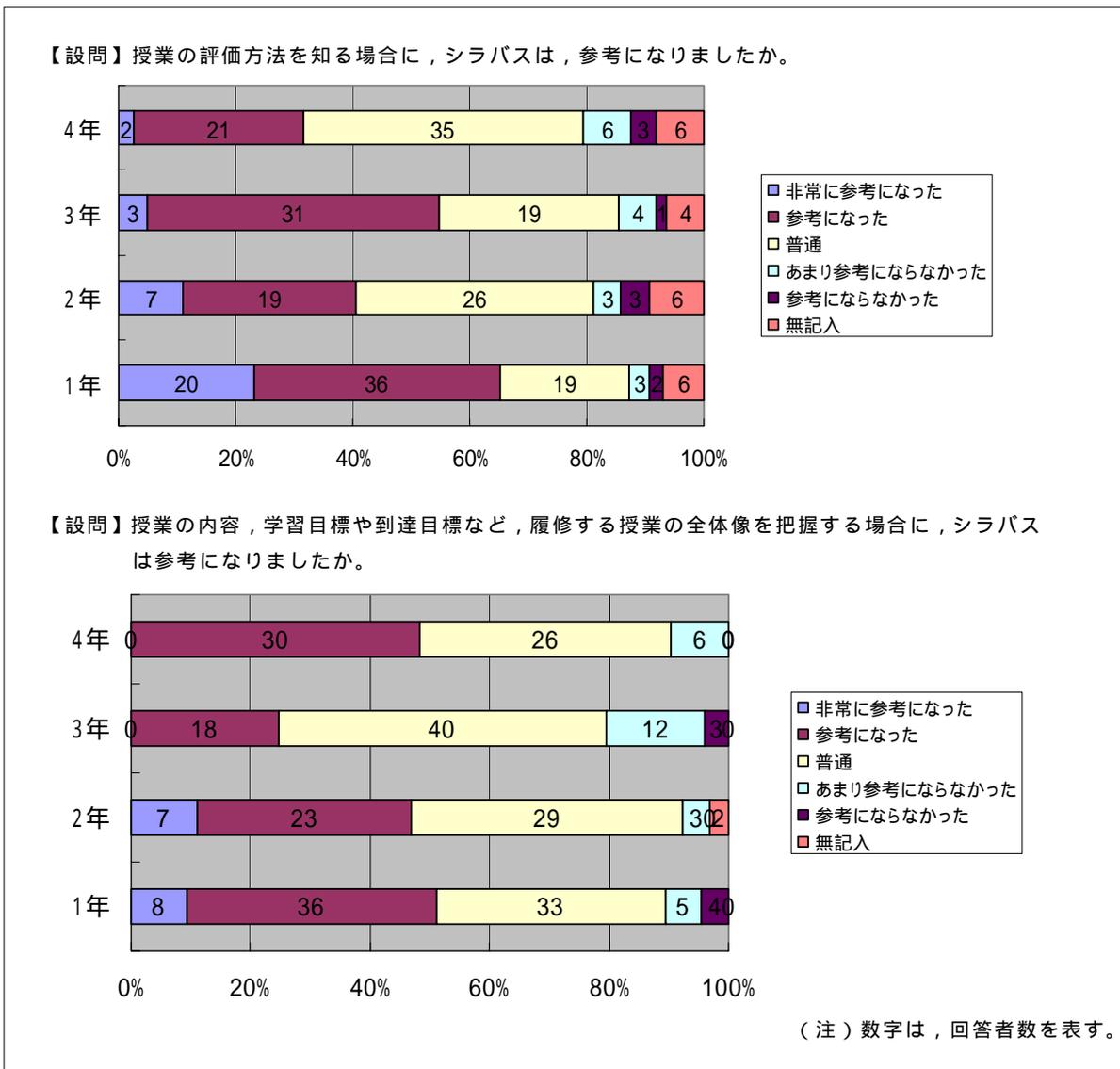
**3 授業の形式**  
循環器における診断と検査の基本にはじまり、心不全、狭心症と心筋梗塞、不整脈、弁膜症、心筋・心臓疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症の各項目について、病理学、薬理学、循環器内科学、小児循環器学、心臓血管外科学の各教員が上記カリキュラムに沿って講義30コマ、実習(病理学)4コマを担当する。さらに重要な臨床医学的な課題を選んでテュートリアル(12コマ)が実施されるが、課題を探索し、問題を解決してゆく過程を通じて、講義で修得した知識を有機的に活用するとともに、これをさらに発展させる能力を養い、来るべき臨床実習に備える。

**4 到達目標**  
1. 診断と検査の基本  
到達目標:  
1) 胸部 X線写真と断層心エコー図から心臓、大血管の画像診断を説明できる。  
2) 心カテータル検査(心内圧、心機能、シャント率の測定)と結果の解釈を説明できる。

(電子化したシラバス例)

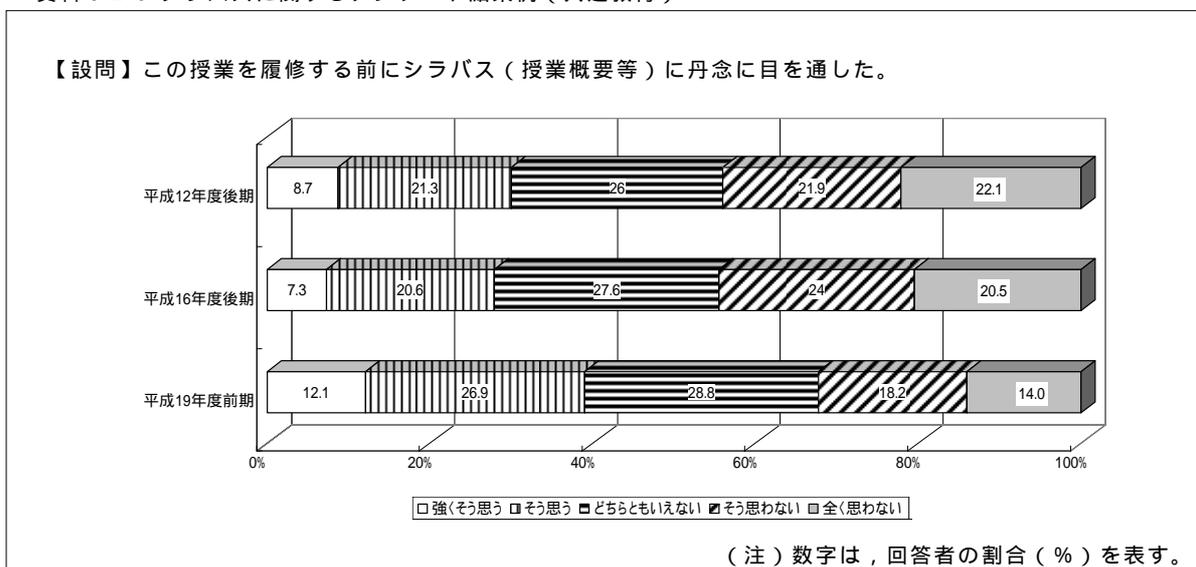
(事務局資料)

資料 5-2-2 シラバスに関するアンケート結果例（医学部）



(平成 19 年度実施 医学部資料)

資料 5-2-3 シラバスに関するアンケート結果例（共通教育）



(共通教育センター資料)

医学部ではシラバスを冊子体として全学生に配布しており、さらに共通教育センターでは学生の要望によってシラバス冊子体を平成17年度より配布した。また、工学部では各学科の履修の手引きにシラバスを収録している。このような取組によって、利便性の向上を図っている【P166 資料 5-2-1, 資料 5-2-4】。

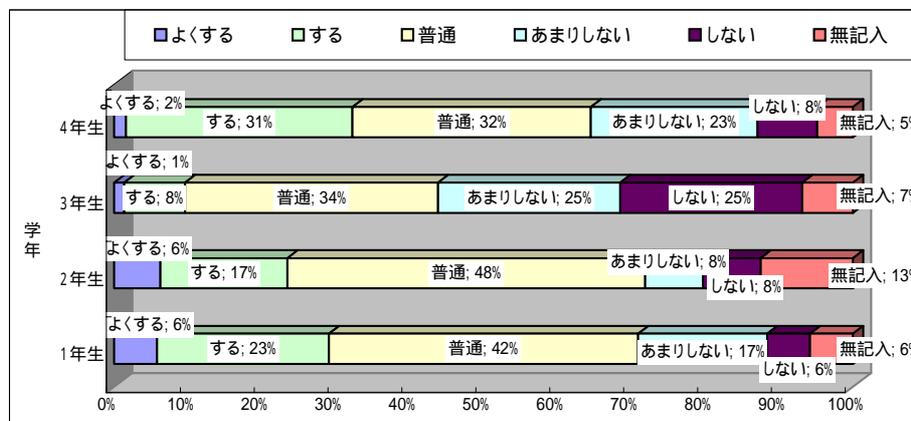
資料 5-2-4 学生によるシラバスの利用状況（医学部）

【設問】授業を受ける際に、シラバスをよく参考にしますか、よく利用しますか？

医学科

	よくする	する	普通	あまりしない	しない	無記入	合計	回収率
1年生	5	20	36	15	5	5	86	86.0%
2年生	4	11	31	5	5	8	64	60.4%
3年生	1	6	25	18	18	5	73	74.5%
4年生	1	19	20	14	5	3	62	59.0%

(注) 数字は回答者数を表す



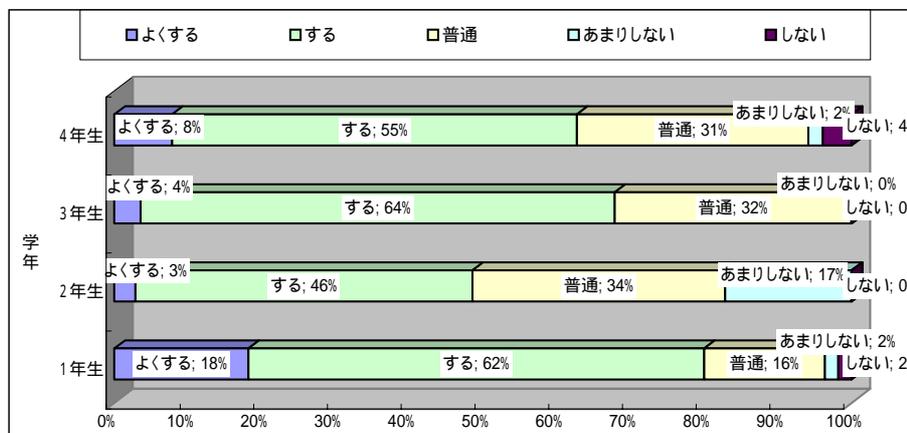
(注) 数字は回答者数の割合 (%) を表す

(資料「平成19年度シラバスに関するアンケート(医学科1~4年生)」集計結果より抜粋)

看護学科

	よくする	する	普通	あまりしない	しない	合計	回収率
1年生	10	34	9	1	1	55	91.7%
2年生	1	16	12	6	0	35	59.0%
3年生	1	18	9	0	0	28	43.8%
4年生	4	28	16	1	2	51	76.1%

(注) 数字は回答者数を表す



(注) 数字は回答者数の割合 (%) を表す

(医学部現況調査表より)

計画 5-3 「成績評価に基づき退学勧告制度の活用・導入について検討する。」に係る状況
---

各学部ではそれぞれの特性に応じて成績評価等に基づく退学勧告制度を検討し【資料 5-3-1】、現在工学部で退学勧告制度が活用されている【資料 5-3-2】。

資料 5-3-1 退学勧告に関する各学部での対応

教育地域科学部	検討の結果、退学勧告制度は導入しないこととし、助言教員による指導の充実を図ることとした。
医学部	進級判定における学年制の導入などにより、検討の結果、退学勧告制度は導入しないこととした。なお、各科の教務学生委員会、学生主任及び助言教員等によって、きめ細かい個別指導がなされている。
工学部	成績不振者には「就学状況のお知らせ」及び成績表を保護者に送付している。助言教員を中心に学生・保護者に対する個別面談指導を行っている。成績不振者については、「退学勧告に関する申合せ」の制度により勧告を行っている。

(事務局資料)

資料 5-3-2 退学勧告に関する申合せ

<p>退学勧告に関する申合せ</p> <p>(平成 16 年 4 月 1 日 制定)</p> <p>(趣旨)</p> <p>1. 退学勧告は、単位修得が極端に少なく成業の見込みがたない学生に対し、学生生活のあり方を考える機会を提供し、さらに当該学生の将来のために進路変更を勧めるために実施するものである。</p> <p>(勧告の方法)</p> <p>2. 退学勧告は、各学科において学科長名で退学勧告の文書を送付する方法で行うものとする。ただし、退学勧告対象者が前年度に勧告を受け、再度勧告することとなる場合には、工学部長名で行うものとする。</p> <p>(勧告の時期)</p> <p>3. 退学勧告は、単位修得状況の調査後、原則として年度末に行うものとする。</p> <p>(学生等との協議)</p> <p>4. 学生及び保護者等との協議は、各学科において行うものとする。</p> <p>(対象者)</p> <p>5. 退学勧告の対象とする学生は、病気その他やむを得ない事由がないにもかかわらず、年度末の全修得単位数が 2 年次 20 単位、3 年次 60 単位、4 年次(4 年を超えて在籍している者を含む。) 80 単位未満の者で、学科において退学を勧告することが適当と認めた者とする。ただし、当該条件に該当しない者であっても学科において必要と認めた場合には、勧告を行うことができる。</p> <p>(教務学生委員会への報告)</p> <p>6. 各学科は、退学勧告を行った学生の氏名等を速やかに教務学生委員会へ報告するものとする。</p> <p>(再入学)</p> <p>7. 退学勧告を受けて退学した者で、1 年以上経過した後に再入学の意志を持つ者には、再入学を認めることがある。この場合の退学前の既修得単位は、原則として再入学後の単位として認める。</p>
---

(事務局資料)

全学的に助言教員が、学生個々の修学上の問題に関してきめ細かく助言・指導を行う体制がとられている。特に成績不振の学生には、助言教員等が、学生本人の希望も踏まえ、進路変更も含めた助言・指導を行っている【資料5-3-3】。このような助言教員等の教育支援に対する学生の満足度は良好である【資料5-3-4】。

資料 5-3-3 学生指導助言要項

国立大学法人福井大学学生指導助言要項  
(平成16年4月1日 学長裁定)

(趣旨)  
第1 この要項は、国立大学法人福井大学学生が学生生活をおくる上で、修学及び生活上起こる種々の問題解決のために教員が行う指導助言について必要な事項を定める。

(助言教員等)  
第2 指導助言は、各学部学科・課程の指導方針に基づき、学年主任若しくは助言教員又は両者(以下「助言教員等」という。)で行う。

第3 助言教員等は、当該学部等の専任教員が当たるものとする。

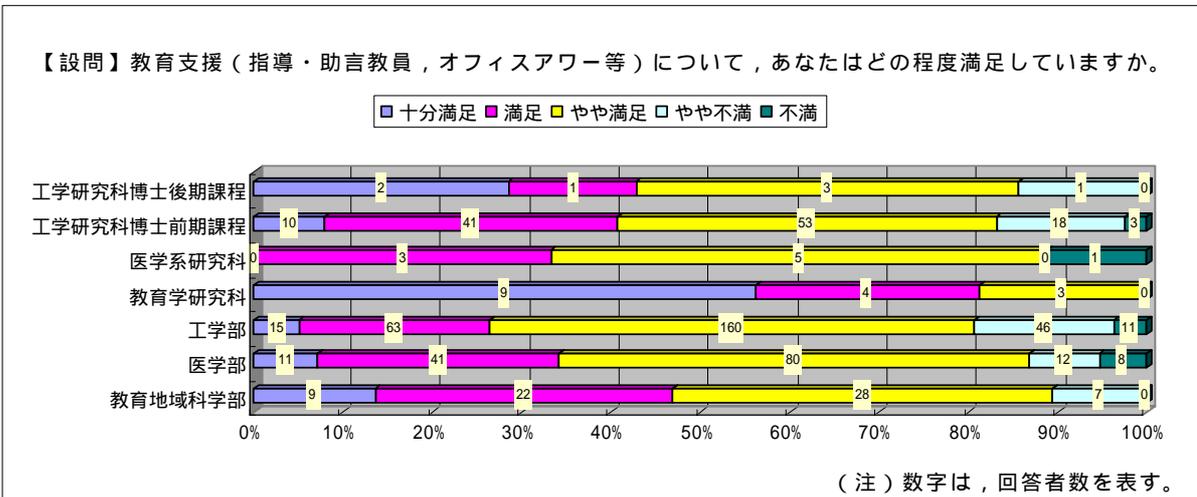
(職務)  
第4 助言教員等の職務は、次のとおりとする。  
(1) 担当する学生と個人又は集団で面談を行い、修学上及び生活上の相談に応じ、指導助言を行う。  
(2) 学生の指導助言に当たっては、必要に応じ関係の機関、委員会及び教職員と互いに密接な連絡を行い、最善の方法を導き出すよう努力するものとする。  
(3) 本学で定められた提出書類で助言教員の承認印が必要な場合には、学生と面談の上諾否について指導助言する。

(担当)  
第5 各学部においては、全ての学生に対し、当該学科・課程等の教員が分担して助言教員等の任に当たるものとする。

(選定方法等)  
第6 教育地域科学部学生は、毎年度始めに、学生が所属する課程(コース)等で予め指定された教員から、助言教員1名を選び学部長に届け出るものとする。  
第7 工学部学生には、学生が所属する学科で予め助言教員を指定する。  
第8 医学部医学科学生には、各学年に学年主任(主として修学面を担当)1名を指定し、かつ、助言教員(主として生活面を担当)を予め指定する。  
第9 医学部看護学科学生には、各学年に学年主任2名を予め指定する。

(工学部・大学院工学研究科規則集より)

資料 5-3-4 指導・助言教員の教育支援に対する学生の満足度



(平成19年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査)

## b) 「小項目5」の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である

## (判断理由)

1. 厳格かつ一貫性のある成績評価を行うため、成績評価基準を学生便覧及びシラバス等に記載・周知した。特に記載方法を統一化したシラバスに成績評価基準や各科目の学習目標等を明確に記載した。更に、電子化及び冊子体での配布などによるシラバス活用の利便性を向上させた。
2. 工学部では、成績評価に関する共通理解の深化や共通指針の策定を含め、J A B E E 受審に向けた取組が推進されている。
3. 学年主任・助言教員制度の整備（全学部）や退学勧告制度の運用（工学部）などによって、学生に対するきめ細かな教育支援がなされている。なお、これら支援に対する学生の満足度は良好である。

## 中項目2の達成状況

## (達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

## (判断理由)

1. アドミッション・ポリシー等の入試情報の積極的な広報、アドミッション・ポリシーに応じた多様な入学者選抜方法の実施・点検・改善等、さらに社会人や外国人留学生への門戸を広げる様々な方策によって、少子化・総受験者数減少の中、入学志願者・入学者数は社会人や外国人留学生を含め高く維持された。
2. 学士課程では、評価結果や社会的要請に対応した教育課程の改善・再編、並びに探究的課題解決能力形成に資する適切な教育課程の整備がなされた。大学院課程では、教職大学院の設置など社会的要請や学問的進歩に適切に対応した教育課程が整備された。これら教育課程の編成を基盤として、現代G P、特色G P、大学院教育改革支援プログラム等の教育支援プログラムにおいて10件のプログラムが実施されたことは（採択数は国立の総合的な大学法人中3位）、本学の教育内容等が優れたものと評価された証左である。
3. 各G P採択プログラムにおけるグループ学習など多様な授業形態や遠隔教育の積極的導入、積極的な教育研修の実施並びにシラバスによる公表などを一環とする適切な成績評価などによって授業形態・学習指導方法は改善された。
4. 本学教育の個性化につながる最重要課題の一つとして、各学部・研究科ではG P採択プログラム等に基づく独自の教育を推進している。

## 優れた点及び改善を要する点等

### (優れた点)

平成 16 年度現代 G P「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」、平成 17 年度現代 G P「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」、平成 17 年度教員養成 G P「学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院」及び平成 18 年度派遣型高度人材育成協同プラン「地域産業との連携による派遣型高度人材育成」の各取組が採択されており、教育理念等に応じた教育課程を編成するための具体的方策として本学の取組は高く評価され、優れている。(計画 3-3, 3-5, 3-8~9, 3-11)

### (改善を要する点)

該当なし

### (特色ある点)

平成 19 年度には「がんプロフェッショナル養成プラン」における「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」、大学院教育改革支援プログラムにおける「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」及び「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」における「潜在看護師と就業看護師の相互学習を基盤とした臨床看護実践能力獲得プログラム」がそれぞれ採択され、さらに平成 20 年度からの「教職大学院」の設置など、社会的要請に対する本学の対応は適切であり、今後の成果が期待できる。(計画 2-2, 3-4~6)